取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。

取扱書は車の中に保管しましょう。

このたびはHARRIER HYBRIDをお買い上げいただき、ありがとうございます。

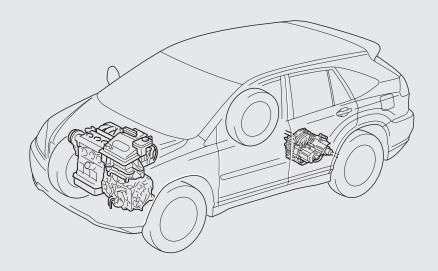
本書は**ハリアーハイブリッド**の取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
・ＨＤＤナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の取扱書も併せてお読みください。
・トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。
・装備については、販売店でカタログをご請求ください。
・ご不明な点は、担当営業スタッフにおたずねください。

●保証および点検整備については、「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
●トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網/お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
●取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートと共にお車に大切に保管してください。
●お車をゆずられるときは、次のユーザーのために、この取扱書およびメンテナンスノートをお車に付けておいてください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

ハイブリッドシステムについて

ハリアーハイブリッドは、モーターとガソリンエンジンを組み合わせたトヨタハイブリッドシステムⅡ(ＴＨＳⅡ)を採用しています。さらにモーターで後輪を駆動する電気式4ＷＤシステム(E-Ｆｏｕｒ)を組み合わせることにより通常のガソリンエンジン4ＷＤ車と同等の発進・加速性能を実現しつつ、画期的な燃費向上と排出ガスのクリーン化を可能にしています。

ハリアーハイブリッドを安全・快適にお使いいただくために、本書をしっかりとお読みください。
ハイブリッド特有の説明(通常のガソリン車とお取り扱い方法が異なる内容)がある箇所には HYBRID マークが付けてあります。また、P.564**「ハイブリッドさくいん」**も参考にしてください。

ハイブリッドシステムの無料チェックを1年に1回（5年間）実施いたします。
ハリアーハイブリッド購入販売店をご利用ください。

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。
とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので、必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこのお車にお乗りいただく方のために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転装置の取り扱い

ドアの開閉、シート、シートベルト、ハイブリッドシステムの始動方法、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第4章：室内装備の取り扱い

エアコン、オーディオ、室内装備品（サンバイザー、カップホルダーなど）の取り扱いを説明しています。

第5章：安全・快適装備の解説と注意

ハイブリッドシステム、ＳＲＳエアバッグ、ＡＢＳなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第6章：お車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境にやさしい経済的な運転方法などについて説明しています。

第7章：メンテナンス

お車の手入れの仕方と日常点検について説明しています。

第8章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。

警告

記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること

注意

記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること

イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには、下記のマークが記載されています。

してはならない行為。

その他の表示

「知っておくと便利なこと」・「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています。

知っておくと便利なこと。
知っておいていただきたいこと。

ハイブリッド特有の説明（通常のガソリン車とお取り扱い方法が異なる内容）がある箇所には下記のマークが記載されています。

HYBRID

ハイブリッド特有の説明があります。

操作説明(3～8章)の見方

操作説明（3～8章）の基本的な読み方について説明しています。

タイトル
階層により区別してあります。

★
パッケージ等により装備の有無が異なることをお知らせします。

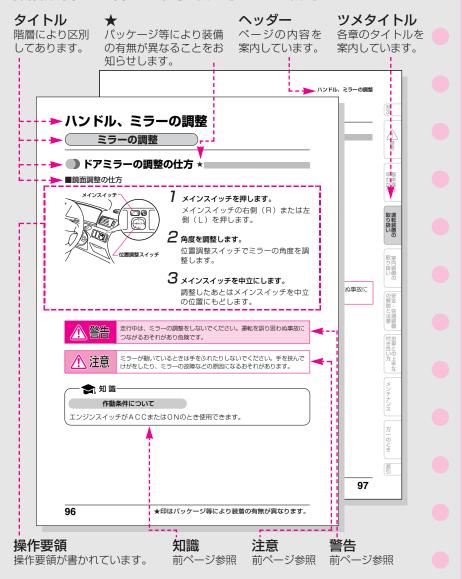
ヘッダー
ページの内容を案内しています。

ツメタイトル
各章のタイトルを案内しています。

操作要領
操作要領が書かれています。

知識
前ページ参照

注意
前ページ参照

警告
前ページ参照

■本書では新計量法の施行に伴い、国際単位系（略称ＳＩ単位）を基本に記載し、従来単位を｛　｝内に記載してあります。

＊このページはサンプルですので記載内容は実際のお車とは異なります。

検索方法について

本書では、お客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、
次のような工夫がしてあります。

タイトルからさがす

6

- 「目次」
- 「ツメタイトル」
- 「各章のはじめの目次」

取り付け位置からさがす

8

- 「イラスト目次」

名称からさがす

556

- 「五十音さくいん」

警告灯からさがす

565

- 「警告灯さくいん」

症状からさがす

556

- 「五十音さくいん」
  （色付き文字の項目）

目　次

イラスト目次

インストルメントパネル

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

グローブボックス　389
助手席ＳＲＳエアバック　418
マルチインフォメーションディスプレイ　285
ＨＤＤナビゲーションシステム
別冊「ＨＤＤナビゲーションシステム取扱書」参照
非常点滅灯スイッチ　318
エアコン　328
ステアリングスイッチ　370
運転席ＳＲＳエアバッグ　418
ドット表示式
マルチインフォメーション
ディスプレイスイッチ　291

SRS AIRBAG

運転席ＳＲＳ
ニーエアバッグ　418
パーキングブレーキペダル　260
ドアミラー調整／格納スイッチ　240
シートヒータースイッチ　199
オーディオ　338
シガレットライター　388
パワーバックドアメインスイッチ　169
発炎筒　528

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

イラスト目次

室　　内

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

イラスト目次

車　両　外　観

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

警告

1 安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

1. 点検整備実施のお願い

HYBRID

**点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。**

①点検整備を必ず実施してください。

●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
日常点検（P.494参照）や定期点検など、点検整備の詳細については、「メンテナンスノート」をお読みください。
- 定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、12か月毎に実施する点検です。定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。

●点検整備は自動車の健康診断です。
定期的な点検をおこない、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、末永く車と付き合っていくうえで最も大切なことです。

●点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼き付きなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）を超えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。

●日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。

HYBRID

②車検、点検する場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、感電など生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●車検、点検する場合は、整備モードに切り替える必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

2. お出かけ前の注意

お出かけ前に、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①窓ごしなど車外からのハイブリッドシステムの始動は絶対におこなわないでください。

●思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座っておこなってください。

②走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときは、半ドア警告灯（P.283参照）が点灯すると同時に半ドア警告表示（P.294参照）がでます。

③フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などが付いているときは取り除いてください。

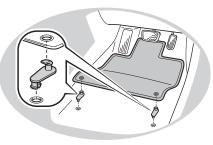
●外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

④運転席足元、運転席下にものを置かないでください。

●空缶などがあると、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤フロアマットはお車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

⑥助手席や後席に荷物を積み重ねたり、トノカバーの上に荷物を置かないでください。

●急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●荷物はラゲージルームに安定した状態（例えば、ラゲージルーム前方に均等に）で置いてください。

⑦燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑧ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

●ロックせずに走行すると、ボンネットが開いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音や臭いや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油のもれたあとが残っているとき
- メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき

⑩お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

- 飲酒運転は法律で禁止されています。
- 飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⑪エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

- ハイブリッドシステム始動時、ファンなどに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。

3. 燃料補給時の注意

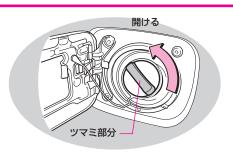
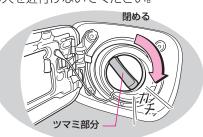
燃料を補給するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①指定以外の燃料を使用しないでください。

●指定燃料は無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合、無鉛レギュラーガソリンでも使用できますが、エンジンの出力低下等の現象が発生します。
●指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用するとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

②燃料補給時には次のことを必ずお守りください。

●ハイブリッドシステムは必ず停止してください。
●車のドア、窓は閉めてください。
●タバコなど火気を近付けないでください。
●フューエルリッド・フューエルキャップを開けるなど給油操作をおこなう前に、車体などの金属部分に触れて体の静電気除去をおこなってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。

●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。
その音が止まってからゆっくり開けてください。

●給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください。(再帯電することがあります)
●給油口には静電気除去をおこなった方以外の人を近付けないでください。
●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわし、確実に閉まっていることを確認してください。

●車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
●セルフ給油所で給油する際は、少量継ぎ足し給油をおこなわないでください。給油口から燃料が吹きこぼれる場合があります。
●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

③給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください。

●燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

この車は構造上、通常の乗用車に比べ車両の直前、ななめ前方および後方が確認しにくいので、発進時は、車両のまわりの状況をより十分に注意してください。

①発進前に車のまわりの安全を十分確認してください。

●駐車後発進するときは、車のまわりの安全を十分確認してから発進してください。

●後退するときに十分な視界が得られない場合は、車からおりて後方を確認してください。

●信号待ちなどで停車したときは、いつもまわりの状況に目を配り、安全を十分確認してから発進してください。

●ガソリンエンジンが停止している状態から発進するときは、ガソリンエンジン音がしないため歩行者、自転車、付近の人や車が車両の発進や接近に気付かない場合があるため、安全を十分確認してから発進してください。

5. 走行するときの注意

走行するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①走行中は“パワー”スイッチに触らないでください。

●走行中、誤って“パワー”スイッチを押し続け、ハイブリッドシステムが停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②走行中はハンドル位置やミラー、運転席シートの調整はしないでください。

●調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

●ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

●運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

⑤ブレーキペダルに足をのせたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

●ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥下り坂ではシフトポジションをⒷにしてください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

⑦車を少し移動させるときも、必ずREADY（走行可能表示灯）が点灯した状態にしてください。

●READYが点灯した状態でないと、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READYが点灯していない状態で、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧ガソリンエンジンが停止している状態での走行には十分注意してください。

●ガソリンエンジンが停止している状態から発進するとき、またはモーターだけで低速走行しているときは歩行者、自転車、付近の人や車に十分注意してください。

●ガソリンエンジンが停止している状態での走行は、ガソリンエンジン音がしないため歩行者、自転車、付近の人や車が車両の発進や接近に気付かない場合があります。

⑨ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●パワーステアリングモーターが過熱により損傷するおそれがあります。
●停車中に微低速走行時にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいまでまわした状態を長く続けたときには、モーターやコンピューターが熱くなり過ぎることを防ぐため、ハンドル操作が重くなることがあります。
この場合、しばらくの間ハンドルを操作しないでおくと、ハンドル操作が正常に復帰します。

⑩ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。

●ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは、法律で禁止されています。
●電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。

⑪ぬれた路面や積雪路、凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●急激なエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

⑫冠水した道路は走行しないでください。

●冠水した道路を走行すると、ハイブリッドシステムが停止するだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
- エンジン・トランスアクスル・デフなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

⑬湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。

●外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

⑭スタック※したときは

●スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。

●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤ等）の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

●スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスアクスルやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
- シフトレバーをⒹまたはⓇに確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- 過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
- 過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってからブレーキ操作をしてください。
- 数回おこなっても脱出できないときは、本操作を中止してください。

●スタック脱出には、次の方法が有効です。
- タイヤ前後の土や雪を取り除く。
- タイヤの下に木や石などをあてがう。

●けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。

⑮洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。

●ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⑯走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が飛ばされ、頭などを強く打ち、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑰窓やムーンルーフから手や顔を出さないでください。

●走行中、手や顔を出していると、車外のものなどにあたったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ムーンルーフの開口部に腰かけないでください。ルーフがへこんだり、万一のとき車から投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑱ドアガラスやムーンルーフを閉めるときは、他の人の手や頭などを挟まないように注意してください。

●ドアガラスやムーンルーフに挟まれると、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑲グローブボックスや小物入れのフタを開けたまま走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑳フロントウインドゥの撥水機能付ガラスは、ワイパーにかわるものでありません。

●降雨時などは、一般の車と同様、ワイパーを作動させ、ガラスの水滴を取り除くようにしてください。
とくに、以下のようなときは、ガラスに水滴が付いたまま走行すると、水滴が乱反射を起こして、視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 逆光時
- トンネルなどの暗い場所から出たとき
- 夜間、街路灯の下やトンネルなどの明るい場所に入ったとき

㉑ウインドゥガラスにアクセサリーを取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上にものを置いたまま走行しないでください。

●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

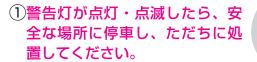
㉒大きな段差がある場所では慎重に走行してください。

●次のような場所を走行するときは、バンパーを損傷するおそれがありますので、スピードをおとして慎重に走行してください。
- 駐車場の出入り口などの段差のある場所を通過するとき。
- 立体駐車場のスロープなど勾配が急な場所を走行するとき。
- 輪止めなどのある場所や、路肩に沿って駐停車するとき。
- 凹凸やわだちのある道を走行するとき。
- くぼみ（穴）などを通過するとき。
- 平坦な道から上り坂・下り坂に進入するとき、または上り坂・下り坂から平坦な道に進入するとき。

6. 走行中、異常に気付いたら

HYBRID

走行中、異常に気付いたら、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、ハイブリッドシステムなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。（P.272参照）

②ブレーキ警告灯（赤）が点灯したまま走行し続けないでください。

●警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。
- READY（走行可能表示灯）点灯中、パーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき、またブレーキ警告灯の点灯と同時に警告ブザーがなったとき
  この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
- ブレーキ警告灯がＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき
  この場合、ＡＢＳ＆ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

③ハイブリッドシステムが停止したときは、落ち着いて操作してください。

●ハイブリッドシステムが停止したときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。
この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

④走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。
急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
●次のようなときはパンクやバーストが考えられます。
- ハンドルが取られるとき
- 異常な振動があるとき
- 車両が異常に傾いたとき

●パンクしたまま走行しないでください。
パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

HYBRID

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。

●ブレーキ液や燃料のもれや漏電、サスペンション部品・タイヤ・ディスクホイール・駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近付いたことを運転者に知らせます。
警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
●警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦急加速を繰り返したり、長い時間加速を続けたりすると、一時的に加速が悪くなったように感じることがあります。

●急加速を繰り返したり、長い時間加速を続けると駆動用電池への充電が間に合わず、充電レベルの低下によりモーターの駆動力が使えないため、加速が悪くなったように感じることがあります。これは異常ではなく、しばらく加速を中止するなどして、駆動用電池が充電されるのを待てば通常の加速性能にもどります。

⑧走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは、次のことをお守りください。

●走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは、十分に減速するようにしてください。ハイブリッドシステムを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

7. 駐停車するときの注意

HYBRID

駐停車するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

HYBRID

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、ハイブリッドシステムを停止させ、施錠してください。

●車から離れるときは、必ずハイブリッドシステムを停止させ、施錠することが法律で義務付けられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。
●車から離れるとき、以下のことを守ってください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを🅟にする
- パーキングブレーキをかける
- ハイブリッドシステムを停止する
- ドアを施錠する

②可燃物付近に車を止めないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。
●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。
●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると、火災につながるおそれがあり危険です。

③寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。(P.465参照)

●輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④停車中に空ぶかしをしないでください。

●排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤炎天下で駐車するときは、メガネ、ライター、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。

●車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●炭酸飲料の缶が破裂したりして室内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
●車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形、ひび割れを起こすことがあります。

⑥仮眠するときは、"パワー"スイッチをＯＦＦにしてください。

●READY（走行可能表示灯）が点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。
また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

8. 排気ガスに対する注意

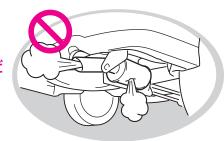
排気ガスには無色、無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれています。
誤って排気ガスを吸い込まないようにするため、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①換気が悪い場所ではREADY（走行可能表示灯）が点灯したままの状態にしないでください。

●車庫内など囲まれた場所では、ガソリンエンジンが始動したときに排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、READY（走行可能表示灯）が点灯したままにしないでください。

●READY（走行可能表示灯）が点灯した状態で車のまわりに雪が積もると、ガソリンエンジンが始動したときに排気ガスが車内に侵入して、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③排気管はときどき点検してください。

●排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

④バックドアを開けたまま走行しないでください。

●開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。

●すべての窓を全開にしてください。
●空調の内外気切り替えを外気導入側にして風量を最大にし、新鮮な外気を車内に入れてください。
●すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

9. お子さまを乗せるときの注意

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①お子さまはリヤシートに座らせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、万一の事故の場合、リヤシートの方が安全といわれています。
●お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターを使用してください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。
チャイルドプロテクターの使用方法は、P.160をお読みください。

②お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。（P.214参照）

●シートベルトの肩部ベルトが首やあごにあたったり、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。

③お子さまをシートベルトで絶対に遊ばせないでください。

●お子さまがシートベルトで遊んで万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

④ドア、ドアガラス、ムーンルーフなどはお子さまに操作させないでください。

●お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●チャイルドプロテクター（P.160参照）やウインドゥロックスイッチ（P.179参照）を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこんだりしないように注意して操作してください。

⑤車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

●炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。

●キースロットにキーを挿入したまま、または車内にキーを置いたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウインドゥのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対にキーを挿入したまま、または車内にキーを置いたままお子さまを車内に残さないでください。

1. シートについての注意

シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①シートは正しい運転姿勢がとれるように位置を調整してください。

●正しい運転姿勢をとらないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト・ＳＲＳエアバッグ・ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
正しい運転姿勢については、P.193をお読みください。

②シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。（マニュアルシート装着車）

●固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③走行中はシートの操作をしないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

●必要以上に背もたれを倒していると、衝突または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。

●正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。フロントシートのヘッドレストは、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。リヤシートのヘッドレストは、ヘッドレストを必ず上げた状態で使用してください。

⑦ヘッドレストは、それぞれのシート専用です。取り付けるときは、"カチッ"と音がして固定されたことを確認してください。

●ヘッドレストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑧シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑨倒した背もたれの上やラゲージスペース、またシートアレンジなどにより広げたスペースに人を乗せて走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑩フラットシートにしたときは、次のことをお守りください。

●シートをフラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑪ラゲージスペースをつくるときまたはもどしたときは、次のことをお守りください。

●ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートベルトが背もたれに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもどすときは、確実に固定されたことを確認してください。確実に固定されていないとシートが固定されず、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもどすときは、シートと車体ロック部の間に手や足などを挟まないように注意してください。けがをするおそれがあります。

⑫シートヒーターを使用中、熱すぎたり低温やけど(紅斑、水ぶくれ)を起こすおそれがありますので、十分注意してください。

●次に相当する方が使用される場合は、ヒーター使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。
- ●乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- ●皮膚の弱い方
- ●疲労の激しい方
- ●深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方

●毛布や座ぶとんなど保温性の良いものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常に加熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあり危険です。

●仮眠するときは使用しないでください。シートが異常に過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

⑬ＳＲＳサイドエアバッグ装着車のフロントシートにはＳＲＳエアバッグが内蔵されていますので、取り扱いに注意してください。

●不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

2. 子供専用シートについての注意

子供専用シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、体に合った子供専用シートに座らせてください。

●乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭は他の部分に比べて極めて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
●幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②子供専用シートをご使用になるときは、必ず商品に付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってご使用ください。

●使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
●子供専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。

③子供専用シートは確実に固定できるように取り付けてください。

●子供専用シートは、取り付け位置や取り付け方向に注意をして確実に取り付けてください。取り付けが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●シートベルトで子供専用シートを取り付けるときは、シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
●取り付け後はチャイルドシートを左右に動かして、きちんと固定されているか確認してください。

■子供専用シートはリヤシートに取り付けてください。

●お子さまにとって最も安全な位置はリヤシートといわれています。リヤシートには子供専用シートの取り付け装置も装備されています。（P.232、233参照）
●運転席側リヤシートで、運転席の位置により、安全に取り付けられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取り付けず、助手席側リヤシートに取り付けてください。
●テザーベルトを使用してチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上に掛けると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●テザーベルトを使用してチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

■助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取り付けないでください。

●うしろ向きに取り付けた場合、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

●やむを得ず、助手席に前向きに子供専用シートを取り付ける場合には、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整を一番うしろにして取り付けてください。
お守りいただかないと、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。

■チャイルドシート固定専用バーで固定する子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を取り付けるときは、専用バー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。

●異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず危険です。

④子供専用シートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

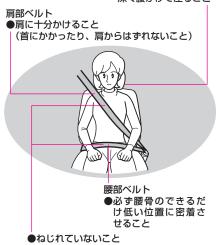
●車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

シートベルトについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに体がシートに保持されず、体をぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの着用は法律で義務付けられています。運転者は乗員全員が次の使用方法にしたがって、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

〈正しい着用の仕方〉

■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。

●正しい姿勢については、P.193をお読みください。

■シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。

●シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。
●ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■アジャスタブルシートベルトアンカー（P.218参照）を確実に調整してください。

●シートベルトが首にあたらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

●シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときに、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

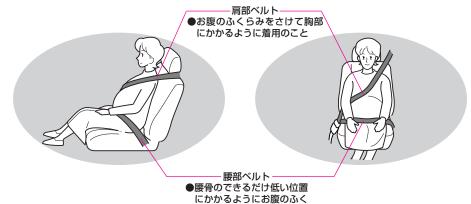
■シートベルトは必ず１人で１本のベルトを着用してください。

●2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。

②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

●妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
　また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

●ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

④シートベルトは、ねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。

正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。

●ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。
　ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみを付けて使用しないでください。

●肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、ベルトが胸部などを圧迫して危険です。また、頭をハンドルにぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

■プレートをバックルに差し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。

●異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。

⑤シートベルトを損傷させたり、損傷したシートベルトは使用しないでください。

損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトやプレートを、シートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷が付くおそれがあり危険です。

■ほつれ、すり切れができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷付いたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

●このまま使用すると、衝突のときなどの衝撃によりベルトが切れる可能性があります。また、正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。
●シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。

■**シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどをしないでください。**

●衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。
シートベルトの取り付け・取りはずし・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■**プリテンショナー付シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどはしないでください。**

●プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店でおこなってください。

■**プリテンショナー付きシートベルトは再使用しないでください。**

●作動するとシートベルトがロックされ、引き出すことも巻き取ることもできなくなります。作動後、再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。**

●シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。
●清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

4. ＳＲＳエアバッグについての注意

ＳＲＳエアバッグについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトにかわるものではありません。

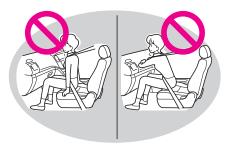
正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの正しい着用については、Ｐ.214をお読みください。

■シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中を付けた正しい姿勢でシートに座ってください。

●ＳＲＳエアバッグの展開部におおいかぶさったり、近付きすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

《運転者の方は》
運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近付きすぎないようにして座ってください。

《助手席乗員の方は》
助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。

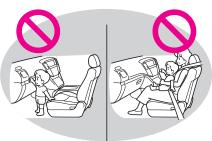
シートの調整、正しい姿勢については、Ｐ.203をお読みください。

■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔にあたったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ドアにもたれかかったり、フロント・リヤピラーやルーフサイド部に近付かないようにしてください。（ＳＲＳサイドエアバッグ＆ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車）

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。とくにお子さまを乗せるときには、注意してください。

■お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをするときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
不適切な作業をおこなうと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントシートの表皮の張りかえやフロントシートの取りはずし・取り付け・分解・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

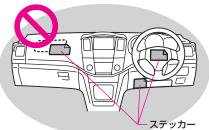
●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロントピラー、ルーフサイド部の取りはずし・取り付けなどＳＲＳエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

●サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグが誤作動し危険です。

●車両前部または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理をおこなうと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

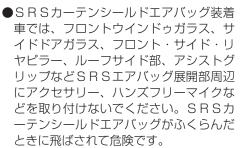
お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

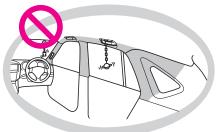
●ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

●インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。

●電子キーに重いもの・とがったもの・硬いものやキーなどを付けないでください。ＳＲＳニーエアバッグの展開に支障をきたしたりふくらんだときに飛ばされて危険です。

●インストルメントパネル下部のＳＲＳニーエアバッグ展開部周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。ＳＲＳニーエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

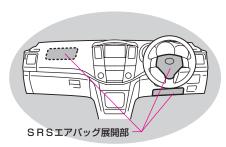
●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取り付けないでください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳエアバッグ展開部をおおうと、ＳＲＳエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。

●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロントウインドゥガラス、サイドドアガラス、フロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどＳＲＳエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、コートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。

④ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたかないでください。

●ステアリングパッド（運転席エアバッグ）、インストルメントパネル上部（助手席エアバッグ）および下部（運転席ニーエアバッグ）、フロントピラー、ルーフサイド部（カーテンシールドエアバッグ）、フロントシート側面（サイドエアバッグ）など、ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください

●構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

5. ＡＢＳ、ブレーキアシストについての注意

ＡＢＳ、ブレーキアシストについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ＡＢＳ、ブレーキアシストを過信しないでください。

●ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
ＡＢＳ、ブレーキアシストを過信せず速度をおさえ、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。
- ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ＡＢＳの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
- 砂利道、新雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

●ＡＢＳが作動すると、メーター内のスリップ表示灯（Ｐ.270参照）が点滅します。
●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

6. ＶＳＣ、ＴＲＣ、ＶＤＩＭについての注意

ＶＳＣ、ＴＲＣ、ＶＤＩＭについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ＶＳＣを過信しないでください。

●ＶＳＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（P.270参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

②ＴＲＣを過信しないでください。

●ＴＲＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、スリップ表示灯（P.270参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

③ＶＤＩＭを過信しないでください。

●ＶＤＩＭが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（P.270参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

1. オートマチック車についての注意

HYBRID

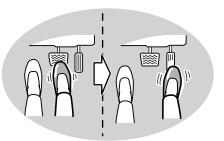
**オートマチック車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

HYBRID

①オートマチック車の特性

■クリープ現象

READY（走行可能表示灯）が点灯しているとき、シフトレバーがⓅ、Ⓝ以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

②運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。

- アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 後退するときは、体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④ハイブリッドシステムを始動するときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、ハイブリッドシステムを始動してください。

●安全のためシフトレバーは車輪が固定されるⓅにして、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンをかけてください。

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだままおこなわないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中はシフトレバーをⓃにしないでください。

●Ⓝにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●Ⓝにしたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

⑦走行中はシフトレバーをⓅにしないでください。

●オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、シフトレバーをⓇにしないでください。

●車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

⑨停車中は、空ぶかしをしないでください。

●シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩駐車するときは、シフトレバーをⓅにしてください。

●Ⓟ以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪坂道などでは、シフトレバーをⒹに入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

●同様にⓇにしたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑫その他にも以下の点に注意してください。

●少し後退したあとなどは、シフトレバーがⓇにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣付けましょう。
●切り返しなどでシフトレバーをⒹからⓇ、ⓇからⒹと何度もレバー操作をするときは、そのつど、ブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてからおこなってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。

運転装置について

2. 4WD車についての注意

4WD車は、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①無理な運転は禁物です。

●この車の4WDは、オンロード専用です。
オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の向上を目的とした4WDですので無理な運転はしないでください。

②すべりやすい路面での走行は慎重におこなってください。

●4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重におこない、常に安全運転を心がけてください。

③脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

④渡河などの水中走行はしないでください。

●渡河などの水中走行をすると、ハイブリッドシステムが停止するだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

●万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目を点検してください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

⑤タイヤはすべて必ず指定サイズで、同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

〈混在使用の例〉

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
- 4輪の空気圧の差が著しいとき
- 空気圧が指定値からはずれているとき

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションをおこなってください。（P.478参照）

●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.513参照）

3. クルーズコントロールについての注意

クルーズコントロールについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをOFFにしてください。（P.324参照）

●誤ってクルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②次のような状況のときは、クルーズコントロールを使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

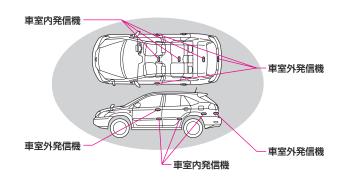
●交通量の多い道や急カーブのある道では、道路の状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●凍結路や積雪路などのすべりやすい路面では、タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。
●急な下り坂では、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

4. スマートエントリー&スタートシステムについての注意

スマートエントリー＆スタートシステムについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

心臓ペースメーカーや、医療用電気機器などをお使いの方は、スマートエントリー＆スタートシステムの取り扱いに注意してください。

- 植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器をお使いの方は、スマートエントリー＆スタートシステムの発信機から約22cm以内に植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器が近付かないようにしてください。
  電波により、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、スマートエントリー＆スタートシステムをお使いになる前に、医療用電気機器の製造事業者などに個別でご確認ください。
  電波により、医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることもできます。
  詳しくは、P.148の**「キーキャンセル機能」**を参照してください。

1. 点検・手入れ時の注意

HYBRID

点検・手入れ時は、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

HYBRID

①エンジンルームを点検するときは、必ずハイブリッドシステムを停止してください。また、火気を近付けないでください。

●ハイブリッド車は、ガソリンエンジンが自動的に動き出すことがあります。ガソリンエンジン回転中にファンなどの回転部分に触れたり近付いたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ガソリンエンジンが止まっていても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので、注意してください。
●火気をハイブリッドシステムや燃料配管に近付けないでください。爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

②ハイブリッドシステム停止直後はエンジン、排気管、ラジエーターなど高温部には触れないでください。

●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっていることがありますので注意してください。

HYBRID

③エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内に水をかけると、ハイブリッドシステムや他の電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

HYBRID

④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。

●駆動用電池などに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
●リヤシート下部には、駆動用電池を冷却するための空気の吸入口があります。吸入口の清掃をするときなどに、吸入口をはずさないでください。吸入口の奥には高圧電池があるため、手などをいれると、感電など生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。吸入口をはずす必要があるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
●オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、お車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

●ブレーキ装置内に水が入ると凍結して、ブレーキの効きが悪くなったり、さびてブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

●配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

HYBRID

⑦ハイブリッドシステムが熱いときやREADY（走行可能表示灯）が点灯した状態のときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

●ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

HYBRID

⑧エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

●点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑨電球を交換するときは、電球や周囲の部品が冷えてから交換してください。

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。

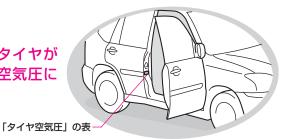
2. タイヤについての注意

タイヤについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

①日常点検として、必ずタイヤの点検をおこなってください。

●タイヤの点検は、法律で義務付けられています。
●タイヤは以下の点について点検してください。
- タイヤの空気圧
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど。）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

②タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。

●指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表またはP.513で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。
指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。
※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

③タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

●タイヤを混在使用すると、左右タイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

〈混在使用の例〉

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
- 4輪の空気圧の差が著しいとき
- 空気圧が指定値からはずれているとき

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションをおこなってください。（P.478参照）

●ディスクホイールを交換するときも、指定外のディスクホイールを装着しないでください。（P.513参照）

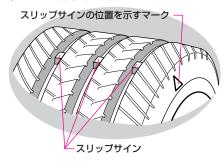
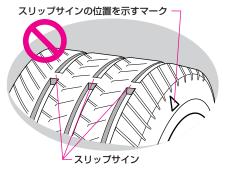
●指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ＡＢＳ
- ブレーキアシスト
- ＶＳＣ
- ＴＲＣ
- ＶＤＩＭ
- クルーズコントロール
- インテリジェントＡＦＳ
- ＧＰＳボイスナビゲーション
- バックガイドモニター

また、電気式4WDシステムは性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

④摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

●タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※1により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※1 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

※2 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※2

〈例：スリップサインが出ている状態〉※2

⑤タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

⑥冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

●指定サイズのタイヤを使用してください。
●指定空気圧に調整してください。
●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑦タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は、約30km/hまたはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。
●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑧タイヤを交換したときは、ホイール取り付けナットが確実に締まっていることを確認してください。

●確実に締まっていないと、ホイール取り付けボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締め付けトルク：約103N・m ｛1050kgf・cm｝
●タイヤを取り付けるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

●つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締め付けても充分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑪歩道の縁石などにタイヤがあたらないように注意してください。

●タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑫応急用タイヤについては、以下の点に注意してください。

●応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
●応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa（4.2kg/cm²）
●車に搭載されている応急用タイヤは、お客様のお車専用です。他のタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様のお車に使用しないでください。走行に悪影響が出て思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑬走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。

●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

3. バッテリーについての注意

HYBRID

バッテリーについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①日常点検として必ず補機バッテリーの液量を点検してください。

●補機バッテリーの液面が各液槽とも、補機バッテリー側面に表示されたＬＯＷＥＲ　ＬＥＶＥＬ（下限）以下のまま使用、充電すると、補機バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、液量が少ないときは補給してください。

HYBRID

②バッテリーあがりを起こすと、ハイブリッドシステムが始動できなくなる場合がありますので、注意してください。

●駆動用電池の残量はハイブリッドシステムが自動管理しており、残量が低下すると自動的に充電します。
ただし、長い間ご使用にならないと、自動的に充電できないため、駆動用電池がバッテリーあがりを起こすことがあります。

HYBRID

③駆動用電池または補機バッテリーがあがったときは、押しがけによる始動や、けん引による充電はできません。

●ハイブリッドシステムに悪影響をおよぼし、システムが損傷するおそれがありますのでやめてください。
駆動用電池があがったときはトヨタ販売店へご連絡ください。補機バッテリーがあがったときは、ブースターケーブルを使用して、ハイブリッドシステムを始動してください。

HYBRID

④補機バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。（P.540参照）

●補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

HYBRID

⑤充電中は補機バッテリーに近付かないでください。

●充電中は補機バッテリーから有毒で腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

HYBRID

⑥火気を補機バッテリーに近付けないでください。

●補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑦補機バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取り付け、ナットを確実に締め付けてください。

●確実に取り付けたり、締め付けたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑧交換などによりターミナルの脱着をおこなったときは、パワーバックドア★およびパワーウィンドゥの初期化が必要です。（P.166、178参照）

●初期化をおこなわないと、それらの機能が正常に作動しなくなります。

⑨交換などによりターミナルの脱着をおこなうと、ガソリンエンジンが自動停止しなくなることがあります。

●自動停止しない状態が長時間続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

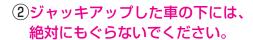
★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

4. ジャッキアップについての注意

ジャッキアップについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。

●車が動きジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

②ジャッキアップした車の下には、絶対にもぐらないでください。

●万一、ジャッキがはずれると、体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.533、538参照）にかかっていることを必ず確認してください。
●車体は、タイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
●ジャッキアップした車体を降ろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

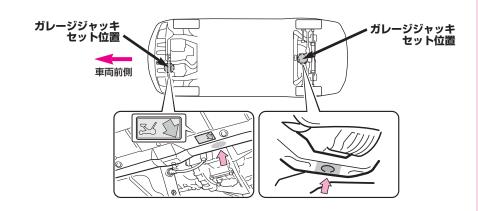
④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

●他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

●室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

●車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

1. オーバーヒートについての注意

オーバーヒートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。

●エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分もありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

②ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーターキャップ、エア抜きバルブを開けないでください。

●蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●キャップ、バルブを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップ、バルブを包み、ゆっくりと開けてください。

2. 万一の事故のときの注意

HYBRID

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

HYBRID

①万一、事故が発生したときは次の点に注意してください。

●ハリアーハイブリッドは、駆動用電池などの高電圧システムを使用しています。事故により、高電圧部位（駆動用電池、高電圧配線など）が大きく破損した場合は、不用意にさわると、感電など生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を移動し、続発事故防止を図ってください。
●高電圧が各部位にかからないようにするため、車両の状態を次のようにしてください。
 ● ブレーキペダルを踏み、シフトレバーをⓅにする。
 ● パーキングブレーキをかける。
 ● “パワー”スイッチをＯＦＦにする。
●駆動用電池、高電圧配線（オレンジ色）などの高電圧部位には、絶対に触らないでください。感電のおそれがあり危険です。
●車内および車外にはみ出している電気配線にも、絶対に触らないでください。漏電による感電のおそれがあり危険です。
●車両に液体の付着や漏れがある場合、絶対に触らないでください。
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が、目や皮膚に触れると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合、ただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診断を受けてください。
●万一、車両火災が発生したときは、ＡＢＣ消火器を使用して消火してください。水をかける場合には、消火栓などから水を大量にかけてください。

HYBRID

②この車は、原則としてけん引することができません。けん引は、やむを得ない場合に限っておこなってください。

●けん引は、できるだけトヨタ販売店またはＪＡＦなどに依頼してください。
とくに次の場合は、駆動系の故障が考えられますので、けん引する前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。
 ● READY（走行可能表示灯）が点灯しているのに車が動かない。
 ● 異常な音がする。

⚠ オーバーヒート・万一の事故

●車両が自走できない場合は、必ず4輪とも持ち上げて運搬してください。いずれかのタイヤが接地した状態では、けん引しないでください。いずれかのタイヤが接地した状態でけん引すると、モーターから電気が発電され、破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

●けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

③発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は、顔や体に向けたり、近付けたりしないでください。

●可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や体に向けると、炎でやけどするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④事故後、ハイブリッドシステムを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、ハイブリッドシステムを始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

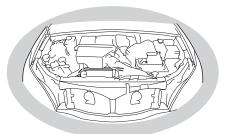
⑤ＳＲＳエアバッグが作動したり、車両後方に強い衝撃を受けると、ハイブリッドシステムが停止します。

●ＳＲＳエアバッグが作動したり、車両後方に強い衝撃を受けると安全のために駆動用電池などの高電圧を遮断し、ハイブリッドシステムを停止します。この場合、ハイブリッドシステムは再始動しないため、自走による車両の移動はできません。

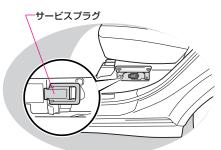
HYBRID

ハリアーハイブリッドを使用するにあたって、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

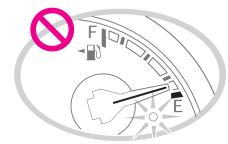
HYBRID

①高電圧・高温に注意してください。

●高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし、分解などは、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、絶対に行わないでください。
これらの部位には取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示にしたがって正しい取り扱いをしてください。

HYBRID

②サービスプラグには触らないでください。

●サービスプラグが駆動用電池横に設置してあります。サービスプラグはトヨタ販売店にて、車両の修理時などに駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。
取り扱いを誤ると感電し、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、絶対に触らないでください。

HYBRID

③燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

●ハイブリッド車といっても、燃料がないと走行できません。通常のガソリンエンジン車と同様に、燃料残量警告灯が点灯したら、すみやかに燃料を補給してください。

HYBRID

④駆動用電池冷却用の吸入口周りに荷物などを置いたりして、吸入口をふさがないでください。また、吸入口に水や異物を入れないでください。

●リヤシート下部には駆動用電池が搭載されています。ここには、駆動用電池を冷却するための空気の吸入口があり、この吸入口をふさがれると駆動用電池が過熱して、ハイブリッドシステムの出力低下につながるおそれがあります。駆動用電池のまわりに荷物などを置いたり、布などで覆ったりして吸入口をふさがないでください。また、吸入口が目詰まりしないように定期的に掃除機などで掃除することをおすすめします。
●吸入口に水や異物を入れないでください。駆動用電池などに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。吸入口に大量の水や異物を入れてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
●吸入口の上に乗ったり、重いものや突起物を落とさないでください。吸入口の上に乗ったり、重いものや突起物を落としたりすると、吸入口が破損するおそれがあります。
●リヤシート下部の駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないように注意してください。誤ってこぼしてしまった時は、トヨタ販売店の点検を受けてください。

HYBRID

⑤吸入口は絶対にはずさないでください。

●リヤシート下部には、駆動用電池を冷却するための空気の吸入口があります。吸入口の清掃をするときは吸入口をはずさないでください。吸入口の奥には高圧電池があるため、手などをいれると感電などの生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。吸入口をはずす必要があるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

HYBRID

⑥修理する場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、感電など生命に関わるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

HYBRID

⑦廃車する場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●駆動用電池はトヨタ販売店を通じて回収をおこなっていますので回収にご協力ください。
適切に廃棄されず、不法に投棄または放置されると、第三者が駆動用電池などの高電圧部位に触れた場合に、感電事故などが発生するおそれがあり危険です。

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①違法改造は絶対にしないでください。

●トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
●車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
　・タイヤ、ディスクホイール、ホイール取り付けナットの交換。
　　異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
　・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
　　電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
●フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界を妨げるばかりではなく、違法改造につながるおそれがあります。

②灰皿を使用したあとは、マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。

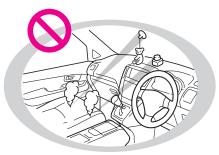
●開けたまま放置すると車両火災につながるおそれがあり危険です。また、灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

③カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。

④メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないでください。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすおそれがあります。
●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。
●ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

⑤ウインドゥガラスなどには、吸盤を付けないでください。

●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取り付けたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑥シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑦走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

●走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●お子さまを乗せているときは以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

! その他の注意

●バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

⑧バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。（パワーバックドア装着車）

●バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをバックドアで挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチがOFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

⑨パワーバックドアについては以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことをしらせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
- 自動開閉中に、パワーバックドアメインスイッチをOFF にしたときは、作動が停止し、手動操作に切り替わります。この場合バックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“パワー”スイッチをON モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。
- タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチをOFF にしてください。OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたときにパワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能が作動したときは、十分注意してください。バックドアに当たりけがをするおそれがあります。
- 挟み込み防止機能はバックドアが閉まる途中で異物を感知すると反転しますが、体を挟んだ場合けがをするおそれがあるため、十分注意してください。
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- パワーバックドアの左右端部のセンサーは障害物を検知し、挟み込みを防止する装置です。挟まれる物の形状や挟まれかたによっては検知できない場合があります。ドア開閉時は指などを挟まないよう十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑩ワイヤレスリモコンの電池交換時に、取りはずした電池や部品をとくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

●飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑪ミラーヒーターの作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手を触れないでください。（ミラーヒーター装着車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑫ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。（ディスチャージヘッドランプ装着車）

●電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Ｖの高電圧が発生し、感電するおそれがあります。

⑬走行前にバックドアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。

●バックドアが確実に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●バックドアを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものなどにあたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑭フロントワイパーデアイサー作動中は、フロントウインドゥガラス下部、および運転席側フロントピラー部の表面が熱くなりますので、手をふれないでください。(フロントワイパーデアイサー装着車)

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑮樹脂バンパーやアルミ部分には、磁石で固定するアクセサリーを取り付けることができません。

●磁石は樹脂やアルミに付かないため、磁石式の初心者運転標識や高齢運転者標識などは取り付けることができません。

⑯車内のスイッチなどに飲み物などをこぼさないよう注意してください。

●インストルメントパネル、コンソールボックス、ドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑰アクセサリーコンセントを使用するときには、次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●走行中、次のような場合は、絶対に電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 脇見運転など安全運転のさまたげになる場合（テレビ、ビデオ、ＤＶＤなど）
- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒、落下による事故や、発熱により火災、やけどなどのおそれがある場合
（トースター、電子レンジ、電熱器、ポット、コーヒーメーカーなど）
- ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合
（ドライヤー、ＡＣアダプター、マウスなど）

●走行中、助手席でドライヤーなどの電気製品を使用しないでください。衝突したときなどにエアバッグが作動して、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、他の電装品に悪影響を与えるおそれがあります。やむを得ず使用するときは、窓を開けて使用してください。

●電気製品を使用中にREADY（走行可能表示灯）が点灯した状態のまま、車両から離れないでください。
車両の盗難や、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

●暖房機具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

●故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電するおそれがあります。

●濡れた手で電気製品のプラグを抜き差ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに差したりしないでください。感電するおそれがあり危険です。
また、コンセントに雨水、飲料水などや雪が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

●アクセサリーコンセントの改造や分解、修理などは絶対にしないでください。
また、絶対に車両搭載のＡＣ１００Ｖインバーターを市販のＡＣインバーターに組み替えないでください。
思わぬ故障や事故の原因となって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
修理については、取り扱いトヨタ販売店にご相談ください。

●使用する電気製品に付属の取扱書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

⑱ READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は、マフラーに触れないように注意してください。

●READY （走行可能表示灯）が点灯しているときやハイブリッドシステム停止直後のマフラーは高温になっています。荷物の積み降ろし時などに手や足が触れると、やけどをするおそれがあります。

⑲内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

●インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

2 基本操作早わかり
（はじめてこの車にお乗りになる方へ）

この章では、はじめてお車を購入された方やトヨタ車にはじめてお乗りになる方のために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。
詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりお読みください。

ドアの施錠と解錠

リモコンスイッチで

スマートエントリー&スタートシステムで

各部の開閉に関する詳しい紹介は

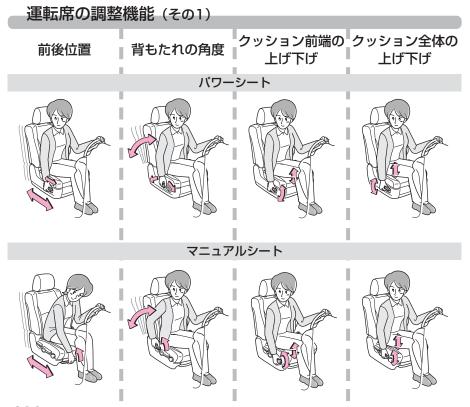
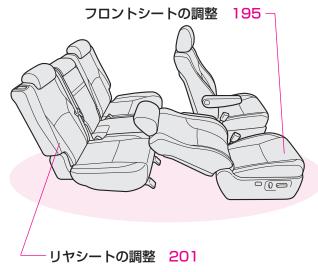
ドアガラスの開閉

フューエルリッド（燃料補給口）の開け方

運転席の調整機能（その1）

前後位置	背もたれの角度	クッション前端の上げ下げ	クッション全体の上げ下げ

パワーシート

マニュアルシート

シートに関する詳しい紹介は

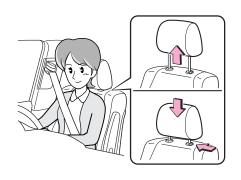
●シートアレンジについてはP.204を参照してください。

運転席の調整機能（その2）

ヘッドレスト

運転席の調整機能（その3）

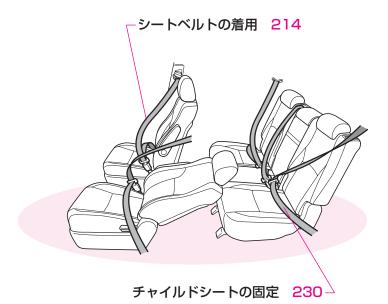
アームレスト

付け方

1 ベルトを引き出します。

2 プレートをバックルに差し込みます。

❶“カチッ”という音がするまで差し込みます。

❷アンカーの高さを調整します。

シートベルトに関する詳しい紹介は

はずし方

❶バックルのボタンを押します。
❷ベルトを巻き取らせます。

作動表示灯の色と“パワー”スイッチの状態

オレンジ色　ＯＮモード　すべての電装品が使用できます。
緑色　アクセサリーモード　オーディオなどの電装品が使用できます。
消灯　ＯＦＦ　すべての電装品が停止している状態。(READY 消灯)
ハイブリッドシステムが作動している状態。(READY 点灯)

走行可能表示灯

点灯　ハイブリッドシステムが作動している状態。ガソリンエンジンが始動していなくても走行できます。

作動表示灯

ハイブリッドシステムを始動すると、オレンジ色に点灯し、消灯します。

プッシュボタン スタート

“パワー”スイッチを押すことで、状態の切り替え、ハイブリッドシステムの始動ができます。

パワー（イグニッション）スイッチの切り替え方

1　電子キーをキースロットに挿し込みます。

電子キーを携帯していれば、電子キーをキースロットに挿し込む必要はありません。

2　ブレーキペダルは踏まずに、“パワー”スイッチを押します。

スイッチを押すごとに、
ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒ＯＮモード⇒ＯＦＦ…
の順に切り替わります。
●作動表示灯の色で“パワー”スイッチの状態を確認します。

ハイブリッドシステム始動の仕方

1 ブレーキペダルをしっかり踏みます。

パーキングブレーキがかかっていることと、シフトレバーがⓅの位置にあることを確認します。

2 電子キーをキースロットに挿し込みます。

電子キーを携帯していれば、電子キーをキースロットに挿し込む必要はありません。

3 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、“パワー”スイッチを押します。

ゆっくり確実に押してください。

4 READY が点滅後、点灯状態になれば発進できます。

READY が点灯していれば、ガソリンエンジンが始動していなくても走行できます。
車両の状態に応じてガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。

シフトレバーの動かし方（発進時の場合）

1 右足でブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 シフトレバーをⓅから操作します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

運転の仕方

加速後

いったんアクセルをもどし、その後じわっと踏み込む。

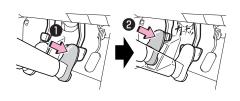
減速時

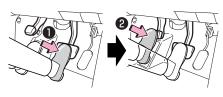
早めに緩やかなブレーキ操作をする。

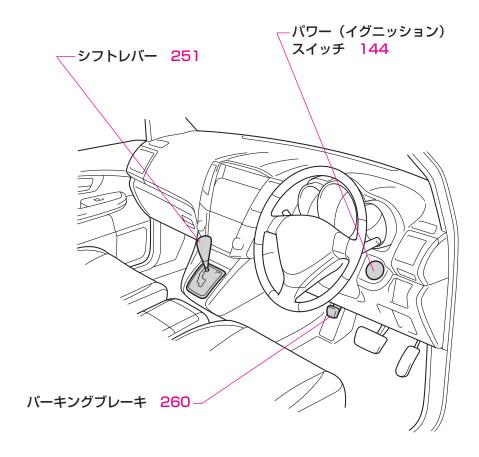
渋滞での発進

ブレーキを緩めるだけでアクセルを踏みこまない。

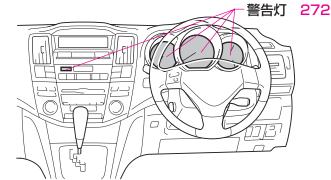
パーキングブレーキの使い方

解除の仕方

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら
❷左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

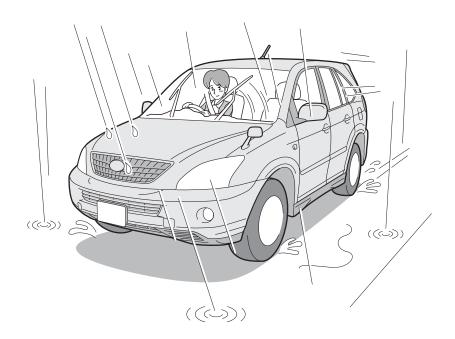
かけ方

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら
❷左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

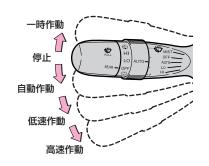
運転装置に関する詳しい紹介は

警告灯が点灯または点滅したままのときは

警告灯		警告理由
	半ドア警告灯	いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていません。
	運転席シートベルト非着用警告灯	運転者がシートベルトを着用していません。
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。
(!)	ブレーキ警告灯（赤）	●パーキングブレーキがかかっています。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足です。 ●ブレーキシステムの異常です。
E 警告灯	燃料残量警告灯	燃料切れが近付いています。 （約10L以下で点灯）
− + MAIN	駆動用電池警告灯	駆動用電池の残量が低下しています。
(!)	電子制御ブレーキ警告灯（黄）	●回生ブレーキシステムの異常です。 ●電子制御ブレーキシステムの異常です。

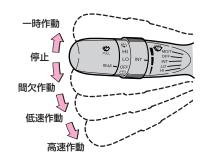
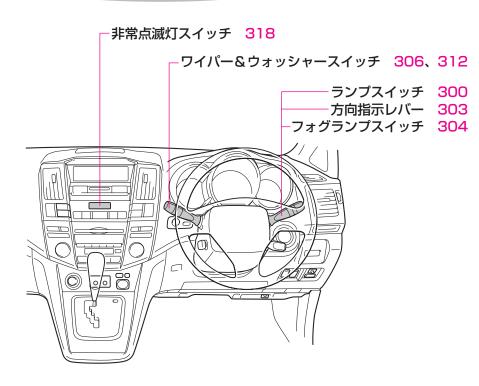
警告灯に関する詳しい紹介は

警告灯が点灯または点滅したままのときは

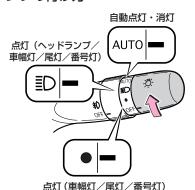
警告灯		警告理由
P/S	パワーステアリング警告灯	パワーステアリング制御システムの異常です。
	ＳＲＳエアバッグ/プリテンショナー警告灯	ＳＲＳエアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトの異常です。
(ABS)	ABS＆ブレーキアシスト警告灯	ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステムの異常です。
	エンジン警告灯	エンジン電子制御システムなどの異常です。
− +	充電警告灯	充電系統の異常です。

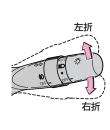
＊メーター内のドット表示式マルチインフォメーションディスプレイに表示される警告については、P.294を参照してください。
＊この他にも、表示灯の点灯または点滅により異常を知らせる場合もあります。詳しくはP.266を参照してください。

夜間や雨天時などの走行

フロントワイパーの使い方
（雨滴感知式）

（間欠時間調整式）

スイッチに関する詳しい紹介は

非常点滅灯スイッチ　318
ワイパー＆ウォッシャースイッチ　306、312
ランプスイッチ　300
方向指示レバー　303
フォグランプスイッチ　304

夜間や雨天時などの走行

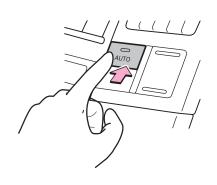
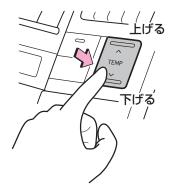
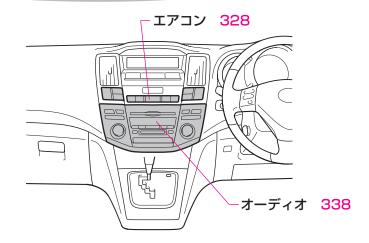
ランプの付け方

他車への合図

方向指示

非常点滅灯

エアコンの使い方

1　ＡＵＴＯスイッチを押します。

2　希望温度に合わせます。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

エアコン、オーディオに関する詳しい紹介は

オーディオの使い方

電源の入れ方と音量の調整

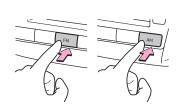
電源入、切

音量

ＣＤ、ＭＤを聞くには

ＣＤ、ＭＤが挿入されているときは、ＤＩＳＣ、ＭＤボタンを押します。

ラジオを聞くには

ＡＭ、ＦＭ放送の切り替え

放送局の設定

ＡＵＴＯ・Ｐボタンを“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動でプリセットボタンに放送局を記憶させることができます。

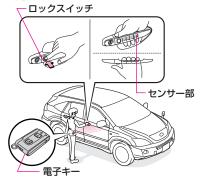
3 運転装置の取り扱い

スマートエントリー&スタートシステム

スマートエントリー&スタートシステムの基本操作

スマートエントリー&スタートシステムは電子キーを携帯しているだけでドアやバックドアの施錠・解錠、“パワー”スイッチの切り替え、およびハイブリッドシステムの始動・停止ができる機能です。

電子キーは必ず運転者が携帯してください。

ドアの施錠・解錠

■施錠するときは
電子キーを携帯し、フロントドアハンドルにあるロックスイッチを押します。

■解錠するときは
電子キーを携帯し、フロントドアハンドルの裏側にあるセンサー部に触れます。

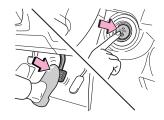
バックドアの施錠・解錠

■施錠するときは
電子キーを携帯し、バックドアロックスイッチを押します。

■解錠するときは
電子キーを携帯し、バックドアオープンスイッチを押し続けます。

パワー（イグニッション）スイッチの切り替え、ハイブリッドシステムの始動・停止

■“パワー”スイッチを切り替えるときは

電子キーを携帯し、ブレーキペダルを踏まずに、“パワー”スイッチを押します。

■ハイブリッドシステムを始動するときは

電子キーを携帯し、シフトレバーがⓅにあるのを確認し、ブレーキペダルを踏みながら“パワー”スイッチを押します。

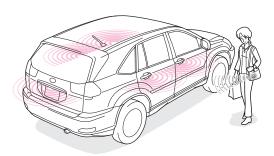
■ハイブリッドシステムを停止するときは

緊急時以外は必ずシフトレバーをⓅに入れて、“パワー”スイッチを押します。

電波が心臓ペースメーカーなど医療用電気機器へ影響をおよぼすおそれがあります。医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。

車から離れるときは、
1.シフトレバーをⓅにし、
2.パーキングブレーキをかけ、
3.“パワー”スイッチをＯＦＦにして、
必ず電子キーを携帯していることを確認してからドアを施錠してください。

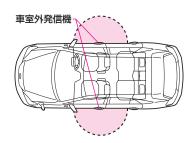
作動範囲

作動範囲について

スマートエントリー＆スタートシステムを使っての操作は、電子キーを携帯し、作動範囲内（車室内および車室外発信機の検知エリア内）に入ると、電子キーと車両が自動的にＩＤコードの照合※をおこない、照合が一致した時のみ操作が可能となります。

- 電子キーのバッテリー（電池）消耗時や強い電波、ノイズのある場所などでは作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
  また、この車両のボディ形状により作動しにくい場所があります。

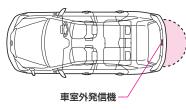
※ＩＤコードの照合とは車両からのＩＤコードとスマートキーのＩＤコードを照らし合わせることをいいます。

各操作の作動可能範囲

■ドアの施錠・解錠

車室外発信機の検知エリア内（各フロントドアハンドルから周囲約70cm以内）

●ドアガラスやドアハンドルに近付きすぎた場合などは作動しないことがあります。

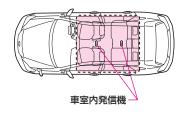
検知エリア
各フロントドアハンドルから周囲約70ｃｍ以内

■バックドアの施錠・解錠

車室外発信機の検知エリア内（バックドアオープンスイッチから周囲約70cm以内）

●リヤバンパー中央に近付きすぎた場合などは作動しないことがあります。

検知エリア
バックドアオープンスイッチから周囲約70ｃｍ以内

■“パワー”スイッチの切り替え・ハイブリッドシステムの始動

車室内発信機の検知エリア内（ラゲージルーム内を除く車両室内）

検知エリア
ラゲージルーム内を除く車両室内

知っておいていただきたいこと

電子キーが持つ機能は大変便利ですが、使用する環境や条件によっては正しく作動しなかったり、使い方によってはトラブルにつながる可能性があります。
以下の記載事項を必ずお読みになり、正しくお使いください。

知っておいていただきたいこと

■電子キーは必ず運転者が携帯してください。

■警報音および警告表示について

スマートエントリー&スタートシステムでは、お客様が車両からの電子キー持ち出しに気付かなかった場合のハイブリッドシステムの再始動不可や誤操作などによる予期せぬ車両の動き出し、車両盗難などを防ぐため、車内や車外で警報音を鳴らしたり、ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイに警告を表示します。警報音が鳴ったり、警告が表示されたときは、必ず車両および電子キーの確認をおこなってください。（P.294参照）

■電子キーは微弱な電波を使用しています。次のようなときはスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないことがあります。

●近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
●無線機、携帯電話およびコードレス電話などの無線通信機器を携行しているとき
●電子キーが金属性のものに接したり、覆われたりしているとき
●複数の電子キーが近くにあるとき
●電子キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
●近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき

■作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。

電子キーのバッテリー（電池）消耗時や強い電波、ノイズのある場所では作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。また、この車両のボディ形状により作動しにくい場所があります。

■電子キーのバッテリー（電池）は常に消耗しています。

●電子キーは車両との通信のために常時受信動作をしており、キー内蔵バッテリー（電池）を消費しています。電池の寿命は使用状況によりますが約1～3年程度です。（まったく使用しなくても電池は消耗します。）バッテリー電圧が低下した場合、新しい電池と交換してください。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（P.129参照）

●電子キーは常時電波を受信しており、強い電波を受信し続けた場合に電池を著しく消耗することがあります。電化製品の近くには置かないでください。

影響のある主な電化製品（常時1m以上離すのが望ましいものの例）

テレビ、パソコン、電磁調理器、電気スタンド、充電中のコードレス電話器および携帯電話

●電子キーの電池交換は市販の精密ドライバーを使用して、P.479の**「電子キーの電池交換」**を参照すれば、お客様自身で交換することもできますが、交換の際、破損などのおそれがあるためトヨタ販売店での交換をおすすめします。

■ドア施錠時は定期照合をおこなうため、車両の補機バッテリーを消耗しています。

ドア施錠時は車室外発信を定期的におこなうため、車両を長時間放置すると車両の補機バッテリーがあがるおそれがあります。車両を長時間使用しないときは、キーキャンセルスイッチを停止状態にしてください。

●キーキャンセル機能（P.148参照）

■ドア施錠時、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーのバッテリー（電池）と車両の補機バッテリーを消耗しています。

車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信をおこなうため、長時間その状態で放置すると電子キーのバッテリー（電池）および車両の補機バッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（5m以内）に置かないでください。

■メカニカルキー機能、システムキー機能があります。

電子キーのバッテリー（電池）が切れたときは、電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使用することにより、運転席ドアの施錠・解錠がおこなえます。また、電子キーをキースロットに差し込んで、“パワー”スイッチの切り替え、ハイブリッドシステムを始動することができます。

メカニカルキー機能

●メカニカルキーでの施錠・解錠の仕方（P.156参照）

システムキー機能

●電子キーの出し入れ（P.244参照）
●パワー（イグニッション）スイッチの切り替え方（P.246参照）
●ハイブリッドシステム始動・停止の仕方（P.248参照）

■作動可能状態をキャンセルする機能があります。

キーキャンセルスイッチを停止状態にすることにより、スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることができます。

●キーキャンセル機能（P.148参照）

また下記の状態ではスマートエントリー＆スタートシステムが作動しません。作動しない場合は確認してください。

●キースロットに電子キーが差し込まれているとき
●電子キーのバッテリー（電池）がないとき
●節電機能が働いているとき（P.149参照）

こんなときは

ここでは様々な場面を想定して、操作および対処方法の例を記載しています。スマートエントリー&スタートシステムを扱う上での参考にしてください。

乗り降りするときは

■ドアの施錠
電子キーを携帯し、フロントドアハンドルにあるロックスイッチを押します。
●必ず施錠作動したことを確認してください。

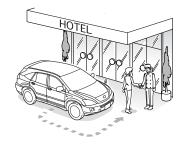
■ドアの解錠
電子キーを携帯し、フロントドアハンドル裏側のセンサー部に触れます。
●電子キーを検知しているドアハンドルでのみドアの施錠・解錠をおこなうことができます。
●施錠後、約3秒間は解錠できません。

作動しないときは

以下のことを確認してください。
●キーキャンセルスイッチが停止状態になっている。（P.148参照）
●キースロットに電子キーが差し込まれている。
●電子キーのバッテリー（電池）がない。
●節電機能が働いている。（P.149参照）

ガソリンスタンドやお店などで車から離れるときは

電子キーを携帯し、ドアを施錠してください。
●必ず施錠作動したことを確認してください。

ホテルなどでキーを預けるときや、他人に車を貸すときは

必要に応じて、スマートエントリー&スタートシステムを停止状態にします。(P.148参照)
電子キーからメカニカルキーを抜き、(P.156参照)、メカニカルキーは携帯して、電子キーを渡してください。

正規の別の電子キーを携帯した人が乗車しているときは

キー閉じ込み防止機能が作動します。(P.130参照)
車外から施錠するときは、ワイヤレスドアロック（P.151参照）またはメカニカルキー（P.156参照）を使って施錠してください。

正規の別の電子キーを携帯した人が乗車するときは

スマートエントリー&スタートシステムを使ってドアの解錠ができないときは、ワイヤレスドアロックまたはメカニカルキーを使って解錠してください。

警報・防止機能および警告表示

警報・防止機能および警告表示について

スマートエントリー&スタートシステムでは、再始動不可や誤操作などを防ぐため車内や車外で警報音を鳴らしたり、ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイへの警告表示（P.294参照）により注意をうながします。
警報音が鳴ったり、警告が表示されたときは、必ず車両および電子キーの確認をおこなってください。

警報音による防止機能

■“パワー”スイッチ切り忘れ防止機能

車内警報音 ポーン、ポーン・・・（連続吹鳴）	“パワー”スイッチの切り忘れをお知らせしています。

“パワー”スイッチがアクセサリーモードのとき、シフトレバーをⓅにして運転席ドアを開けると、“パワー”スイッチの切り忘れを警告する車内警報音が“ポーン、ポーン…”と鳴ります。ただし、“パワー”スイッチがＯＮモードのときは鳴りません。
また、“パワー”スイッチがＯＦＦのときにステアリングがロックされていないときにも運転席ドアを開けると、車内警報音が鳴ります。

車外警報音 ピー（約2秒間連続吹鳴）	“パワー”スイッチの切り忘れをお知らせしています。

“パワー”スイッチがＯＦＦ以外のとき、シフトレバーをⓅにしてすべてのドアを閉め、ドアハンドル上のロックスイッチを押して施錠しようとすると“パワー”スイッチの切り忘れを警告する車外警報音が“ピー”と鳴り、施錠することができません。

■半ドア警報

車外警報音 ピー（約10秒間連続吹鳴）	いずれかのドアが開いていることをお知らせしています。

“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアが開いている状態で、フロントドアハンドルにあるロックスイッチを押すと、車外警報音が“ピー”と約10秒間連続して鳴ります。次のいずれかの方法で警報音が止まります。

●すべてのドアを閉めます。
●電子キーの🔓（解錠）スイッチを押します。

知 識

半ドア警報について

ドアを開閉するときにロックスイッチに触れると、半ドア警報が作動します。ドアを開閉するときはロックスイッチに触れないでください。

■キー閉じ込み防止機能

車外警報音 **ピー**（約2秒間連続吹鳴）	**電子キーが車内に残っていることをお知らせしています。**

“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、車内に電子キーを置いたまま、すべてのドアを閉め、フロントドアハンドルにあるロックスイッチを押して施錠しようとしても、車外警報音が“ピー”と鳴り、施錠することができません。（ロックレバーを施錠側に倒した状態でドアを閉めて施錠しようとしても施錠できません。）

知 識

電子キー閉じ込み防止機能について

●電子キーをインストルメントパネル上、トノカバー上、フロア上、グローブボックス内などに置いた場合、電子キー閉じ込み防止機能が作動しないことがあります。
●電子キーが車外にあっても、ドアガラスやドアハンドルに近付けすぎた場合、電子キー閉じ込み防止機能が作動することがあります。

警告表示・警報音による防止機能

車内に電子キーがないときなどにマルチディスプレイに警告表示します。

●⚠（マスターウォーニング）が点滅します。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
お車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■電子キーバッテリー低下警告表示

キーバッテリー
残りわずか
ODO 237 km

“パワー”スイッチをＯＮモードまたはハイブリッドシステムを始動させてから約20分以上経過し、その後“パワー”スイッチをＯＦＦにしたとき、電子キーのバッテリー電圧が低下していると判断したとき。

●約5秒間表示されます。

●車内警報音“ポーン（1回吹鳴）”も同時に鳴ります。

知 識

警告表示について

電子キーのバッテリー電圧が2Ｖ（通常3Ｖ）近くになったとき表示されます。表示されたときは、電子キーの電池を交換してください。（P.479参照）

■シフトレバー位置警告表示

Ⓟレンジに
入れて下さい
ODO 237 km

“パワー”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転席ドアを開けると表示されます。

●車内警報音“ピー（連続吹鳴）”も同時に連続して鳴ります。
このとき、電子キーを持って車外に出てドアを閉めると 車外警報音“ピー（連続吹鳴）”が連続して鳴ります。
- キーが見つかりません も交互に表示されます。

次のいずれかの方法で警報音が止まります。
- 電子キーを車内に入れる。（車室内でのＩＤコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
- “パワー”スイッチをＯＦＦにする。
- シフトレバーをⓅにする。

■電子キーなし警告表示

キーが
見つかりません
ODO 237 km

以下のとき、車内に電子キーがないことをお知らせします。

- “パワー”スイッチを押したときに、車室内でのＩＤコードの照合により電子キーが車内にないと判断したとき
  - 5秒間表示されます。
  - 車内警報音 “ポーン（1回吹鳴）”も同時に鳴ります。

- “パワー”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅにあるときに運転席ドアが開閉され、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき
  - 車内警報音 “ポーン（1回吹鳴）”、車外警報音 “ピー、ピー、ピー（3回吹鳴）”も同時に鳴ります。

  次のいずれかの方法で警報音が止まります。
  - 電子キーを車内に入れる。（車室内でのＩＤコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
  - “パワー”スイッチをＯＦＦにする。

- “パワー”スイッチがＯＦＦ以外で、運転席ドア以外のドアが開閉され、車室内でのＩＤコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき
  - 車内警報音 “ポーン（1回吹鳴）”車外警報音 “ピー、ピー、ピー（3回吹鳴）”も同時に鳴ります。

  次のいずれかの方法で警報音が止まります。
  - 電子キーを車内に入れる。（車室内でのＩＤコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
  - “パワー”スイッチをＯＦＦにする。

- “パワー”スイッチがＯＦＦ以外のとき、シフトレバーがⓅ以外で、運転席ドアを開閉したとき
  - 車内警報音 “ピー（連続吹鳴）”、車外警報音“ピー（連続吹鳴）”も同時に連続して鳴ります。
  - Pレンジに入れてください も交互に表示されます。

  次のいずれかの方法で警報音が止まります。
  - 電子キーを車内に入れる。（車室内でのＩＤコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
  - “パワー”スイッチをＯＦＦにする。
  - シフトレバーをⓅにする。

■ステアリングロック確認警告表示

ステアリングロック
システム確認
ODO 237 km

ステアリングロックのシステムに異常があるとき。

警告表示がでたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告表示について

スマートエントリー&スタートシステムが作動しない状態でも異常があれば表示されます。

■ステアリングロック未解除警告表示

ステアリングロック
未解除
ODO 237 km

“パワー”スイッチを押し、約3秒以内に解除できなかったとき。

警告表示について

●スマートエントリー&スタートシステムが作動しない状態でも異常があれば表示されます。
●ハイブリッドシステムを始動すると表示が消えます。ハイブリッドシステムが始動しないときは、ハンドルを軽く左右にまわしながら、“パワー”スイッチを押してください。システムキー機能（P.248参照）を使用するときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらハイブリッドシステムを始動してください。

■電子キー違い警告表示

キーが
違います
ODO 237 km

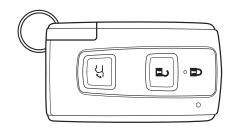
他の車両の電子キーをキースロットに差し込んだとき。
● 車内警報音 “ポーン（1回吹鳴）”も同時に鳴ります。

警告表示について

スマートエントリー&スタートシステムが作動しない状態でも異常があれば表示されます。

■警告音およびディスプレイ警告表示の作動一覧表

車内警報音	車外警報音	ディスプレイ表示	状　況
ピー（連続吹鳴）	ピー（連続吹鳴）	表示	“パワー”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅ以外のとき、運転席ドアを開けて電子キーを車外に持ち出した。
ポーン、ポーン…（断続吹鳴）	―	―	“パワー”スイッチがアクセサリーモードで、シフトレバーがⓅのとき、運転席ドアを開けた。
ポーン（1回吹鳴）	ピー、ピー、ピー（3回吹鳴）	表示	“パワー”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、運転席ドアを開けて電子キーを車外に持ち出した。
―	ピー（約2秒間吹鳴）	表示	“パワー”スイッチがＯＦＦ以外で、シフトレバーがⓅのとき、ロックスイッチを押して施錠しようとした。
ポーン（1回吹鳴）	ピー、ピー、ピー（3回吹鳴）	表示	“パワー”スイッチがＯＦＦ以外で、運転席ドア以外のドアを開けて電子キーを車外に持ち出した。
―	ピー（約2秒間吹鳴）	―	“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、電子キーを車内に置き忘れた状態でロックスイッチを押して施錠しようとした。
ポーン（1回吹鳴）	―	表示	電子キーのバッテリー電圧が２Ｖ（通常3Ｖ）近くになった。
ポーン（1回吹鳴）	―	表示（5秒間）	車室内発信機の検知エリア内に電子キーがない状態で、“パワー”スイッチを押した。
―	ピー（約10秒間吹鳴）	―	“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、いずれかのドアが半ドアの状態で、ロックスイッチを押して施錠しようとした。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
お車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

電子キー

電子キーには、以下のような機能が備わっています。

スマートエントリー&スタートシステム機能

電子キーを携帯するだけで、ドア・バックドアの施錠・解錠、“パワー”スイッチの切り替え、ハイブリッドシステムの始動ができます。

ワイヤレスドアロック機能

電子キーの、（施錠）スイッチ、（解錠）スイッチまたは（パワーバックドア）スイッチ★を押すことにより、ドア（バックドアを含む）の施錠・解錠またはパワーバックドアの自動開閉をすることができます。

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

メカニカルキー機能

電子キーに内蔵されているメカニカルキーを取り出して、運転席ドアの施錠・解錠をすることができます。
電子キーの電池が切れたときなどに使用します。

メカニカルキーでの施錠・解錠の仕方 ……………………………… P.156

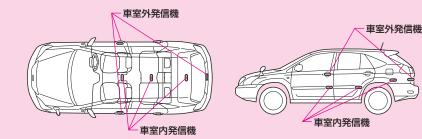
システムキー機能

電子キーをキースロットに差し込み、“パワー”スイッチの切り替え、ハイブリッドシステムの始動をすることができます。
電子キーの電池が切れたときなどに使用します。

電子キーの出し入れ ……………………………………………… P.244
パワー（イグニッション）スイッチの切り替え方 ………………… P.246
ハイブリッドシステム始動・停止の仕方 …………………………… P.248

心臓ペースメーカーや医療用電気機器などをお使いの方は、スマートエントリー＆スタートシステムの取り扱いに注意してください。

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器をお使いの方は、スマートエントリー＆スタートシステムの発信機から約22cm以内に、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器が近付かないようにしてください。
電波により、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

<車室外発信機・車室内発信機の位置>

●植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、スマートエントリー＆スタートシステムをお使いになる前に、医療用電気機器の製造事業者などに個別でご確認ください。
電波により、医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることもできます。
詳しくはP.148の**「キーキャンセル機能」**を参照してください。」

注意

電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障の原因となりますので、以下のことをお守りください。

●ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
●分解しないでください。
●無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
●水にぬらさないでください。
●磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
●テレビ、オーディオなどの磁気を帯びた機器、または低周波治療器などの医療電気機器の近くに置かないでください。
●超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
●電子キーにガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着すると、電子キーが変形したり、ひび割れたりすることがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステム機能やワイヤレスドアロック機能が正常に作動しない場合があります。その際には、メカニカルキー機能やシステムキー機能で操作してください。

- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
- 無線機、携帯電話およびコードレス電話などの無線通信機器を携行しているとき
- 電子キーが金属性のものに接したり、覆われたりしているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 電子キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき

知識

航空機内へのキーの持込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電子キーの保管について

電子キーをテレビ、パソコン、電磁調理器などの家電製品の近くに保管しないでください。家電製品の電磁波により、電子キーが誤作動したり、常時通信状態となり電池が著しく消耗する場合があります。

電子キーの使用個数について

同じ車両で電子キーは最大5個まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーナンバープレートについて

お客様以外に電子キーナンバーがわからないように、電子キーではなくプレートに電子キーナンバーを打刻しました。

電子キーナンバー

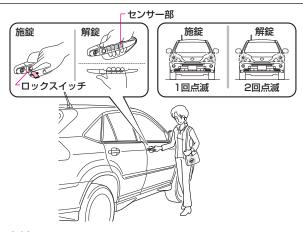
●電子キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。

●万一、電子キーを紛失した場合、トヨタ販売店で電子キーナンバーからトヨタ純正品の電子キーをつくることができます。

●万一、電子キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

スマートエントリー&スタートシステムでのドアの施錠・解錠の仕方

P.151の「ドアの開閉」をあわせてお読みください。

■施錠するときは

電子キーを携帯し、フロントドアハンドルにあるロックスイッチを押します。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠ができます。

●施錠時、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。※

●必ず施錠作動したことを確認してください。

■解錠するときは

電子キーを携帯し、フロントドアハンドル裏側のセンサー部に触れるように、ドアハンドルを握ります。

●すべてのドア（バックドアを含む）の解錠ができます。

●解錠時、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。※

スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドア（バックドアを含む）を施錠しないと、オートアラーム（盗難警報システム）は作動可能状態になりません（P.191参照）。ドアの施錠は、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでおこなうことをおすすめします。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

車室内に電子キーがある場合にドアロック操作をしないでください。電子キーが車室内に閉じ込められる可能性があります。

知 識

作動条件について

●車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内（P.123参照）に電子キーを携帯して入ると自動的にIDコードの照合をおこない、照合が一致したときのみドアの解錠が可能になります。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でロックスイッチを押すと、車室内外で、IDコードの照合をおこない車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると、施錠が可能になります。
- 電子キーを検知しているフロントドアハンドルでのみ、ドアの施錠・解錠をおこなうことができます。
- 作動範囲内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるときや、ドアガラスやドアハンドルに近付きすぎた場合は正常に作動しない場合があります。
- 電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠をおこなうことができます。

●電子キーが電池切れのときは、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスドアロック機能を使ってのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使用してください。詳しくはP.156の**「メカニカルキーでの施錠・解錠の仕方」**を参照してください。

●キースロットに電子キーが差し込まれているとき、またはいずれかのドア（バックドアを含む）が開いているときはロックスイッチを押しても施錠されません。

●メカニカルキーの操作により施錠すると、スマートエントリー&スタートシステムで解錠することはできません。その場合は、ワイヤレスドアロック（P.151参照）、またはメカニカルキー（P.156参照）の操作により解錠してください。

●キーキャンセルスイッチにより、スマートエントリー&スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはP.148の**「キーキャンセル機能」**を参照してください。

オートアラーム（盗難警報システム）について

スマートエントリー&スタートシステムを使ってドア（バックドアを含む）を施錠すると、オートアラーム（盗難警報システム）が作動可能状態になります。システムが作動可能状態のときに、運転席ドアのキーシリンダーにメカニカルキーを差し込んでドアを解錠する（P.156参照）と、オートアラームが作動します（P.191参照）。

施錠・解錠について

●施錠するときは、フロントドアハンドルにあるロックスイッチを確実に押して施錠されたことを確認してください。

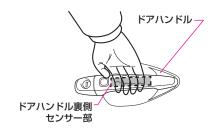
●ロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。

●施錠後、約3秒間はスマートエントリー&スタートシステムを使って解錠することはできません。

●ロックスイッチを押したとき、いずれかのドア（バックドアを含む）が開いていると半ドア警報（P.129参照）が鳴ります。また、ドアを開けながら、もしくは閉めながらロックスイッチを押しても半ドア警報が鳴ります。ドアの開閉時はロックスイッチに触れないようにしてください。

知識

施錠・解錠について

●解錠するときは、フロントドアハンドル裏側のセンサー部を確実に握り、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- ドアハンドル裏側のセンサー部以外に触れても解錠されません。

- 皮手袋、スキー手袋などを手に装着してフロントドアハンドル裏側のセンサー部に触れた場合は、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。

●確実に解錠させるためには、電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入ってから約3秒以内にフロントドアハンドルを握ってください。約3秒を経過すると、作動しない場合があります。

●急な車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内への接近や急なドアハンドル操作では、解錠できない場合があります。その際は、ドアハンドルを1度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してから、再度ドアハンドルを引いてください。

●電子キーが車室内発信機の検知エリア内（車両室内）にある場合でも、ワイヤレスドアロック（P.151参照）、メカニカルキー（P.156参照）を使っての施錠はできますが、施錠後のスマートエントリー＆スタートシステムを使っての解錠はできません。その場合は、ワイヤレスドアロック、メカニカルキーを使って解錠してください。

●解錠後、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。※

●電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあるとき、洗車や大雨などでフロントドアハンドルに多量の水がかかると、ドアが解錠することがありますが、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。※

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム

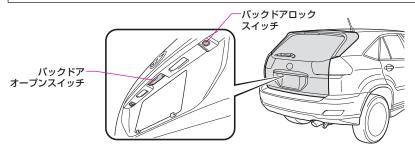
次のとき、キースロット照明、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）、スカッフプレート照明★、ドアレバー照明★、足元照明★が点灯し、約15秒後に消灯します。※

●電子キーを携帯し、車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入ったとき

●スマートエントリー＆スタートシステムを使ってドアを解錠したとき

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

スマートエントリー&スタートシステムでのバックドアの施錠・解錠の仕方

P.162の「バックドアの開閉」をあわせてお読みください。

■施錠するときは

電子キーを携帯し、バックドアのロックスイッチを押します。

●すべてのドアの施錠ができます。

●施錠時、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。※

■解錠するときは

電子キーを携帯し、バックドアオープンスイッチを押し続けます。

●すべてのドアの解錠ができます。

●解錠時、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。※

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってバックドアを施錠しないと、オートアラーム（盗難警報システム）は作動可能状態になりません（P.186参照）。バックドアの施錠は、スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでおこなうことをおすすめします。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

作動条件について

●車室外発信機（バックドア）の検知エリア内（P.123参照）に電子キーを携帯して入り、バックドアオープンスイッチを押すとＩＤコードの照合をおこない、照合が一致した時のみバックドアの解錠が可能になります。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でバックドアロックスイッチを押すと、車室内外で、IDコードの照合をおこない車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると、施錠が可能になります。

- 電子キーが車室外発信機（バックドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠することができます。
- 車室外発信機（バックドア）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるとき、リヤバンパー中央に近付け過ぎた場合は正常に作動しない場合があります。

知 識

作動条件について

●電子キーが電池切れのときは、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスドアロック機能を使ってのバックドアの施錠・解錠はできません。
●キースロットに電子キーが差し込まれているとき、またはいずれかのドアが開いているときはバックドアロックスイッチを押しても施錠されません。
●キーキャンセルスイッチにより、スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはP.148の**「キーキャンセル機能」**を参照してください。

施錠・解錠について

●施錠するときは、バックドアロックスイッチを確実に押して施錠されたことを確認してください。
●バックドアロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
●施錠後、約3秒間は解錠することはできません。
●バックドアロックスイッチを押したとき、いずれかのドアが開いていると半ドア警報（P.129参照）が鳴ります。また、バックドアを開けながら、もしくは閉めながらバックドアロックスイッチを押しても半ドア警報が鳴ります。バックドアの開閉時はバックドアロックスイッチに触れないようにしてください。
●急な車室外発信機（バックドア）の検知エリア内への接近や、急なバックドアロックスイッチおよびバックドアオープンスイッチ操作では、施錠・解錠できない場合があります。その際は、もう1度、ゆっくりと操作してください。
●電子キーが車室内発信機の検知エリア内（車両室内）にある場合でも、ワイヤレスドアロック（P.151参照）を使っての施錠はできますが、施錠後のスマートエントリー＆スタートシステムを使っての解錠はできません。その場合は、ワイヤレスドアロックを使って解錠してください。
●解錠後、バックドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。※

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム

次のとき、キースロット照明、ルームランプ（ＤＯＯＲの位置のとき）、スカッフプレート照明★、ドアレバー照明★、足元照明★が点灯し、約15秒後に消灯します。※
●電子キーを携帯し、車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入ったとき
●スマートエントリー＆スタートシステムを使ってバックドアを解錠したとき

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

スマートエントリー&スタートシステムでのパワー（イグニッション）スイッチの切り替え方

P.104の「パワー（イグニッション）スイッチの切り替え方」をあわせてお読みください。

1 電子キーを携帯し、運転席に座ります。

2 **ブレーキペダルを踏まずに、“パワー”スイッチを押します。**

スイッチを押すごとに、

ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒

ＯＮモード⇒ＯＦＦ…

の順に切り替わります。

- スイッチの作動表示灯の色で“パワー”スイッチの状態を確認します。
- ＯＮモード⇒ＯＦＦは車両が停止しているときに切り替わります。
- スイッチを早く押すと、“パワー”スイッチが切り替わらないことがあります。目的の状態になるまで、１回ごと確実に押してください。
- シフトレバーがⓅの位置にあることを確認してください。

“パワー”スイッチの状態	“パワー”スイッチ作動表示灯	各状態の働き
OFF	消灯	**走行不可** すべての電装品が作動を停止しています。
アクセサリーモード	点灯（緑）	**走行不可** オーディオなどの電装品が使用できます。
ONモード	点灯（オレンジ）	**走行不可** すべての電装品が使用できます。

→はブレーキペダルを踏まずに、“パワー”スイッチを押します。
- - →は車両が完全に停止した状態で、“パワー”スイッチを押します。

知 識

作動条件について

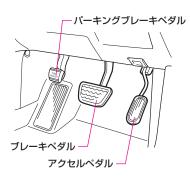
●車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、“パワー”スイッチを切り替えることができません。
●電子キーをインストルメントパネル上、トノカバー上、フロア上、グローブボックス内などに置かないでください。“パワー”スイッチが切り替わらないことがあります。また、電子キーがラゲージルーム内では“パワー”スイッチを切り替えることはできません。
●電子キーが電池切れのときは、“パワー”スイッチを切り替えることはできません。この場合は、電子キーをキースロットに差し込み、“パワー”スイッチを切り替えてください。詳しくはP.246の**「パワー（イグニッション）スイッチの切り替え方」**を参照してください。
●キーキャンセルスイッチにより、スマートエントリー&スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはP.148の**「キーキャンセル機能」**を参照してください。
●スマートエントリー&スタートシステムを使って“パワー”スイッチを切り替えても、キースロットに正規の電子キーを挿し込むことができます。正規の電子キー以外は挿入しないでください。

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより“パワー”スイッチが切り替わらないことがあります。
（P.442参照）

スマートエントリー&スタートシステムでのハイブリッドシステム始動・停止の仕方

P.105の「ハイブリッドシステム始動・停止の仕方」をあわせてお読みください。

ハイブリッドシステム始動の仕方

1 電子キーを携帯し、運転席に座ります。

2 ペダルの位置を確認します。

正しい運転姿勢（P.193参照）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

3 右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキがかかっていることを確認します。

4 シフトレバーがⓅの位置にあることを確認します。

5 ブレーキペダルを踏みながら、“パワー”スイッチを押します。

- スイッチの作動表示灯がオレンジ色に点灯し、その後、消灯します。
- メーター内のREADY（走行可能表示灯）が点滅し、間もなく点灯に変わると同時に“ピッ”と音がすれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

●シフトレバーの位置がⓃではハイブリッドシステムは始動できません。必ずⓅにしてから始動させてください。
●どの“パワー”スイッチの状態からでも始動することができます。
●READY が点灯していれば、ガソリンエンジンが始動していなくても走行できます。
●車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。

ハイブリッドシステム停止の仕方

車両を完全に停止させ、シフトレバーをⓅに入れて“パワー”スイッチを押します。
● “パワー”スイッチがＯＦＦになり、ハイブリッドシステムが停止します。

知 識

作動条件について

●車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、ハイブリッドシステムを始動することはできません。
●電子キーをインストルメントパネル上、トノカバー上、フロア上、グローブボックス内などに置かないでください。ハイブリッドシステムが始動できないことがあります。また、電子キーがラゲージルーム内ではハイブリッドシステムの始動はできません。
●電子キーが電池切れのときは、ハイブリッドシステムの始動はできません。この場合は、電子キーをキースロットに差し込みハイブリッドシステムを始動してください。詳しくはP.248の**「ハイブリッドシステム始動・停止の仕方」**を参照してください。
●キーキャンセルスイッチにより、スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることができます。詳しくはP.148の**「キーキャンセル機能」**を参照してください。
●スマートエントリー＆スタートシステムを使ってハイブリッドシステムを始動させても、キースロットに正規の電子キーを挿し込むことができます。正規の電子キー以外は挿入しないでください。

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより、ハイブリッドシステムが始動しないことがあります。（P.442参照）

キーキャンセル機能について

作動可能状態	作動停止状態

運転席足元にあるキーキャンセルスイッチを押して、作動停止状態にすると、スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることができます。

●もう一度押すと作動可能状態になります。

節電機能について

電子キーと車両は定期的に通信をおこなうため、車室外発信機の検知エリア内（フロントドア、バックドア）に電子キーを長時間置いていると、電子キーのバッテリーおよび車両の補機バッテリーがあがるおそれがあります。
そこで、それらのバッテリーあがりを防止するために、次のときスマートエントリー＆スタートシステムを自動で停止します。

- 14日以上、電子キーから応答がないとき
- 10分以上、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがあるとき

スマートエントリー＆スタートシステムを復帰させるには、次のいずれかを方法をおこなってください。

- 車両に近付き電子キーの（施錠）スイッチ、（解錠）スイッチまたは（パワーバックドア）スイッチ★のいずれかを押してＩＤコードの照合を一致させる。
- フロントドアハンドルまたはバックドアのロックスイッチを押し、施錠操作をする。

知識

スマートエントリー＆スタートシステムについて

スマートエントリー＆スタートシステムでは、ドア施錠時に車室外発信を定期的におこなっています。そのため、車両を長時間放置すると車両の補機バッテリーがあがるおそれがあります。
車両を長時間使用しないときは、キーキャンセルスイッチを作動停止状態にしてください。

ドアガラス・ムーンルーフ（ムーンルーフ装着車）の閉機構

スマートエントリー＆スタートシステムを使ってドアハンドル上のロックスイッチを押してドア施錠後、そのまま約3秒以上ロックスイッチを押し続けると、押している間すべてのドアガラスとムーンルーフを閉じることができます。

●ロックスイッチから手を離すと停止します。

警告　ロックスイッチの不必要な長押しや、ドアハンドルへの寄りかかりはしないでください。

●ロックスイッチの不必要な長押しや、ドアハンドルへの寄りかかりはしないでください。無意識のうちに閉機能が作動してしまいドアガラスやムーンルーフに手や頭などを挟まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ドアガラスやムーンルーフを閉じるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアガラス・ムーンルーフの全閉後にロックスイッチを押し続けないでください。故障の原因になります。

知 識

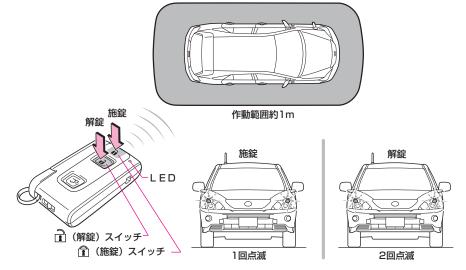
作動条件について

●電子キーがキースロットに差し込まれていたり、“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたはＯＮモードのときは作動しません。

ドア、ドアガラスなどの開閉

ドアの開閉

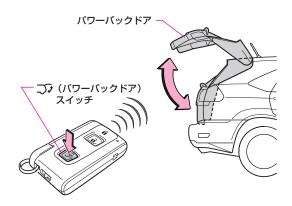
P.139の「スマートエントリー&スタートシステムでのドアの施錠・解錠の仕方」をあわせてお読みください。

ワイヤレスリモコンでの施錠・解錠の仕方

（施錠）スイッチを押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が施錠、（解錠）スイッチを押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。

●施錠したときはブザーが1回鳴り、非常点滅灯が1回点滅します。解錠したときはブザーが2回鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。※
●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
●スイッチを押すと、LEDが点灯します。
●施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

ワイヤレスリモコンまたはスマートエントリー&スタートシステムを使ってドア（バックドアを含む）を施錠しないと、オートアラーム（盗難警報システム）は作動可能状態になりません（P.191参照）。ドアの施錠は、ワイヤレスリモコンまたはスマートエントリー&スタートシステムでおこなうことをおすすめします。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

パワーバックドアの開閉の仕方 ★

パワーバックドアが全閉（全開）状態のとき、（パワーバックドア）スイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。※

●開閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
●開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

警告

パワーバックドアを閉めるときはほかの人の手などを挟まないよう十分注意してください。

●パワーバックドアを閉めるときはほかの人の手などを挟まないよう十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●自動開閉時は周辺に人がいないか、器物がないか、身の回り品が挟みこまれないか安全を確認し、バックドアで指などを挟まないよう十分注意してください。人がいるときは、安全を確認し動かすことをしらせる「声かけ」をしてください。また、お子さまには操作をさせないでください。重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
●走行前にバックドアが確実にロックされていることを確認してください。
●お子さまを単独でパワーバックドアスイッチの近くに残さないでください。
●パワーバックドアを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにしてください。

注意 **電子キーは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となりますので、以下の点にご注意ください。**

- ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
- 分解しないでください。
- 落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 水にぬらさないでください。

注意

- ワイヤレスリモコンは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステム機能やワイヤレスドアロック機能が正常に作動しない場合があります。その際には、メカニカルキー機能やシステムキー機能で操作してください。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
  - 無線機、携帯電話およびコードレス電話などの無線通信機器を携行しているとき
  - 電子キーが金属性のものに接したり、覆われたりしているとき
  - 複数の電子キーが近くにあるとき
  - 電子キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき

知 識

作動条件について

●周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約1mまで近付いて操作してください。
●バックドアガラスに次のものを貼り付けると、車両後方からスイッチの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなることがあります。
- 金属を含有するウインドゥフィルム
- その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）

●スイッチは、キースロットに電子キーが差し込まれているとき、または、いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているときは作動しません。
●（パワーバックドア）スイッチは、運転席にあるメインスイッチがＯＦＦになっているときは作動しません。
●（パワーバックドア）スイッチを押しても開閉作動されなかったときは、スイッチを押しなおしてください。
●（解錠）スイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは自動的に施錠されます。※

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム（P.407参照）

ドアの開閉、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンによる施錠・解錠などと連動して、室内の各照明が点灯・消灯します。

バックドア閉め忘れ警告ブザー

半ドアの状態でワイヤレスリモコンの（施錠）スイッチを押すと“ピー”と約10秒間ブザーが鳴ります。バックドアを閉めるか（解錠）スイッチを押すとブザーが鳴り止みます。

電池交換について

スイッチを押しても作動しない場合や著しく作動可能距離が短くなった場合、または電子キー本体のＬＥＤが暗くなったり、点灯しなくなった場合、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。
電池交換は市販の精密ドライバーを使用すれば、お客様自身で交換できます。
Ｐ.479の**「電子キー電池交換」**を参照してください。（トヨタ販売店でも交換できます。）

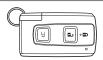
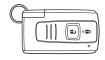
知識

航空機内へのキーの持込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電子キーについて

●電子キーはドアの施錠・解錠の他、“パワー”スイッチの切り替え、ハイブリッドシステムの始動などに使います。
●電子キーは2個あります。

パワーバックドア装着車

パワーバックドア非装着車

●この車にはオートアラーム（盗難警報システム）が装備されています。詳しくは、P.443を参照してください。
＊電子キーの個数は、車の仕様により、異なる場合があります。

キーナンバープレートについて

お客様以外に電子キーナンバーがわからないように、電子キーではなくプレートに電子キーナンバーを打刻しました。

●電子キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
●万一、電子キーを紛失した場合、トヨタ販売店で電子キーナンバーからトヨタ純正品の電子キーをつくることができます。電子キーをつくるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

紛失について

●電子キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
●電子キーを紛失しないように十分注意してください。電子キーを紛失すると、電子キーの作製とコンピューターの交換が必要となります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

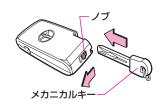
使用個数について

電子キーは、同じ車両で最大5個まで使用することができます。

メカニカルキーでの施錠・解錠の仕方

■取り出し方

電子キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、メカニカルキーを取り出します。

■格納の仕方

電子キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、メカニカルキーを左図のように差し込み、ノブをもどしてロックします。

■施錠・解錠の仕方

運転席ドア

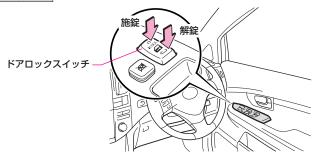
右にまわすと施錠、左にまわすと解錠されます。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠ができます。

運転席ドアのキーシリンダーにメカニカルキーを差し込んでドアを施錠した場合、オートアラーム（盗難警報システム）は作動可能状態になりません（P.191参照）。ドアの施錠は、ワイヤレスリモコンまたはスマートエントリー&スタートシステムでおこなうことをおすすめします。

電子キーの電池切れなどで、ワイヤレスドアロックの操作ができないとき、またはスマートエントリー&スタートシステムでドアの施錠・解錠ができないときは、メカニカルキーでおこなってください。ただし、オートアラームが作動可能状態になっている場合、運転席ドアのキーシリンダーにメカニカルキーを差し込んで解錠するとオートアラームの警報が作動します（P.190参照）。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠の仕方

運転席ドア

スイッチの前側を押すと施錠、うしろ側を押すと解錠されます。
●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠が同時にできます。

知 識

作動条件について

●“パワー”スイッチの状態に関係なく使用できます。
●スイッチを押し続けると作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

便利機能について

衝撃感知ドアロック解除システム
車両が前後左右から強い衝撃を受けると、数秒後に全ドアが自動的に解錠されます。
●ＳＲＳエアバッグが作動しないような弱い衝撃のときや、事故の形態によっては作動しないことがあります。

セキュリティ機能について

車両盗難などを防ぐため、ドアロックスイッチでの解錠作動を停止する機能です。
（窓枠とドアガラスのすき間からドアロックスイッチを押して解錠されるのを防止します。）
以下の方法で施錠したとき自動的に機能します。
●スマートエントリー&スタートシステムを使っての施錠（P.139参照）
●ワイヤレスドアロック機能を使っての施錠（P.151参照）
●ワイヤレスドアロック機能を使っての解錠操作後、ドアを開けなかったときの再施錠（P.154参照）
●ロックレバーを使っての施錠（P.159参照）

知識

ユーザーカスタマイズについて

電気式ドアロックの各機能の設定をお客様のお好みにより、お客様自身で変更することができます。（トヨタ販売店でも変更できます。）

すべてのドアを閉め、“パワー”スイッチをＯＦＦまたはアクセサリーモードからＯＮモードにして、約10秒以内に下表の変更方法にしたがってシフトレバーとドアロックスイッチを操作してください。

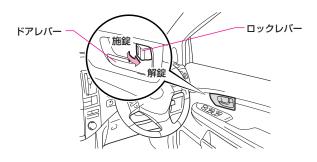
●下表の変更方法にしたがって操作するたびに、各機能の設定が有効・無効に切り替わります。（現状の各機能の設定が有効ならば無効に、無効ならば有効に切り替わります。）

●変更操作が完了すると、施錠・解錠動作が1回繰り返されます。

機能	内容	変更方法	
		シフトレバー位置	ドアロックスイッチ
シフト連動オートロック ※	READY（走行可能表示灯）点灯中で、すべてのドアが閉まっているとき、シフトレバーをⓅからⓅ以外にすると、すべてのドアを施錠する。	Ⓟの位置	スイッチの前側（施錠側）を約5秒押して離す。
シフト連動オートアンロック	“パワー”スイッチがＯＮモードで、シフトレバーをⓅ以外からⓅにすると、すべてのドアを解錠する。		スイッチのうしろ側（解錠側）を約５秒押して離す。
車速感応オートドアロック	車速が約20km/h以上になるとすべてのドアを施錠する。	Ⓟ以外の位置	スイッチの前側（施錠側）を約5秒押して離す。
運転席ドア連動オートアンロック ※	“パワー”スイッチをＯＮモードからアクセサリーモードまたはＯＦＦにしたあと、約10秒以内に運転席ドアを開けると、すべてのドアを解錠する。		スイッチのうしろ側（解錠側）を約５秒押して離す。

※の機能は、初期設定（工場出荷時）では無効に設定されています。

ロックレバーでの施錠・解錠の仕方

■車内での施錠・解錠

ロックレバーを前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■車外からの施錠の仕方

フロントドアはロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。リヤドアはロックレバーを施錠側にして、ドアを閉めます。

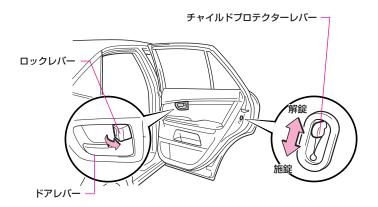
知 識

オートアラーム（盗難警報システム）について

ロックレバーにより車外から施錠した場合、オートアラーム（盗難警報システム）は作動可能状態にはなりません（P.191参照）。ドアの施錠は、ワイヤレスリモコンまたはスマートエントリー＆スタートシステムでおこなうことをおすすめします。

便利機能について

運転席ドアはロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと、ドアが開きます。

チャイルドプロテクターの使い方

チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。
●車内のドアレバーで、リヤドアを開けることができなくなります。

知 識

チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のドアレバーの操作では、リヤドアが開かないように施錠できます。

チャイルドプロテクターが働いているときのドアの開け方

ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて開けます。万一、車内から開けるときは、ドアガラスを開け、ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて開けます。

⚠警告 走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

- 走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はドアレバーを引かないでください。
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまにドアの操作をさせないでください。
  - 閉めるときに手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - 走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアを開閉するときは、傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持して開閉してください。

知 識

便利機能について

電子キー抜き忘れ防止チャイム

“パワー”スイッチがＯＦＦまたはアクセサリーモードのとき運転席ドアを開けると、電子キーの抜き忘れを警告するチャイムが“ポーン、ポーン”と鳴ります。
電子キーの閉じ込み防止のため、電子キーを持っていることを確認してから施錠してください。

イルミネーテッドエントリーシステム（P.407参照）

ドアの状態や“パワー”スイッチ、シフトレバーの位置によって各部の照明が点灯・消灯します。

乗車中のドアの施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠、解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますので、選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉

- 同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- 車外からの不意の侵入者を防ぎます。
- シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

〈乗車中、解錠している場合〉

- 万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。

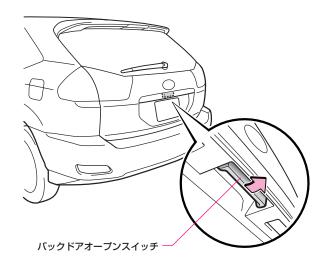
車から離れるときは、必ずハイブリッドシステムを停止し、施錠することが法律で義務付けられています。また、車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

バックドアの開閉

施錠・解錠の仕方

P.139の「スマートエントリー&スタートシステムでのドアの施錠・解錠の仕方」、P.157の「ドアロックスイッチでの施錠・解錠の仕方」、P.151の「ワイヤレスリモコンでの施錠・解錠の仕方」をお読みください。

開閉の仕方

■開け方

バックドアオープンスイッチを押しながら、バックドアを持ち上げます。
- ●バックドアを開けるときは、最上部まで持ち上げてください。
- ●バックドアが自然に降下しないことを確認してください。

■閉め方

バックドアを下ろします。
- ●バックドア下端を押さえ付けロックします。
- ●パワーバックドア装着車は、バックドアを半ドアの位置まで閉めるとイージークローザーが働き、自動的に全閉になります。

走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

- 走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまを乗せているときは以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
  - ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
  - お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
  - バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
  - バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
  - 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
  - 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
  - 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

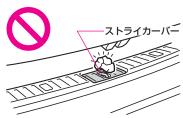
●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

⚠注意 バックドアを開閉する前に付近の状態を必ず確認してください。

●バックドアを開閉する前に、運転者はバックドアが安全に開閉できるように車外および車内のバックドア付近の状態を必ず確認してください。

●バックドアを閉めるときは、ストライカーバーに異物がかみこまないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

●バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取りつけられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などで触れない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

知識

開閉について

●走行中（車速が約5km/h以上）にバックドアオープンスイッチを押してもバックドアは開きません。
●パワーバックドア装着車はバックドアの自動開閉中にバックドアオープンスイッチを押すとブザーが鳴りその位置から自動的にドアは反対方向に動きます。

初期設定について

補機バッテリー交換やヒューズ交換などで、補機バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーバックドア（パワーバックドア装着車）およびパワーウインドゥの初期設定をしてください。（パワーウインドゥの初期設定についてはP.178を参照。）
●パワーバックドア装着車はバックドアの初期設定がされていないと、パワーバックドア機能が作動しません。

■初期設定の仕方

補機バッテリー再接続後、パワーバックドアを開け、手で確実に閉めてください。（イージークローザーが働くことにより、初期設定されます。）

バックドアイージークローザー ★

パワーバックドア装着車は、バックドアを半ドアの位置まで閉めるとイージークローザーが働き、自動的に全閉になります。“パワー”スイッチの状態に関係なく作動します。

パワーバックドア装着車では、半ドア状態のときイージークローザーが働きバックドアが自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。

●バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをバックドアで挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチがOFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

イージークローザーの装着部位

パワーバックドア装着車では、イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●イージークローザーの故障を防ぐためにイージークローザーの作動中はバックドアに無理な力をかけないでください。

●バックドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

知 識

バックドアイージークローザーについて

バックドアを半ドアの位置まで閉めると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。“パワー”スイッチの状態に関係なく作動します。

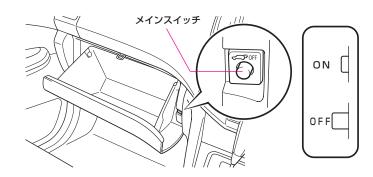
●パワーバックドアのメインスイッチがＯＦＦのときでもイージークローザーは作動します。

●イージークローザーの作動中でも、バックドアオープンスイッチ（Ｐ.162参照）を押すことによりバックドアを開けることができます。

●バックドアオープンスイッチを押したままドアを閉めるとイージークローザーは作動しないことがあります。

●イージークローザーを使わずに手動でバックドアを全閉にすることもできます。

パワーバックドアの自動開閉の仕方 ★

■メインスイッチ

メインスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。

●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワーバックドアを自動で開閉させることはできません。

知 識

メインスイッチについて

メインスイッチがＯＦＦのときでもイージークローザーは作動します。（P.167参照）

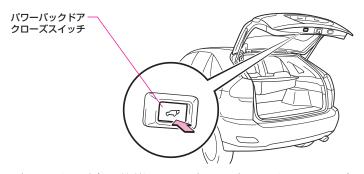
■パワーバックドアスイッチによる自動開閉

バックドアが全閉（全開）状態のときパワーバックドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。※

●開閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。

●開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

■パワーバックドアクローズスイッチによる自動閉作動

バックドアが全開状態のときパワーバックドアクローズスイッチを押すと、バックドアが自動で閉まります。

●閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。

●閉作動中に再度スイッチを押すと、全開方向に反転作動します。

■パワーバックドアリモコンスイッチでの自動開閉

操作方法については、P.152の**「パワーバックドアの開閉の仕方」**を参照してください。

パワーバックドアについては以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- ●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- ●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことをしらせる「声かけ」をしてください。
- ●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
- ●自動開閉中に、パワーバックドアメインスイッチをOFF にしたときは、作動が停止し、手動操作に切り替わります。この場合バックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
- ●傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- ●次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“パワー”スイッチをON モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- ●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。
- ●タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチをOFF にしてください。OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたときにパワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

パワーバックドアについては以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能が作動したときは、十分注意してください。バックドアに当たりけがをするおそれがあります。
- 挟み込み防止機能はバックドアが閉まる途中で異物を感知すると反転しますが、体を挟んだ場合けがをするおそれがあるため、十分注意してください。
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- パワーバックドアの左右端部のセンサーは障害物を検知し、挟み込みを防止する装置です。挟まれる物の形状や挟まれかたによっては検知できない場合があります。ドア開閉時は指などを挟まないよう十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

パワーバックドアの故障を防ぐために、以下のことを必ずお守りください。

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（P.173参照）を刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

●パワーバックドアが自動で全開した直後に手動でバックドアを閉めようとすると抵抗を感じる場合があります。

知識

パワーバックドアの作動条件について

●メインスイッチがＯＦＦのときは、パワーバックドアは作動しません。（手動で開閉できます。）
●メインスイッチがＯＮで、バックドアが解錠されているとき作動可能となります。
●“パワー”スイッチがＯＮモードのとき開作動するには、上記に加え、シフトレバーをⓅにします。
●パワーバックドアリモコンは、キースロットに電子キーが差し込まれているときは作動しません。

安全機能について

パワーバックドア装着車

挟み込み防止機構

バックドアの自動開閉中に、バックドアとラゲージルームの間に人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴りその位置から自動的にドアは反対方向に動きます。

●パワーバックドアの左右端部には、センサーがついています。
ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが圧縮されると挟み込み防止機構が作動し、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。

パワーバックドア落下防止機構

バックドアを自動で開けたとき、バックドアに荷物が積まれていたり積雪があると、バックドア全開後自動でバックドアが閉まります。
バックドア全開時に、積雪などの重みでバックドアが落下することを防止します。
落下防止機構が作動してるときは、“ピーピーピー”と警告音が鳴ります。
●バックドアに荷物を搭載しないでください。
●バックドアに積雪があるときは、パワーバックドアを作動する前に除雪してください。
●自動で全開した直後に、手動でバックドアを閉めようとすると、落下防止機能が作動することがありますが故障ではありません。

知識

便利機能について

ラゲージランプ（P.381参照）

（P.381参照）

ラゲージランプのスイッチがＯＮのとき、バックドアを開けるとラゲージランプが点灯します。夜間などの荷物確認に便利です。

バックドア閉め忘れ防止ブザー

パワーバックドア装着車

バックドアが開いた状態で“パワー”スイッチをＯＮモードにして、シフトレバーをⓅ以外にシフトすると、“ピーピーピー”と警告音が鳴ります。

初期設定について

補機バッテリー交換やヒューズ交換などで、補機バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーバックドア（パワーバックドア装着車）およびパワーウインドゥの初期設定をしてください。
（パワーウインドゥの初期設定についてはＰ.178を参照。）

- パワーバックドア装着車はバックドアの初期設定がされていないと、パワーバックドア機能が作動しません。

■初期設定の仕方

補機バッテリー再接続後、パワーバックドアを開け、手で確実に閉めてください。（イージークローザーが働くことにより、初期設定されます。）

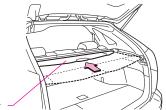
便利機能について

バックドアグリップ

バックドアを降ろすときに便利です。

バックドア
グリップ

自動巻き取りトノカバー

バックドアを閉める前にトノカバーを引き出している場合、バックドアを開けると自動でトノカバーを巻き取ります。自動巻き取り機能を解除することもできます。（Ｐ.404参照）

知識

開閉について

傾斜した場所では、平坦な場所よりもドアの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

エマージェンシーレバーについて

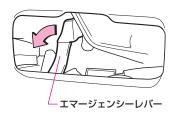
補機バッテリーがあがったときなど、車外からバックドアを開けられなくなったときは、エマージェンシーレバーを操作して車内からドアロックを解除することができます。

1　カバーを開けます。

車内に入り、メカニカルキーまたはマイナスドライバーなどを使用してカバーを開けます。

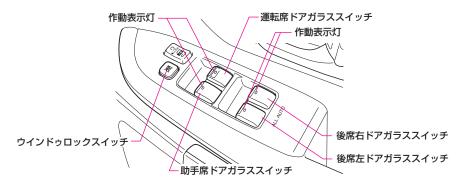
2　エマージェンシーレバーを押したままバックドアを押し開けます。

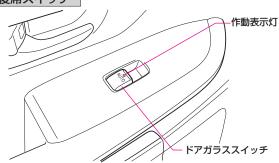
パワーバックドア装着車

パワーバックドア装着車を除く

故障しているときは、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ドアガラスの開閉

パワーウインドゥの使い方

運転席スイッチ

運転席スイッチですべてのドアガラスの開閉がおこなえます。

助手席スイッチ、後席スイッチ

自席のドアガラスの開閉がおこなえます。

■ドアガラスの開閉の仕方

スイッチを下に軽く押している間は開き、上に軽く引いている間は閉まります。スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■ドアガラスの自動開閉の仕方

●全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。
　途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。

●全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。
　途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。

知識

作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。
ただし、助手席スイッチ、後席スイッチはウインドゥロックスイッチがＯＮ（P.179参照）になっているときは作動しません。

● “パワー”スイッチをＯＮモードまたはハイブリッドシステムを始動すると、各スイッチの作動表示灯が点灯します。
●各スイッチの作動表示灯が点滅しているときは、パワーウインドゥの初期設定をしてください。（次ページ参照）

安全機能について

挟み込み防止機構

ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き止まります。

●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

便利機能について

キーＯＦＦ後作動機能

ドアガラスは、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたはＯＦＦにしたあとでも約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。

●キーＯＦＦ後作動が機能している間は、各スイッチの作動表示灯が点灯します。

ドアキー連動開閉機構

運転席ドアのキーシリンダーにメカニカルキーを差し込み、解錠側いっぱいにまわしたまま保持すると、保持している間すべてのドアガラスが開き、施錠側いっぱいにまわしたまま保持すると、保持している間すべてのドアガラスが閉まります。

ワイヤレスドアロックリモコンスイッチ連動開閉機構

ワイヤレスドアロックリモコンの （施錠）スイッチを約3秒以上押し続けると、すべてのドアガラスが閉まり、 （解錠）スイッチを約3秒以上押し続けると、すべてのドアガラスが開きます。

●スイッチから手を離すと停止します。
●この機能を解除することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

スマート機能連動開閉機構（P.150参照）

知 識

初期設定について

補機バッテリー交換やヒューズ交換などで、補機バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーウインドゥおよびパワーバックドア（パワーバックドア装着車）の初期設定をしてください。（パワーバックドアの初期設定についてはP.174を参照。）

●パワーウインドゥの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。
- 運転席スイッチでの助手席、後席ドアガラスの開閉
- ドアガラスの自動開閉
- 挟み込み防止機構
- キーＯＦＦ後作動機能
- ドアキー連動開閉機構
- ワイヤレスドアロックリモコンスイッチ連動開閉機構
- スマートエントリー＆スタートシステム連動閉機構

●パワーウインドゥの初期設定がされていないドアガラスは、スイッチの作動表示灯が点滅します。

■初期設定の仕方

各ドアガラスごとに、各席スイッチでおこないます。
運転席スイッチで助手席、後席ドアガラスのパワーウインドゥの初期設定をすることはできません。

〈設定手順〉

1 “パワー”スイッチをＯＮモードにします。

2 スイッチを下に押し続け、半分くらいまでドアガラスを開けます。

3 スイッチを上に引き続け、ドアガラスを全閉します。
全閉後、約1秒間スイッチを上に引き続けてください。

パワーウインドゥの初期設定が完了すると、スイッチの作動表示灯が点滅から点灯にかわります。

ウインドゥロックスイッチの使い方

ウインドゥロックスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。スイッチをＯＮにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥは開閉しません。

●スイッチをＯＮにすると、運転席以外のドアガラススイッチ作動表示灯が消灯します。

ウインドゥロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席スイッチ、後席スイッチ
ＯＮ	運転席ドアガラスの開閉ができます。	開閉できません。
ＯＦＦ	すべてのドアガラスの開閉ができます。	開閉できます。

走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。

●走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

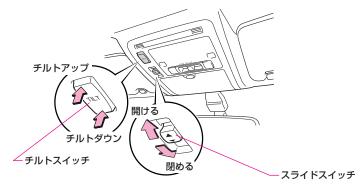
●挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると、閉めることができます。

運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。
●ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

ムーンルーフの開閉 ★

スライド開閉の仕方

■開けるときは

●スライドスイッチを手前に引くと、ムーンルーフが自動で開きます。

- 全開前にいったん作動を停止します。スイッチをもう一度押すと全開します。
- 室内への風の巻き込みを防ぐディフレクターが自動的に上がります。

■閉めるときは

●スライドスイッチを前方に押すと、ムーンルーフが自動で閉まります。

チルトアップ／ダウンの仕方

■開けるときは

●ムーンルーフが閉まっているとき、チルトスイッチのチルトアップ側を押すと、自動でチルトアップします。

■閉めるときは

●チルトアップしているとき、チルトスイッチのチルトダウン側を押すと、自動でチルトダウンします。

途中で止めるには

チルトスイッチまたはスライドスイッチを押します。

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

走行中はムーンルーフから手や顔を出さないでください。またムーンルーフを閉めるときは他の人の手・頭・首などを挟まないようにしてください。

●走行中はムーンルーフから手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ムーンルーフを閉めるときやチルトダウンするときは、他の人の手・頭・首などを挟まないように注意してください。ムーンルーフに挟まれて、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機能を故意に作動させるために、手などを挟んだりしないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ムーンルーフを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまにムーンルーフの操作をさせないでください。閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●開口部に腰かけないでください。ルーフがへこんだり、万一のとき車から投げ出され、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

ムーンルーフから荷物がはみ出すと、車外のものにあたるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ムーンルーフから荷物がはみ出さないようにしてください。車外のものにあたるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●車から離れるときや、洗車時には完全に閉まっていることを確認してください。また、ムーンルーフ上に水や雪がないことを確認してから開けてください。雨や水が室内に入り、オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると、火災や故障の原因となるおそれがあります。

●ムーンルーフの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。ムーンルーフの故障の原因となります。

●故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、ムーンルーフを自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けると、閉めることができます。

知識

作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

安全機能について

挟み込み防止機構

ムーンルーフを自動で閉めるときに、窓枠とルーフの間に異物の挟み込みを感知すると、作動を停止し、自動で少し開き、止まります。

●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がムーンルーフに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

サンシェードについて

●ムーンルーフを開けると連動して開きます。
●手動で開閉できます。

全開前停止機能について

ムーンルーフを自動で開けると、全開前にいったん作動を停止します。この位置で走行すると、全開状態に比べて、風切り音が小さくなります。

便利機能について

キーＯＦＦ後作動機能

ムーンルーフは、“パワー”スイッチをＯＦＦにしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に、運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ムーンルーフの開閉はできなくなります。

ドアキー連動開閉機構

運転席ドアのキーシリンダーにメカニカルキーを差し込み、解錠側いっぱいにまわしたまま保持すると、保持している間ムーンルーフが開き、施錠側いっぱいにまわしたまま保持すると、保持している間ムーンルーフが閉まります。

スマートエントリー＆スタートシステム連動閉機構（P.150参照）

ムーンルーフ閉め忘れ警告機能

“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、ムーンルーフが開いている状態のまま運転席側ドアを開けると、“ポーン”という音が鳴るとともにメーター内に警告内容が表示されます。（P.295参照）

知識

ムーンルーフが反転して閉じきらない場合の復帰操作について

下記の操作を行ってください。

■スライドクローズ時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止します。

2 スライドスイッチを前方に押し続けます。※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなします。

■チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止します。

2 チルトスイッチのチルトアップ側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にします。その後スイッチから一度手をはなし、再度チルトアップ側を押し続けます。※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で10秒間停止し、※2 微調節後1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなします。

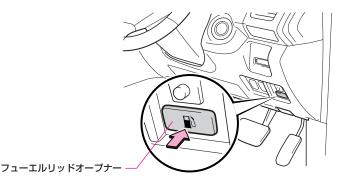
※1 途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

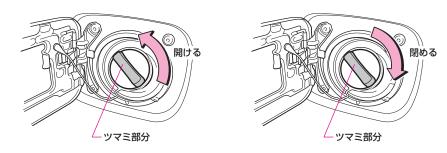
※2 10秒間停止した後にスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、チルトスイッチのチルトアップ側または、スライドスイッチを前方に押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手をはなしてください。

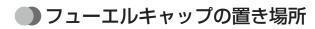
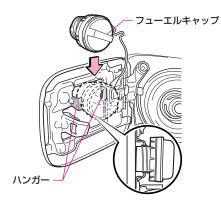
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

フューエルリッドの開閉

運転席インストルメントパネル右下にあるフューエルリッドオープナー（⛽）を押すと開きます。
閉めるときは、フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで閉めます。

フューエルキャップの開閉

キャップのツマミ部分を持ち、左にまわして開けます。
閉めるときは、キャップのツマミを持ち、“カチッ”と音がするまで右にまわして閉めます。

フューエルキャップの置き場所

給油中は、フューエルキャップをハンガーにかけておきます。

警告　燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。
- ハイブリッドシステムは必ず止めてください。
- 車のドア・窓は閉めてください。
- タバコなど火気を近付けないでください。
- フューエルリッド・フューエルキャップを開けるなど給油操作をおこなう前に、車体などの金属部分に触れて体の静電気除去をおこなってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。フューエルキャップをゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

警告 燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。
- 給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください。（再帯電することがあります）
- 給油口には静電気除去をおこなった方以外の人を近付けないでください。
- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわし、確実に閉まっていることを確認してください。
- 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- セルフ給油所で給油する際は、少量継ぎ足し給油をおこなわないでください。給油口から燃料が吹きこぼれる場合があります。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

●給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

注意 指定以外の燃料を使用しないでください。

●指定燃料は、無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合、無鉛レギュラーガソリンでも使用できますが、エンジンの出力低下等の現象が発生します。

●指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用するとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

●給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。

●フューエルリッドが開かないときは、電気系統などの故障が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

フューエルリッドの位置について

フューエルリッド（燃料補給口）は車両助手席側後方にあります。

燃料タンク容量について

燃料タンク容量は約65Ｌです。

ボンネットの開閉

開け方

1 ボンネットオープナーを引きます。

運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

2 ボンネットフックをはずします。

ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押し上げ、ボンネットを持ち上げます。

閉め方

1 ボンネットを降ろします。

2 ボンネットを押さえ付けます。

ボンネットの前端を押さえ付けロックします。

3 ロックされていることを確認します。

ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

●ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

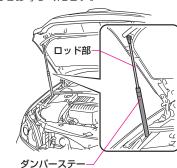
注意

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物がステーのロッド部（メッキしてある棒部）に付着しないようにしてください。また、繊維などの付着を防止するため、ロッド部を軍手などでふれないでください。異物が付着するとステーが円滑に動かなくなったり、開けたときの保持力が損なわれるおそれがあります。

- ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。ボンネットの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えられなくなるおそれがあります。
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしないでください。ステーが曲がり、ボンネットが開閉できなくなるおそれがあります。

オートアラーム（盗難警報システム）の使い方

システムの作動（警報作動）について

システム作動可能状態中に以下のいずれかがおこなわれた場合、盗難のおそれがあると判断し、警報を作動させます。

●いずれかのドアが開けられたとき
●スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスドアロック機能以外の方法で、いずれかのドアが解錠されたとき
●ボンネットが開いたとき
●補機バッテリーターミナルを脱着したとき（補機バッテリーが上がったときの再充電、新品交換時など）

注意

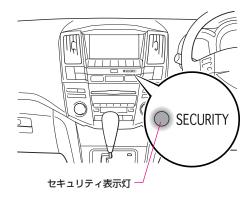
ドアの施錠・解錠は、ワイヤレスリモコンまたはスマートエントリー＆スタートシステムでおこなってください。

●メカニカルキーでの施錠では、オートアラームが作動可能条件にならないため、ドアの施錠・解錠は、ワイヤレスリモコンまたはスマートエントリー＆スマートシステムでおこなうことをおすすめします（P.139、142、151参照）。
●ワイヤレスリモコンまたはスマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠したあと、メカニカルキーでドアを解錠するとオートアラームが作動します。

知 識

オートアラーム作動によるドアロック機能について

●オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
●オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

システム作動可能状態にするには

セキュリティ表示灯

車外に出たあと、すべてのドア、ボンネットが閉まっていることを確認し、ワイヤレスリモコンまたはスマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠します。

●セキュリティ表示灯が点灯します。（システム待機状態）
●しばらく経過すると、セキュリティ表示灯が点灯から点滅にかわり、自動的にシステム作動可能状態になります。

知 識

システム作動可能状態について

●ワイヤレスリモコンまたはスマートエントリー＆スタートシステムを使ってドアを施錠したあと、約30秒以内（表示灯点灯中のシステム待機状態）に以下のいずれかをおこなった場合、システム作動可能状態にはなりません。（待機状態を解除します。）
- いずれかのドアまたはボンネットを開けたとき
- いずれかのドアを解錠したとき
- “パワー”スイッチを押したとき
- 電子キーをキースロットに差し込んだとき
- 補機バッテリーを再接続したとき

セキュリティ表示灯について

エンジンイモビライザーシステム（P.442参照）が作動中であることを知らせるために、オートアラームが作動可能状態でなくても、セキュリティ表示灯が点滅します。

オートアラームの解除・システムを停止するには

以下のいずれかの操作をおこないます。

●ワイヤレスリモコンまたはスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠する

●ハイブリッドシステムを始動する（始動して数秒後にシステムが停止します）

注意	**人が乗っている状態やドアガラスが開いた状態では施錠しないでください。**

●オートアラームの思わぬ作動を防ぐため、ドアを施錠するときは車内に人が乗っていないか、ドアガラスが開いていないかなどを確認してください。

●バッテリーあがりなどで補機バッテリーの交換や、端子の取りはずしなどをおこなうときは、オートアラームが解除されていることを確認してください。解除しないまま補機バッテリー端子を取りはずすと、再接続したときにオートアラームが作動することがあります。

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次の事項に注意してシートを調整します。

走行中は運転席シートの調整をしないでください。

●走行中は運転席シートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動き運転を誤り、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。
●背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。また、シートアレンジなどにより広げたスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●助手席やリヤシートに荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、必ず次のことをお守りください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ装着車では、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部をおおうと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。
- ●フロントシート表皮の張りかえやフロントシートの取り付け・取りはずし・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造などはしないでください。
- ●フロントシート側面などＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたくなど過度の力を加えないでください。

注意

シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

●シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手などを近付けないでください。指や手などを挟み、けがをするおそれがあります。

●車内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手などを入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などにあたり、けがをするおそれがありますので十分に注意しておこなってください。

●パワーシート装着車では、シートの前後位置・背もたれのリクライニング位置・腰部の硬さ調整・シートの上下位置が終点まで移動したあとに、スイッチを同一方向に押し続けないでください。パワーシートの故障の原因となります。

●シートレールの上にマットなどを敷かないでください。
シートを移動させるときに、シートレール内のゴム部分を損傷させるおそれがあります。

フロントシートの使い方

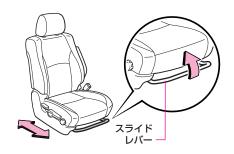
シート調整の仕方

■前後位置調整

パワーシート★

スイッチを前後に操作している間作動します。

マニュアルシート

スライドレバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。

■リクライニング調整

パワーシート★

スイッチを前後に操作している間作動します。

マニュアルシート

リクライニングレバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

■運転席の上下調整

パワーシート★

〈クッション前端〉

スイッチの前側を上下に操作している間作動します。

〈シート全体〉

スイッチのうしろ側を上下に操作している間作動します。

マニュアルシート

〈クッション前端〉

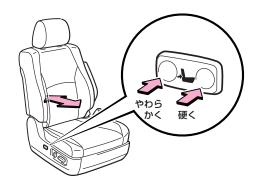
〈シート全体〉

ハンドルをまわして調整します。

レバーを上下に操作することで、シート全体の高さがかわります。

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

腰部の硬さ調整の仕方 ★

運転席

スイッチの前後を押している間作動します。

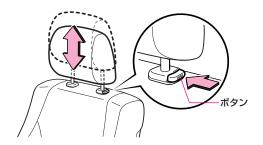
●スイッチの前側を押すと、シートの背もたれ腰部が硬くなります。

●スイッチのうしろ側を押すと、シートの背もたれ腰部がやわらかくなります。

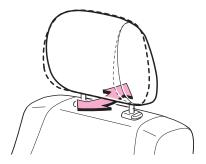
アームレストの使い方

●使用するときは、一番下まで下げます。

●使用しないときは、一番上まで上げます。

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

ヘッドレストの上下位置調整の仕方

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

ヘッドレストの前後位置調整の仕方★

調整したい方へ押し（または引き）ます。

警告　**ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。**

●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●ヘッドレストはフロントシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドレストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

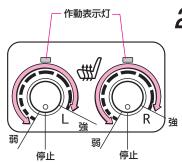
★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
お車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

シートヒーターの使い方

本革シート装着車

■作動させるときは

1 矢印の部分を押して、スイッチを出します。

2 スイッチをまわしてお好みの温かさにします。

●作動中は作動表示灯が点灯します。

■停止するときは

スイッチを停止の位置までまわします。

●停止の位置にすると作動表示灯が消灯します。

警告 シートヒーターを使用するときは、次の点に十分注意してください。

●下記に相当される方がご使用になる場合は、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので十分注意してください。
- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方

●毛布や座布団など保温性のよいものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。

●仮眠するときは使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

注意 凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突きさしたりしないでください。

●凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突きさしたりしないでください。故障の原因になります。

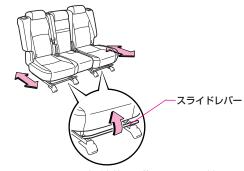
●シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。

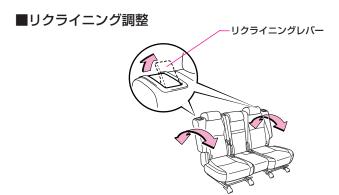
知識

作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

リヤシートの使い方

シート調整の仕方

■前後位置調整

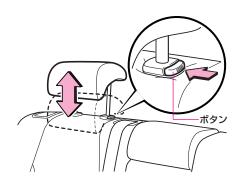
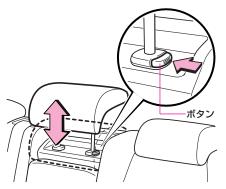
スライドレバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

■リクライニング調整

リクライニングレバーを引きながら、背もたれを前後に動かして調整します。調整後、背もたれを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

走行中は前後位置調整をしないでください。急ブレーキをかけたときなどにシートが突然大きく移動し、放り出されたり思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

背もたれをもどすときは、背もたれに手をそえながら、リクライニングレバーを操作してください。背もたれを押さえずにレバーを操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

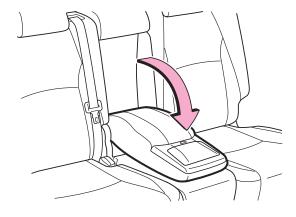
ヘッドレスト調整の仕方

左右席　　中央席

●ヘッドレストを上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

警告　ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●ヘッドレストはリヤシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドレストを間違って取り付けると固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

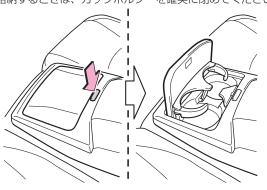
目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
お車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

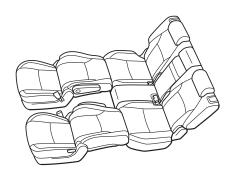
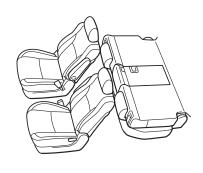
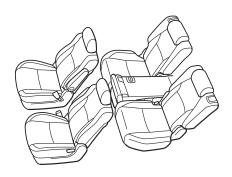
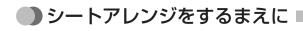
アームレストの使い方

●使用するときは、手前に倒します。
●使用しないときは、シートへ格納してください。

知識

便利機能について

カップホルダー

矢印の部分を押して開けます。（P.385参照）
●使用しないときは閉めておいてください。
●アームレストを格納するときは、カップホルダーを確実に閉めてください。

シートアレンジ

インデックス

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

シートアレンジをするまえに

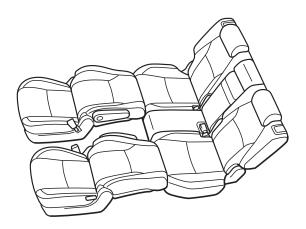
車両を安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかけます。

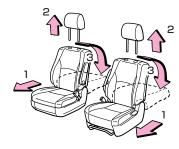
シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅにして、パーキングブレーキを確実にかけてください。

- シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅにして、パーキングブレーキを確実にかけてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
  ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを操作するときは同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを操作しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手や足を近付けないでください。指や手、足を挟みけがをするおそれがあります。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

フラットシートのつくり方

フラット状態のつくり方

フロントシートとリヤシートを組み合わせることにより、フラットな空間を作ることができます。

〈フロントシート〉

1 **シートを車両前側に、いっぱいまでスライドします。（P.195参照）**

●マニュアルシート装着車は、スライドレバーを引いたままスライドします。

●パワーシート装着車は、スイッチを前方に押します。

2 **ヘッドレストを取りはずします。（P.198参照）**

3 **背もたれを車両うしろ側に、いっぱいまで倒します。（P.195参照）**

●マニュアルシート装着車は、リクライニングレバーを引いたまま倒します。

●パワーシート装着車は、スイッチを後方に押します。

4 **運転席のシート全体を、いっぱいまで上げます。（P.196参照）**

●マニュアルシート装着車は、上下調整レバーを上げます。

●パワーシート装着車は、スイッチのうしろ側を上げます。

もとにもどすときは

逆の手順でおこないます。

●背もたれをもどすときは、背もたれを手で押さえながらレバーを操作します。レバー操作だけでは、背もたれがもどらないことがあります。その場合、背もたれを手で持ちあげてください。

シートをフラットにしたときまたはもとにもどしたときは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●シートをフラットにしたときまたはもとにもどしたときは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シートをフラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●走行中にフラットシートの操作をしないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

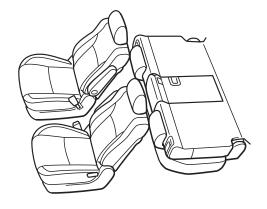
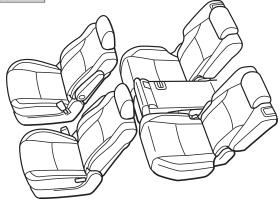
フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。

●フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。シートを踏みはずしたり、シートの間に足などを挟んだりしてけがをするおそれがあります。

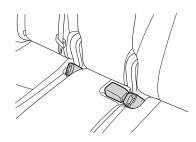
●シートに人が乗っている状態でフラット操作をしないでください。シートがあたるなどしてけがをするおそれがあります。

●背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整をおこなってください。背もたれを押さえずにリクライニング調整すると背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

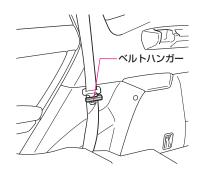
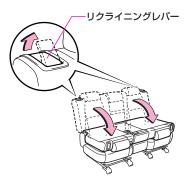
ラゲージスペースのつくり方

全席前倒し

中央席のみ前倒し ★

左右に分割されているシートをそれぞれ倒すことができ広いスペースがつくれます。

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

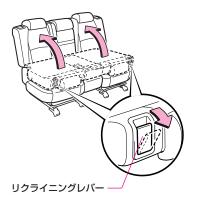
全席前倒しするときは

1 中央席のバックルを格納します。

2 トノカバーのサブカバーをヘッドレストからはずします。
（P.402参照）

3 リヤヘッドレストを下げます。
（P.202参照）

4 シートベルトをベルトハンガーに挟みます。

5 リヤシートの背もたれを前に倒します。

●リクライニングレバーを引き上げ、背もたれを前方に倒します。

●シートを前に倒すと、シートの前後位置が自動的に最後部まで下がります。

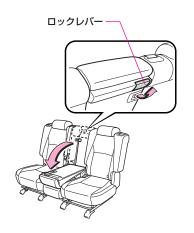
もとにもどすときは

1 **シートベルトをベルトハンガーからはずします。**

2 **リヤシートを起こし固定します。**

●リクライニングレバーを引き上げ、背もたれを起こします。
●背もたれを“カチッ”と音がするまで起こし、前後を調整します。

3 **シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。**

中央席のみ前倒しするときは ★

中央席のみを前倒しすることができ、スキー板などの長いものを積むことができます。

1 **中央席のヘッドレストを下げます。**
（P.202参照）

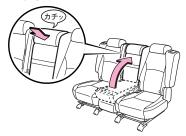
2 **中央席のバックルを格納します。**
（P.210参照）

3 **中央席の背もたれを前に倒します。**

背もたれの背面右上部にあるロックレバーを解除し、背もたれを前方に倒します。

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

もとにもどすときは

背もたれを起こし“カチッ”と音がするまで後方に押し付けて、確実に固定します。

警告 **走行中はシートの操作をしないでください。**

- 走行中はシートの操作をおこなわないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- リヤシートを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起にあたるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 背もたれをもとにもどしたときは、軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、ラゲージルーム内のものが飛び出すなど、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品の間に指や腕などを入れないように注意してください。指や腕などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- トノカバーを取り付けるときは、“カチッ”と音がして確実に固定されたことを確認してください。トノカバーが確実に固定されていないと、走行中トノカバーがはずれ、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

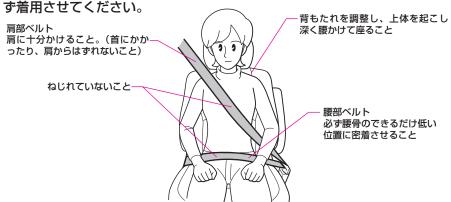
注意 **シートを操作するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。**

●シートを操作するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。

●中央席のみを前倒しするとき、リヤシートとコンソールボックスとの間で手や足などを挟むおそれがあるので注意してください。

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

警告　必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに体がシートに保持されず、体をぶつけたり、ふくらむＳＲＳエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢については、P.193を参照してください。
- 肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみを付けないでください。
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近付いて運転しないでください。

⚠警告　必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷付いた場合、十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●妊娠中の女性も必ずシートベルトを着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）
- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

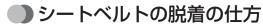
●疾患のある方も必ずシートベルトを着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートベルトが首やあごにあたったり、腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまは、ベビーシートを使用してください。なお、子供専用シートについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷の付いたシートベルトは、使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると、衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。シートベルトの取り付け・取りはずし・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

シートベルトの着用の仕方

シートベルトの脱着の仕方

1 シートベルトを引き出します。

プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認します。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

2 プレートをバックルに差し込みます。

プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。
フロントシートベルトは、シートベルト非着用警告灯（P.283、284参照）が消灯したことを確認してください。

3 腰部ベルトを密着させせます。

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させせます。

4 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首にあたったり、肩からはずれないようにしてください。

5 フロントシートでは、ベルトの高さを調整します。

アジャスタブルシートベルトアンカーでベルトの高さを調整します。
調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

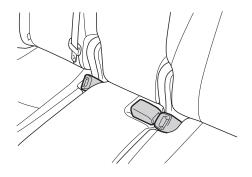
●上げるときはアンカー部を持ち、そのまま動かします。
●下げるときは、ロックボタンを押したままボタン部を動かし、最適な位置に調整します。
●“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

6 はずすときは、バックルのボタンを押してはずします。

シートベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトが首にあたらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

リヤシートベルトの格納の仕方

下図のようにバックルを格納できます。

チャイルドコンフォートガイドの使い方

チャイルドコンフォートガイドは、主に10歳前後の子供がシートベルトをしたときに、ベルトが顔に近付きすぎる不快感を防止できます。

リヤシート左右席

1 **リクライニングレバーを引いてリヤシートを前方に倒します。(P.210参照)**

2 **チャイルドコンフォートガイドを取り出します。**

リヤシート左右上部のポケットに収納されているチャイルドコンフォートガイドを取り出します。

3 **シートベルトをつまみ、ガイド部の溝に通します。**

使用しないときはポケットに収納してください。

子供専用シート

子供専用シートについて

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

●車の仕様やお子様の年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
●子供専用シートの取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
●この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取りつけ器具の記号になります。

ベビーシート

ECE R44 基準のグループ0、0$^+$に相当

チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ0$^+$、Ⅰに相当

ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取りつけ）

<table>
<tr><th rowspan="3">質量グループ</th><th colspan="3">着席位置（または他の場所）</th></tr>
<tr><th>フロントシート</th><th colspan="2">リヤシート</th></tr>
<tr><th>助手席</th><th>左右席</th><th>中央席</th></tr>
<tr><td>0
（10kgまで）</td><td>×</td><td>U</td><td>L</td></tr>
<tr><td>0+
（13kgまで）</td><td>×</td><td>U</td><td>L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">I
（9～18kg）</td><td>前向き
UF</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">L</td></tr>
<tr><td>うしろ向き
×</td></tr>
<tr><td>II
（15～25kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>L</td></tr>
<tr><td>III
（22～36kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>L</td></tr>
</table>

●上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」「準汎用」カテゴリーの子供専用シートにも適しています。）

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認下さい。

子供専用シートのリスト

■リヤシート

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0（10kgまで）	トヨタ純正NEO G-Child ISO BABY	汎用
0（10kgまで）	トヨタ純正NEO G-Child ISO tether	汎用
0^{+}（13kgまで）	トヨタ純正NEO G-Child ISO BABY	汎用
Ⅰ（9～18kg）	トヨタ純正NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ（15～25kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用
Ⅲ（22～36kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX対応トップテザーアンカーでの取りつけ）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISOFIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kgまで）	E	ISO/R1	IL
0+（13kgまで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9～18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15～25kg）		（1）	×
Ⅲ（22～36kg）		（1）	×

●上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（AからG）のない子供専用シートの各シート位置でのISOFIX対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認下さい。

ISOFIX子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX子供専用シート	カテゴリー
0（10kgまで）	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0^{+}（13kgまで）	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

警告

子供専用シートを使用しない場合もシートに適正にしっかりと取りつけた状態にしてください

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてください。ゆるめた状態で置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から取りはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

知識

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されているISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
●体が十分に大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

●P.223の「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

ECE R44 適合のISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（P.225参照）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認します。

（例1）：体重が12kgの場合、質量グループは「0+」になります。
（例2）：体重が15kgの場合、質量グループは「Ｉ」になります。

2 サイズ等級を選択します。

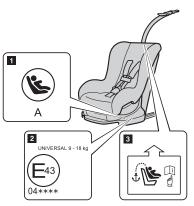
手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※
（例1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
（例2）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（P.226参照）で指定されている製品を使用してください。

知識

3 **子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認します。**

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 ***2*** で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

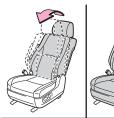
③ トップテザー（P.230参照）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

助手席に子供専用シートを取りつけるときは

やむを得ず助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取りつけてください。

- ●背もたれを直立状態にする。
- ●シートをいちばんうしろに下げる。
- ●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる。

キャリコットについて

キャリコットは横向きに取りつけることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シートの製造業者または販売業者にお尋ねください。

チャイルドシートの固定

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取り扱い説明書にしたがってください。

シートベルトによる取り付け
（次ページ参照）

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（P.232参照）
リヤシートの左右席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すマークがシートに付いています。）

トップテザーアンカー（P.233参照）
テザーベルトを固定するときに使います。トップテザーアンカーはリヤシートの座席に装備されています。

シートベルトでの固定

取りつけるときは

チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込みます。
その際ベルトがねじれていないことを確認します。

●チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定します。

●ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。
（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

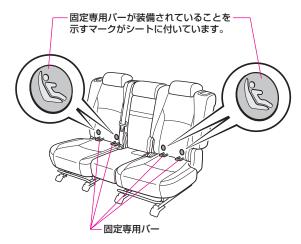
取りつけたあとはチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

専用バーでの固定

リヤシート左右席

お子様に最適な子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

1 **固定専用バーの位置を確認します。**

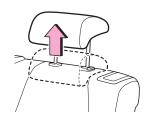
シートクッションと背もたれのすき間を少し広げ、固定専用バーの位置を確認します。

2 **子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を取り付けます。**

適合する子供専用シートの取り付け金具を固定専用バーに連結して取り付けます。

●取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱書をお読みください。

3 **確実に固定されていることを確認します。**

取り付けたシートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

トップテザーアンカーでの固定

1 ヘッドレストを上げます。

2 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締めます。

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

3 取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認します。

チャイルドシートについては、次のことをお守りください。

●事故や急ブレーキの際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、センターピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRSエアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトでチャイルドシートを取り付けるときは、バックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●取り付け後はチャイルドシートを左右に動かして、きちんと固定されているか確認してください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。

チャイルドシートについては、次のことをお守りください。

警　告　　助手席SRSエアバッグ

このシートに、ベビーシートを取り付けたり
後向きのチャイルドシートを取り付けないでください。
また、絶対にお子さまを前席の前に立たせたり
膝の上に抱いたりしないでください。

エアバッグの衝撃により、死亡または重大な傷害に
至るおそれがあります。

- 助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などでSRSエアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。
- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
  助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- テザーベルトを使用してチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上に掛けると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

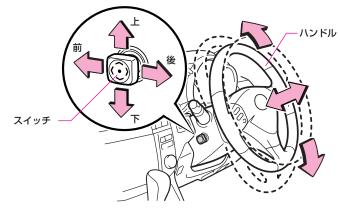
チャイルドシートについては、次のことをお守りください。

- テザーベルトを使用してチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（P.230参照）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかり固定しておいてください。

トップテザーアンカーを使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

ハンドル、ミラーの調整

ハンドルの調整

電動チルト & テレスコピックステアリングの調整の仕方

スイッチを操作しているあいだ作動し、ハンドル位置を前後・上下に調整することができます。
●調整した位置をコンピューターが記憶します。

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

作動条件について

“パワー”スイッチがアクセサリーモード、ＯＮモードまたはキースロットに電子キーが差し込まれているとき、調整することができます。

便利機能について

オートチルトアウェイ＆リターン機能※

- “パワー”スイッチをＯＦＦにするか、キースロットから電子キーを抜くと、ハンドルが自動的に最上段・最前方に移動し、乗り降りがしやすくなります。
- “パワー”スイッチを押すか、キースロットに電子キーを差し込むと、もとの記憶状態にもどります。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

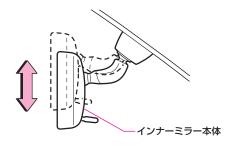
ハンドル位置の記憶について

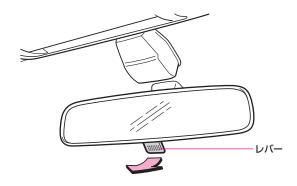
補機バッテリーとの接続が断たれたときはハンドル位置の記憶は消去されます。

補機バッテリーあがり防止機能について

電子キーをキースロットに差し込んだままで30分経過すると、補機バッテリーあがり防止のため調整スイッチを操作しても作動しなくなります。この場合、電子キーをキースロットから抜いて再度差し込むか、“パワー”スイッチを押すと作動します。

インナーミラーの調整

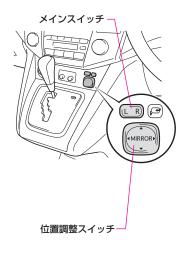
上下位置調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整します。

防眩切りかえのしかた

通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。
後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。

警告

走行中は、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーの調整

鏡面角度調整の仕方

1 調整する側のメインスイッチを押します。

R…右側ドアミラー
L…左側ドアミラー

2 角度を調整します。

位置調整スイッチでドアミラーの角度を調整します。

3 メインスイッチを中立にします。

調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

格納の仕方

	スイッチの状態	ミラーの状態
ON （格納）		
OFF （復帰）		

格納スイッチを押すごとに、ON（格納）とOFF（復帰）に切り替わります。“パワー”スイッチがOFFのときは、手で格納・復帰させることもできます。

警告　走行中はドアミラーの調整をしないでください。

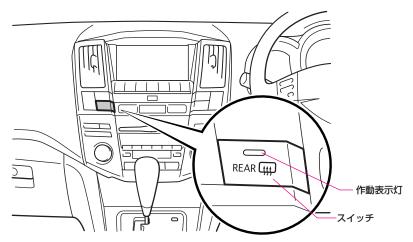
●走行中はドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーが動いているときは手を触れたりしないでください。手を挟んでけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

知識

作動条件について

● “パワー”スイッチがアクセサリーモード、ＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。
●ドアミラー格納作動中に、“パワー”スイッチをＯＦＦにすると、格納作動が停止します。
●次の場合は、ドアミラーを手で格納・復帰させても、ミラーは格納スイッチの状態にもどります。
  ● “パワー”スイッチがアクセサリーモード、ＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき
  ●手動で操作したあとに“パワー”スイッチをアクセサリーモード、ＯＮモードまたはハイブリッドシステムを始動したとき
●格納スイッチがＯＦＦ（復帰）の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、“パワー”スイッチをアクセサリーモード、ＯＮモードまたはハイブリッドシステムを始動しても、ミラーは復帰しません。
一度格納スイッチをＯＮ（格納）にしてから、再度格納スイッチをＯＦＦにして復帰させてください。

ミラーヒーターの使い方★

ドアミラーの鏡面を温めて、霜、露、雨滴などを取り除きます。

●スイッチを押すと作動表示灯が点灯し約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

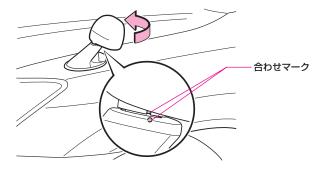
●リヤウィンドゥデフォッガー、フロントワイパーデアイサー★も同時に作動します。（P.316、317参照）

作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手を触れないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

連続して長時間使用すると、補機バッテリーあがりの原因となります。

作動条件について

“パワー”スイッチがONモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

補助確認装置の使い方

ミラーが動いたときは、合わせマークの位置を合わせて、ミラーの位置をもどします。

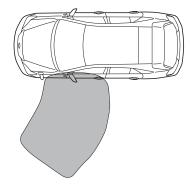
注意

- 補助確認装置の鏡面部に汚れなどが付着しているときは、やわらかい布などを使用してよごれを拭き取ってください。そのままにしておくと視界のさまたげとなるおそれがあります。
- 後方の確認は直接確認するか、またはインナーミラー、ドアミラーなども併用して十分おこなってください。
- 補助確認装置を格納してボンネットを開閉するときは、補助確認装置がボンネットにあたらないように注意してください。

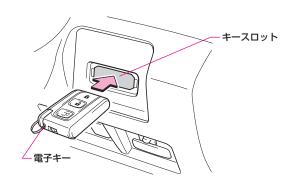
知 識

補助確認装置について

発進時またはごく低速時に、左側側面を確認するときに役立ちます。
- ミラーの鏡面は固定式ですので鏡面を動かしてミラーの調整をすることはできません。

ミラーに映るおよその範囲

※身長・シート位置により、確認できる範囲は異なります。

ハイブリッドシステムの始動方法

電子キーの出し入れ HYBRID

キースロットに電子キーを挿し込みます。
取り出すときは、電子キー本体を持って手前に引き抜きます。

⚠注意　電子キーを挿入するときは、奥まで確実に挿入してください。

- ●電子キーを挿入するときは、奥まで確実に挿入してください。
- ●電子キーを勢いよく挿入したり、逆向きに挿入しないでください。故障の原因となります。
- ●キースロットに正規の電子キー以外は挿入しないでください。
- ●油や水などが付着した電子キーを挿入しないでください。故障の原因となります。その場合は油や水をよく拭き取ってから挿入してください。
- ●電子キー本体に損傷（傷や割れ）や汚れなどがある場合、電子キーを挿入しないでください。故障の原因となります。
- ●シールなどを貼った電子キーを挿入しないでください。スロット内部ではがれたりして、故障の原因となります。
- ●電子キーを取り出すときは、電子キーがバネで押し出されますので、電子キーの飛び出しに注意してください。
- ●電子キーを取り出すときは、キーリング部を引っぱらないでください。故障の原因になります。
- ●電子キーがロックされているときは、無理に電子キーを引き抜かないでください。故障の原因となります。
- ●キースロット開口部に油などの付いた手で触らないでください。
- ●キースロット開口部に指や異物を挿入しないでください。けがをしたり、故障の原因となります。
- ●キースロット開口部に飲料水などをこぼさないようご注意ください。万一こぼしたあと、異常を感じたらすみやかにトヨタ販売店に連絡してください。

知識

電子キーを取り出すときは

“パワー”スイッチがＯＦＦ、アクセサリーモードでシフトレバーがⓅのとき、電子キーを取り出すことができます。

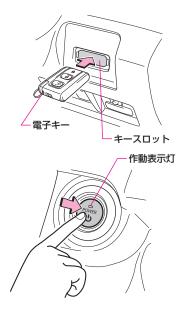
● “パワー”スイッチがアクセサリーモードのとき電子キーを取り出すと、自動的に“パワー”スイッチがＯＦＦになります。

キーロックについて

● “パワー”スイッチがＯＮモード、または READY（走行可能表示灯）が点灯しているときは、電子キーがロックされ、電子キーを取り出すことはできません。

●キーロック中に電子キーを引くと、電子キーが数mm手前にスライドします。この状態で“パワー”スイッチをＯＦＦ、またはアクセサリーモードにしても、電子キーは取り出せません。その場合はもう1度電子キーを奥まで確実に差し込んでください。キーロックが解除され、電子キーを取り出すことができます。

パワー（イグニッション）スイッチの切り替え方 HYBRID

P.144の「スマートエントリー＆スタートシステムでのパワー（イグニッション）スイッチの切り替え方」もあわせてお読みください。

1 **運転席に座り、電子キーをキースロットに差し込みます。**

2 **ブレーキペダルを踏まずに、“パワー”スイッチを押します。**

スイッチを押すごとに、

ＯＦＦ⇒アクセサリーモード⇒ＯＮモード⇒ＯＦＦ…

の順に切り替わります。

●スイッチの作動表示灯の色で“パワー”スイッチの状態を確認します。

●ＯＮモード⇒ＯＦＦは車両が停止しているときに切り替わります。

●スイッチを早く押すと、“パワー”スイッチが切り替わらないことがあります。目的の状態になるまで、１回ごと確実に押してください。

“パワー”スイッチの状態	“パワー”スイッチ作動表示灯	各状態の働き
ＯＦＦ	消灯	**走行不可** すべての電装品が作動を停止しています。
アクセサリーモード	点灯（緑）	**走行不可** オーディオなどの電装品が使用できます。
ＯＮモード	点灯（オレンジ）	**走行不可** すべての電装品が使用できます。

→はブレーキペダルを踏まずに、“パワー”スイッチを押します。

- -→は車両が完全に停止した状態で、“パワー”スイッチを押します。

注意 **“パワー”スイッチの作動表示灯がオレンジ色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。**

- “パワー”スイッチの作動表示灯がオレンジ色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったん“パワー”スイッチをＯＦＦにすると、ハイブリッドシステムを再始動できなくなることがありますので、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- 走行中のエンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、キーを抜いたりドアを開けたりしないでください。ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させた後、すみやかに最寄りのトヨタ販売店へご連絡ください。
- **「ステアリングロックシステム確認」**のメッセージがドット表示式マルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、システムの異常が考えられます。すみやかに最寄りのトヨタ販売店にご連絡ください。
- “パワー”スイッチに引っ掛かりがあるときは使用をやめ、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- “パワー”スイッチを油などの付いた手で触らないようにしてください。
- “パワー”スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一こぼしたあと、異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、“パワー”スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気をつけてください。
- 車幅灯が点灯しても、“パワー”スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより“パワー”スイッチが切り替わらないことがあります。
（P.442参照）

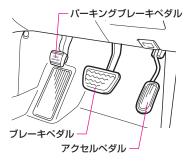
便利機能

オートＯＦＦ機能

“パワー”スイッチがアクセサリーモードのまま約1時間放置すると、補機バッテリーあがり防止のために、自動的に“パワー”スイッチがＯＦＦになります。

ハイブリッドシステム始動・停止の仕方 HYBRID

P.146の「スマートエントリー&スタートシステムでのハイブリッドシステム始動・停止の仕方」もあわせてお読みください。

ハイブリッドシステム始動の仕方

1 ペダルの各位置を確認します。

正しい運転姿勢（P.193参照）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

2 ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

3 電子キーをキースロットに差し込みます。

4 シフトレバーがⓅの位置にあることを確認します。

走行可能表示灯

READY

5 **ブレーキペダルを踏みながら“パワー”スイッチを押します。**

- スイッチの作動表示灯がオレンジ色に点灯し、その後、消灯します。
- メーター内の READY （走行可能表示灯）が点滅し、間もなく点灯に変わると同時に“ピッ”と音がすれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。
- シフトレバーの位置がⓃではハイブリッドシステムは始動できません。必ずⓅにしてから始動させてください。
- どの“パワー”スイッチの状態からでも始動することができます。
- READY が点灯していれば、ガソリンエンジンが始動していなくても走行できます。
- 車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。

ハイブリッドシステム停止の仕方

車両を完全に停止させ、シフトレバーをⓅに入れて“パワー”スイッチを押します。

- “パワー”スイッチがＯＦＦになり、ハイブリッドシステムが停止します。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告 **車外からのハイブリッドシステムの始動は絶対におこなわないでください。**

●車外からのハイブリッドシステムの始動は絶対におこなわないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座っておこなってください。
●走行中は、“パワー”スイッチに触らないでください。誤ってスイッチを押し続け、ハイブリッドシステムが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●車を少し移動させるときも、必ずREADY（作動可能表示灯）が点灯した状態にしてください。READYが点灯していない状態で、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

ハイブリッドシステムについて

●外気温が低いときには、ハイブリッドシステム始動時に、READYの点滅時間が長くなることがあります。
READYが点灯すれば走行可能になりますので、点灯するまでそのままお待ちください。
●補機バッテリーを再接続したときなどに、“パワー”スイッチを1度押すだけではハイブリッドシステムが始動しないことがあります。その場合は再度スイッチを押してください。

高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、駆動用電池付近から“コトン”、“カチッ”などの音が聞こえることがあります。
これは、高電圧リレーの音で、異常ではありません。

ハイブリッドシステムの緊急停止について

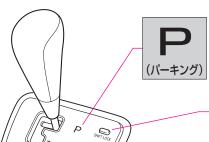
走行中、“パワー”スイッチを約3秒以上押し続けると、ハイブリッドシステムを停止することができます。緊急時以外は走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。
●“パワー”スイッチはアクセサリーモードになります。
●キーを取り出すときはシフトポジションをⓅにし、“パワー”スイッチをＯＦＦにしてからおこなってください。

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより、ハイブリッドシステムが始動しないことがあります。（P.442参照）

シフトレバーの使い方

シフトレバーの使い方 HYBRID

シフトレバーの働き

駐車およびハイブリッドシステムの始動・停止
駐車またはハイブリッドシステムを始動・停止するときは必ずⓅにしてください。

シフトロック解除ボタン
(P.253参照)

R (リバース)

後退
ギヤが後退に固定されます。
ブザーが鳴りⓇにあることを運転者に知らせます。

動力が伝わらない状態
Ⓝではハイブリッドシステムの始動はできません。

通常走行(前進)
スピードとアクセルの踏み加減に応じて変速します。

急な下り坂走行(前進)
強力なエンジンブレーキが必要な場合に使います。

警告

駐車時は、必ずシフトレバーをⓅにして、パーキングブレーキをかけてください。
メーター内の READY （走行可能表示灯）が点灯した状態にしておくと、万一シフトレバーがⓅ、Ⓝ以外に入っていた場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき、急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
また、この車両は、ハイブリッドシステムが始動し走行可能な状態（ READY が点灯している状態）になっていてもエンジン音や振動がない場合があるため、駐車時は必ずシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキをかけてください。

注意

シフトレバーがⓃの位置では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Ⓝで長時間放置すると、駆動用電池がバッテリーあがりを起こし、走行不能になるおそれがあります。

知 識

エンジンブレーキについて

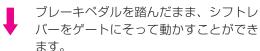
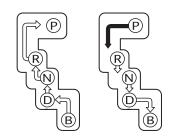
この車両のエンジンブレーキは、減速力を得るためだけでなく、「回生ブレーキ」として駆動用電池の充電もおこなっています。（P.412参照）

シフトレバーの取り扱い

■シフトレバーの操作

ⓅとⒹの間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてからおこなってください。

ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かすことができます。

シフトレバーをゲートにそって、そのまま動かすことができます。

知識

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車でのシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーをⓅから操作できません。
- “パワー”スイッチがＯＦＦまたはアクセサリーモードのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

●シフトレバーがⓅ以外ではキースロットから電子キーを抜くことはできません。
- 電子キーを抜くときは、シフトレバーをⓅに入れてください。

●シフトレバーをⓇに入れるとブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
（車外の人に対する警告音ではありません。）

シフトロック解除ボタンの使い方

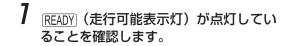
万一、シフトレバーがⓅから操作できないときに使用します。

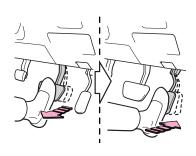
●ブレーキペダルを踏んだ状態で、シフトロック解除ボタンを押しながら、レバー操作してください。

●シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

発進の仕方 HYBRID

通常発進の仕方

1 READY（走行可能表示灯）が点灯していることを確認します。

2 ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーをⒹに入れます。

3 左足でパーキングブレーキを解除します。（P.260参照）

4 **ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、右足でアクセルペダルをゆっくり踏み発進します。**

この車両は通常のオートマチック車と同様に、発進時のスピード調節をアクセル操作のみでおこないますので、アクセル操作は慎重におこなってください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

上り坂の発進の仕方

1 READY（走行可能表示灯）が点灯していることを確認します。

2 パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認してから、シフトレバーを**D**にします。

3 右足でアクセルペダルをゆっくり踏みます。

4 車が動き出す感触を確認してから、左足でパーキングブレーキを解除し、発進します。

警告　ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

- 発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、シフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- 運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバー操作は絶対におこなわないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意　駆動用電池の残量が低下した場合は、ハイブリッドシステムの出力が低下することがあります。この場合、急な加速をさけて走行して下さい。

走行の仕方 HYBRID

通常の走行

シフトレバーをⒹに入れたまま走行します。
●アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。

下り坂の走行

シフトレバーがⒹのままでスピードが出すぎるときは､坂道に応じてⒷにし､エンジンブレーキを併用します。
フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では、必ずエンジンブレーキを併用してください。

走行中にはシフトレバーをⓃ**にしないでください。**

●走行中にはシフトレバーをⓃにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●前進で走行中は、シフトレバーをⓇにしないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。
●ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●坂道などでは、シフトレバーをⒹにしたまま惰性で後退したり、Ⓡにしたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

注意 **シフトレバーを**Ⓝ**にしたままで走行すると駆動系の故障の原因となるおそれがあります。**

●シフトレバーをⓃにしたままで走行すると駆動系の故障の原因となるおそれがあります。
●渋滞のときはⒹのまま走行してください。
シフトレバーがⓃでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Ⓝのままで長時間放置すると、駆動用電池がバッテリーあがりを起こし、走行不能になるおそれがあります。

知 識

燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速をひかえるなど、通常のガソリンエンジン車と同様の心がけが必要です。P.467の**「環境にやさしい運転」**を参照してください。

エンジンブレーキについて

高速走行時は、通常の車に比べてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。

停車・駐車の仕方 HYBRID

停車の仕方

1 車を止めます。シフトレバーはⒹのまま、右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかけます。

上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。
右足でブレーキペダルをしっかりと踏み、左足でパーキングブレーキをしっかりかけてください。

3 長時間停車する場合は、シフトレバーをⓅに入れます。

駐車の仕方

1 車を完全に止めます。

2 パーキングブレーキをかけます。

右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、左足でパーキングブレーキをしっかりかけてください。

3 シフトレバーをⓅに入れます。

車が動き出さないためにも、必ずⓅに入れてください。

4 エンジンを止めます。

車を離れるときは必ずハイブリッドシステムを停止して、ドアを施錠してください。

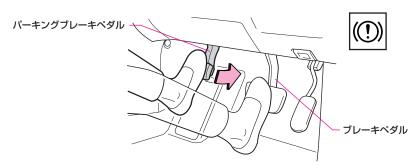
警告　走行中は、シフトレバーをⓅに入れないでください。

- 走行中はシフトレバーをⓅに入れないでください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 停車中は空ぶかしをしないでください。シフトレバーがⓅまたはⓃ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

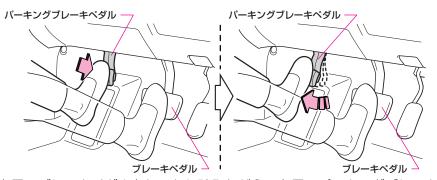
注意　車から離れるときは必ずハイブリッドシステムを停止して、ドアを施錠してください。

- READY（走行可能表示灯）が点灯した状態にしておくと、万一、シフトレバーがⓅ以外にあるときに、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
  また、この車両は、ハイブリッドシステムが始動し走行可能な状態（走行可能表示が点灯）になっていてもエンジン音や振動がない場合があります。駐車中は確実にシフトレバーをⓅに入れてください。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーをⒹに入れたままアクセルをふかしながら止まらないでください。オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因となります。
- シフトレバーがⓃの位置では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Ⓝで長時間放置すると、駆動用電池がバッテリーあがりを起こし、走行不能になるおそれがあります。

パーキングブレーキの使い方

パーキングブレーキの使い方

パーキングブレーキをかけるときは

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。
●ブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除するときは

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。
●ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知識

かけなおしするときは

パーキングブレーキをかけたあと、かけなおしたい場合は、一度解除してから踏みなおします。

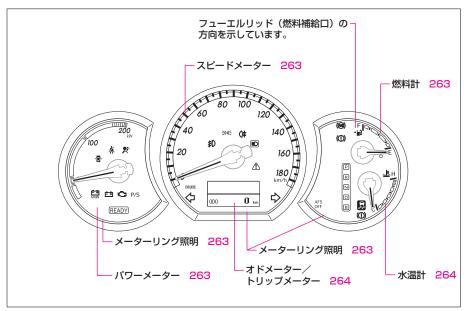
警告ブザーについて

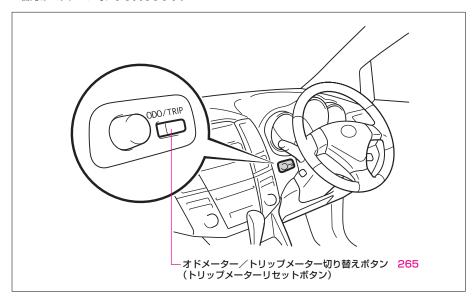
パーキングブレーキをかけた状態で、時速5km/h以上で走行したとき、警告ブザーがなるとともに、メーター内に警告内容が表示されます。

冬季のパーキングブレーキの使用について

P.465の「駐車するときは」をお読みください。

メーター、表示灯、警告灯の見方

メーター

＊図ではすべてのパッケージにおける表示灯・警告灯を掲載しています。実際の車に設定される表示灯・警告灯はパッケージ等により異なります。

知識

メーターについて

“パワー”スイッチをＯＮモードにしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。

メーターリング照明について

運転席ドアの開閉状態を検知して、メーターリング照明が自動的に点灯・消灯します。

燃料計

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき、燃料残量を示します。
燃料タンク容量は65Ｌです。

知識

燃料計について

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針がふれることがあります。
- 燃料補給後、指示が安定するまで少し時間がかかります。
- “パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
- 燃料計にある◀印はフューエルリッド（燃料補給口）が助手席側車両後方にあることを示しています。

スピードメーター

車両の走行速度を示します。

パワーメーター

モーターとガソリンエンジンの出力をkWの単位で示します。

水温計

“パワー”スイッチがＯＮモードまたはREADY（走行可能表示灯）が点灯しているとき、ガソリンエンジンの冷却水温度を示します。

指針がＨのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、Ｐ.543の**「オーバーヒートしたときは」**にしたがって処置をしてください。

オドメーター／トリップメーター

“パワー”スイッチがＯＮモードまたはREADY（走行可能表示灯）が点灯しているとき、次の表示を示します。

■オドメーター

走行した総距離をkmの単位で示します。

■トリップメーター

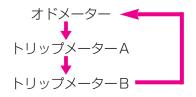
2種類の区間距離（トリップＡ、トリップＢ）をkmの単位で示します。

オドメーター／トリップメーター切り替えボタン（トリップメーターリセットボタン）

■オドメーターとトリップメーターの表示の切り替え方

切り替えボタンを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

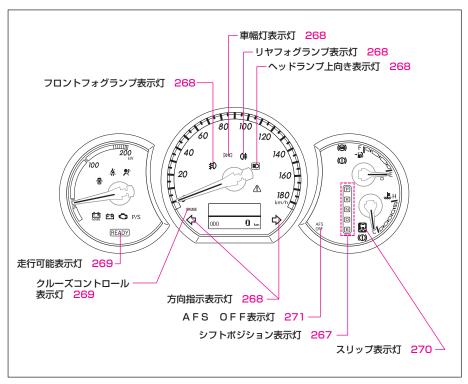
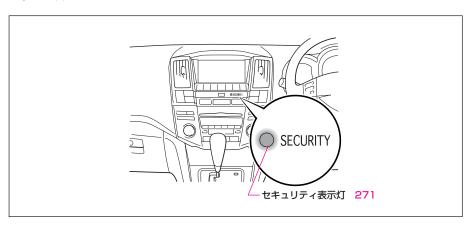
●オドメーター／トリップメーター拡大表示を選択しているときは、オドメーターとトリップメーターの両方とも表示されます。

●オドメーター／トリップメーター拡大表示を選択しているときに、警告表示などが割り込むと、オドメーターがトリップメーターに切り替わります。

■トリップメーターを0（ゼロ）にもどすときは

トリップメーターA、トリップメーターBのうち0にしたいほうを表示させてから、リセットボタンを表示が0になるまで押し続けます。

補機バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターは0になります。

表示灯

車幅灯表示灯　268
リヤフォグランプ表示灯　268
ヘッドランプ上向き表示灯　268
フロントフォグランプ表示灯　268
走行可能表示灯　269
クルーズコントロール表示灯　269
方向指示表示灯　268
ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯　271
シフトポジション表示灯　267
スリップ表示灯　270

＊図ではすべてのパッケージにおける表示灯を掲載しています。実際の車に設定される表示灯はパッケージ等により異なります。

〈表示灯一覧表〉

表示灯	表示灯名	表示灯	表示灯名
	方向指示表示灯	READY	走行可能表示灯
	ヘッドランプ上向き表示灯	CRUISE	クルーズコントロール表示灯
	フロントフォグランプ表示灯		スリップ表示灯
	リヤフォグランプ表示灯	AFS OFF	ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯
	車幅灯表示灯	SECURITY 表示灯	セキュリティ表示灯

シフトポジション表示灯

選択されているシフト位置を表示します。

方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。
（P.303、318参照）

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。（P.302参照）

フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプを点灯させると点灯します。
（P.304参照）

リヤフォグランプ表示灯

リヤフォグランプ装着車

リヤフォグランプを点灯させると橙色に点灯します。
（P.305参照）

車幅灯表示灯

車幅灯、尾灯を点灯させると点灯します。（P.300参照）

READY

走行可能表示灯

ブレーキペダルを踏んで、“パワー”スイッチを押し、ハイブリッドシステムを始動すると点灯し、走行可能状態であることを示します。
詳しくはP.249を参照してください。

注意

表示灯が点灯しない場合は走行できません。再度ブレーキペダルを踏み、“パワー”スイッチを押してください。以上の操作をしても消灯したままの場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

CRUISE

クルーズコントロール表示灯

クルーズコントロールのメインスイッチを押して、システムをＯＮにすると点灯します。（P.322参照）

注意

定速走行中に表示灯が点滅したときは、一度クルーズコントロールをＯＦＦにしてから再度セットしてください。以上の操作をしても、セットできないまたはセットしてもすぐ解除される場合は、システムの異常が考えられます。走行上支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スリップ表示灯

ＡＢＳ、ＴＲＣシステムまたはＶＳＣシステムが作動したときに点滅します。

■ＶＳＣ作動警告ブザー

車両が横すべりしそうになったときに、断続音が鳴ります。

●運転状況によっては、スリップ表示灯の点滅のみで警告する場合があります。

“パワー”スイッチをＯＮモードまたはハイブリッドシステムを始動しても点灯しないときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

● “パワー”スイッチをＯＮモードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。
● “パワー”スイッチがＯＦＦまたはアクセサリーモードの状態で、ハイブリッドシステムを始動すると点灯し、数秒後に消灯します。

AFS
OFF

ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯

インテリジェントＡＦＳ装着車

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチを押してインテリジェントＡＦＳ（アダプティブ・フロントライティング・システム）を作動停止状態にすると点灯します。（P.454参照）
また、インテリジェントＡＦＳに異常があると点滅します。
ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯が点滅しているとき、インテリジェントＡＦＳは作動しませんがヘッドランプは点灯しますので通常走行には支障ありません。

ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯が点滅しているときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

表示灯について

“パワー”スイッチをＯＮモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

SECURITY
表示灯

セキュリティ表示灯

盗難防止システムが作動状態になると点滅します。（P.442参照）

警告灯

半ドア警告灯　283

運転席シートベルト非着用警告灯　283

ＳＲＳエアバッグ／
プリテンショナー警告灯　276

ＡＢＳ＆ブレーキ
アシスト警告灯　274

駆動用電池
警告灯　277

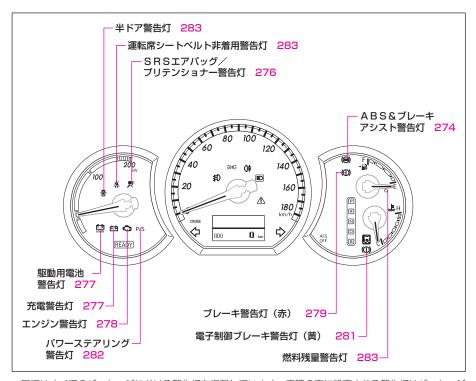
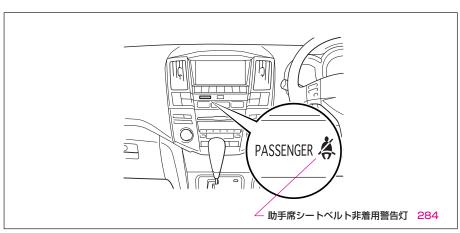
充電警告灯　277

エンジン警告灯　278

パワーステアリング
警告灯　282

ブレーキ警告灯（赤）　279

電子制御ブレーキ警告灯（黄）　281

燃料残量警告灯　283

＊図ではすべてのパッケージにおける警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はパッケージ等により異なります。

〈警告灯一覧表〉

警告灯	警告灯名	警告灯	警告灯名
ABS	ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯		電子制御ブレーキ警告灯（黄）
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯	P/S	パワーステアリング警告灯
MAIN	駆動用電池警告灯	E 警告灯	燃料残量警告灯
	充電警告灯		半ドア警告灯
	エンジン警告灯		運転席シートベルト非着用警告灯
	ブレーキ警告灯（赤）	PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯

ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステムに異常があると点灯します。（P.444参照）

●警告灯が点灯しているときは、下記のシステムは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。
- ＡＢＳ＆ブレーキアシスト
- ＶＳＣ

●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため、急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にはタイヤがロックすることがあります。

注意

ブレーキ警告灯（赤）と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

●警告灯がブレーキ警告灯（赤）と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
この場合、ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- “パワー”スイッチをＯＮモード、またはハイブリッドシステムを始動しても点灯しないとき
- ハイブリッドシステムを始動しても点灯したまま消灯しないとき、または走行中、点灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

警告灯について

- “パワー”スイッチをＯＮモードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。
- “パワー”スイッチがＯＦＦ、アクセサリーモードの状態で、ハイブリッドシステムを始動すると点灯し、数秒後に消灯します。
- ハイブリッドシステムを始動したとき、約60秒間警告灯が点灯することがありますが、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- くり返しブレーキペダルを踏むと、警告灯が点灯することがありますが、数秒後に消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯

ＳＲＳエアバッグシステム（Ｐ.418参照）またはプリテンショナー付シートベルトシステム（Ｐ.435参照）に異常があると、点灯・点滅します。

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグまたはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

●“パワー”スイッチをＯＮモードまたはハイブリッドシステムを始動しても点灯しないときまたは点灯・点滅したままのとき

●走行中に点灯・点滅したとき

知識

警告灯について

“パワー”スイッチをＯＮモードまたはハイブリッドシステムを始動すると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

駆動用電池警告灯

READY（走行可能表示灯）が点灯した状態で、駆動用電池の残量が低下すると点灯します。

- READY（走行可能表示灯）と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。
- ハイブリッドシステム始動時に点灯したときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯について

“パワー”スイッチをＯＮモードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。

充電警告灯

充電系統に異常があると点灯します。

READY（走行可能表示灯）と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯について

“パワー”スイッチをＯＮモードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯

READY（走行可能表示灯）が点灯した状態で、エンジン電子制御システム、電子制御スロットルまたはオートマチックトランスミッション電子制御システムに異常があると点灯します。

READY が点灯した状態で点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● READY が点灯した状態で警告灯が点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
●走行中に万一電子制御系の異常が解消した場合でも、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたはＯＦＦにするまでは、正常状態に復帰することはありません。

知 識

警告灯について

“パワー”スイッチをＯＮモードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

ブレーキ警告灯（赤）

“パワー”スイッチをＯＮモードにすると点灯します。またREADY（走行可能表示灯）が点灯しているとき、次のときに点灯します。

●パーキングブレーキをかけたままのとき
　パーキングブレーキが解除されていてもハイブリッドシステムを始動すると数秒間点灯します。
●ブレーキ液が不足しているとき
●ＥＢＤの機能が停止しているとき
●ブレーキシステムに異常があるとき

■ブレーキ警告ブザー

●ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯と同時に警告ブザーで警告します。
●パーキングブレーキをかけた状態で、時速5km/h以上で走行したとき警告ブザーで警告します。

警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

● READY 点灯中に点灯と同時にブレーキ警告ブザーで警告したとき、またはパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき
　この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
●警告灯がＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき
　この場合、ＡＢＳ＆ブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

⚠注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●“パワー”スイッチをＯＮモードにしても点灯しないとき

●READY が点灯している状態で、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき

●パーキングブレーキが解除された状態で“パワー”スイッチをＯＮモードにしても点灯しないとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯について

●“パワー”スイッチをＯＮモードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。

●“パワー”スイッチがＯＦＦ、アクセサリーモードの状態で、ハイブリッドシステムを始動すると点灯し、数秒後に消灯します。

●ハイブリッドシステムを始動したとき、約60秒間警告灯が点灯することがありますが、その後、消灯すれば異常ではありません。

●くり返しブレーキペダルを踏むと警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがありますが、数秒後に消灯、消音すれば異常ではありません。この場合、一時的にブレーキペダルの操作感がかわりますが、消灯、消音すればもとにもどります。

作動音について

ハイブリッドシステムを始動したとき、またはブレーキペダルを踏んだとき、エンジンルームからモーター音が聞こえることがあります。これはブレーキシステムの作動音で異常ではありません。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

電子制御ブレーキ警告灯（黄）

次のような場合に点灯します。
●回生ブレーキシステムに異常があるとき
●電子制御ブレーキシステムに異常があるとき

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
● “パワー” スイッチをONモード、またはハイブリッドシステムを始動しても点灯しないとき
●ハイブリッドシステムを始動しても、点灯したまま消灯しないとき、または走行中、点灯したままのとき

警告灯について

● “パワー” スイッチをONモードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。
● “パワー” スイッチがOFF、アクセサリーモードの状態で、ハイブリッドシステムを始動すると点灯し、数秒後に消灯します。
●ハイブリッドシステムを始動したとき、約60秒間警告灯が点灯することがありますが、その後、消灯すれば異常ではありません。
●くり返しブレーキペダルを踏むと警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがありますが、数秒後に消灯、消音すれば異常ではありません。この場合、一時的にブレーキペダルの操作感がかわりますが、消灯、消音すればもとにもどります。

作動音について

ハイブリッドシステムを始動したとき、またはブレーキペダルを踏んだとき、エンジンルームからモーター音が聞こえることがあります。これはブレーキシステムの作動音で異常ではありません。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

P/S

パワーステアリング警告灯

パワーステアリング制御システムに異常があると点灯します。

警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、ハンドルの操作が非常に重くなることがありますので、ハンドルを操作して通常より重いときは、ハンドルをしっかり持ち、通常より強く操作してください。

知 識

警告灯について

“パワー”スイッチをＯＮモードにすると点灯し、ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したときは、すみやかに対処してください。

燃料残量警告灯

“パワー”スイッチがＯＮモードまたはREADY（走行可能表示灯）が点灯しているとき、残量が約１０Ｌ以下になると点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

半ドア警告灯

いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときに点灯します。

●確実に閉まっていないドア部が点灯します。

■警告ブザー

ドアが確実に閉まっていない状態で、車速が5km/h以上になると警告ブザーで警告します。

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転席シートベルト非着用警告灯

“パワー”スイッチがＯＮモードまたはREADY（走行可能表示灯）が点灯しているとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約25km/h以上になると、ブザーが約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴った後、約30秒後にブザー音が変わります。）

●シートベルトを着用すると消音します。

次の警告灯が点灯または点滅したときは、すみやかに対処してください。

助手席シートベルト非着用警告灯

“パワー”スイッチがＯＮモードまたはREADY（走行可能表示灯）が点灯しているとき助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。
ただちにシートベルトを着用してください。

警告灯について

●センサーは、助手席シート座面（うしろ半分）に、ある一定以上の重量がかかったときに検知します。したがって、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。
●助手席シート座面上にクッション（座布団）などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイ★

車両や車両周辺の色々な情報を表示することができます。

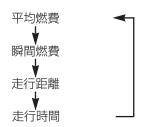
運転者は走行中に操作しないでください。操作に気をとられて思わぬ事故の原因となります。操作は停車してからおこなうか、助手席の同乗者がおこなうようにしてください。

知 識

作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき表示されます。

情報表示

ＩＮＦＯスイッチを押すごとに、情報表示が切り替わります。

■平均燃費

ディスプレイに平均燃費を表示します。

●リセットの仕方

ＩＮＦＯスイッチを約1秒以上押し続けると、平均燃費はリセットされます。

■瞬間燃費

ディスプレイに瞬間燃費を表示します。

■走行距離

ディスプレイにハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示します。

●リセットの仕方

ＩＮＦＯスイッチを約1秒以上押し続けると、走行距離はリセットされます。

走行距離について

「6499」（6499km）まで表示しますが、「6499」を超えて表示する場合、「0」にもどり作動が継続されます。

■走行時間計

ディスプレイにハイブリッドシステム始動後の走行時間を表示します。

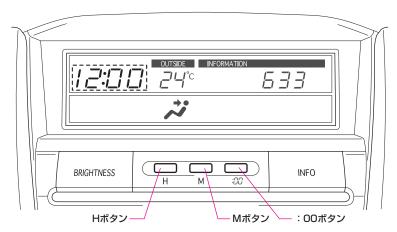
●リセットの仕方

ハイブリッドシステムを停止すると、走行時間計はリセットされます。

走行時間計について

「11：59」（11時間59分）まで表示しますが、「11：59」を超えて表示する場合、「0：00」にもどり作動が継続されます。

時計

メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の「ＨＤＤナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

■“時”“分”を調整するときは

Ｈボタンを押すと“時”、Ｍボタンを押すと“分”が調整できます。

●ボタンを押し続けると早送りされます。

■時報に合わせるときは

時報と同時に：00ボタンを押すと、時報に合わせることができます。

●0～29分は切り下げられます。

●30～59分は切り上げられます。

（例）１：00～１：29の場合は１：00に、１：30～１：59の場合は2：00になります。

知識

作動条件について

“パワー”スイッチがアクセサリーモード、ＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき表示されます。

時計の表示について

秒表示はありませんが、次の場合は0秒から作動を開始します。

●Mボタンを押して分を調整後、Mボタンから手を離したとき

●：00ボタンを押したとき

外気温度

ディスプレイに外気温度を表示します。

知識

外気温度表示について

●他の計測装置で計測した温度と、異なる場合があります。

●次の場合は正しい外気温を表示しないことがあります。

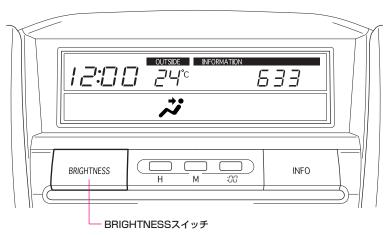
- 外気温が約−30℃以下または約50℃以上のとき
- 停車しているときや低速走行（約20km/h以下）しているとき
- 外気温度が急激に変化したとき（トンネルの出入口付近など）

●外気温度が実際に変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温度表示が変動することがあります。

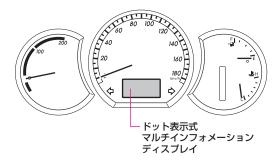
明るさ調整

ＢＲＩＧＨＴＮＥＳＳスイッチを押すと明るさが1段階下がります。

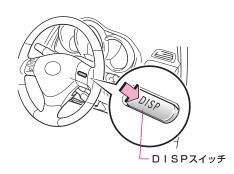
●明るさは4段階調整できます。

知 識

作動条件について

“パワー”スイッチがアクセサリーモード、ＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき調整できます。

ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ

ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイについて

外気温が低い場合、画面が暗くなったり、表示が薄れることがあります。

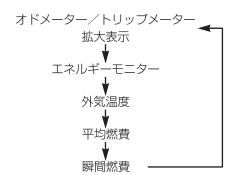
表示の切り替え方

ハンドルにあるＤＩＳＰスイッチを押すごとに、情報表示を切り替えることができます。

知識

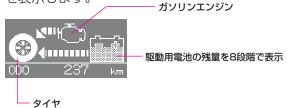
ディスプレイの表示について

警告する項目が発生すると、ディスプレイの表示が、自動的に警告表示に切り替わります。

情報表示

ＤＩＳＰスイッチを押すごとに、情報表示が切り替わります。

■エネルギーモニター

車両駆動状況、ハイブリッドシステム動作状況およびエネルギーの回収状況を表示します。

知 識

エネルギーモニターの表示について

表示されるエネルギーの流れや電池の残量などは、そのときの走行状況により異なります。

■外気温度

ディスプレイに外気温度を表示します。

知識

外気温度表示について

●他の計測装置で計測した温度と、異なる場合があります。
●次の場合は正しい外気温を表示しないことがあります。
- 外気温が約−30℃以下または約50℃以上のとき
- 停車しているときや低速走行（約20km/h以下）しているとき
- 外気温度が急激に変化したとき（トンネルの出入口付近など）

●外気温度が実際に変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温度表示が変動することがあります。

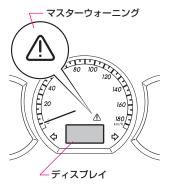
■平均燃費

ディスプレイに平均燃費を表示します。

●メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステム非装着車は、ＩＮＦＯスイッチを約1秒以上押し続けると数値がリセットされ、メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステム装着車は、リセットスイッチにタッチすると数値がリセットされます。

■瞬間燃費

ディスプレイに瞬間燃費を表示します。

警告表示

車両の各システムに、システムの異常などのお知らせしたい情報が発生すると、“ポーン”という警告音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯または点滅し、ディスプレイに警告内容などの情報が表示されます。
なお、ディスプレイに情報が表示されるのみの場合もあります。

- 警告表示が2つ以上ある場合には、自動的に表示が切り替わり、繰り返して表示します。
- 警告表示の要因が解消されると、警告表示は消えます。

■半ドア警告表示

いずれかのドア（バックドアを含む）が開いていると、開いているドアが文字と絵で表示されます。
この状態のまま走行し、車速が約5km/h以上になると、表示が変わり“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点滅します。

警告表示がでたまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告表示がでたときは停車し、ドアを確実に閉めてから走行してください。

■ムーンルーフオープン警告表示

ムーンルーフ
オープン
ODO 237 km

ムーンルーフ装着車

“パワー”スイッチがＯＦＦまたはアクセサリーモードのとき、ムーンルーフが開いている状態のまま運転席ドアを開けると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点滅し、警告内容が表示されます。

●車から離れる場合は、ムーンルーフを閉めてください。

●車から離れるときや、洗車時には完全に閉まっていることを確認してください。

■始動時警告表示

始動時はブレーキを
踏んで下さい
ODO 237 km

ブレーキを踏まずに“パワー”スイッチを押して“パワー”スイッチの切り替えを2回繰り返すと、“ポーン”という音が鳴るとともに警告内容が数秒表示されます。

■エンジンオイル油圧警告表示

エンジン油圧
不足
ODO 237 km

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点滅し、警告内容が表示されます。

警告表示がでたときは、ただちに安全な場所に停車してハイブリッドシステムを停止し、エンジンオイル量を点検してください。（P.500参照）
エンジンオイルが減っていないのに表示するときや、エンジンオイルを補給しても表示されるときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

■パーキングブレーキ未解除警告表示

パーキングブレーキ
未解除
ODO 237 km

パーキングブレーキがかかったまま、車速が約5km/h以上になると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点滅し、警告内容が表示されます。

警告表示がでたときは停車し、パーキングブレーキを解除してから走行してください。

■ＶＳＣ警告表示

VSCシステム
チェック
ODO 237 km

ＶＳＣシステムに異常があると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

●警告表示がでているときは、ＶＳＣは作動しませんが、通常の走行には支障ありません。

警告表示がでたときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ハイブリッドシステム始動時警告表示

始動時はPレンジに
入れて下さい
ODO 237 km

シフトレバーがPの位置以外でハイブリッドシステムの始動をおこなうと“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点滅し、警告内容が表示されます。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■4WDシステム警告表示

4WDシステム
チェック
ODO 237 km

システムの異常により、4WD走行禁止状態になると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

■ハイブリッドシステム警告表示

ハイブリッドシステム
チェック
ODO 237 km

READY（走行可能表示灯）が点灯した状態で、モーター、インバーターユニット、駆動用電池、ＥＣＵなどのハイブリッドシステムに異常があると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

■ウインドゥウォッシャー液量警告表示

ウォッシャー液
不足
ODO 237 km

ウインドゥウォッシャー液が少なくなると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

●警告内容が表示されたときは、すみやかにウォッシャー液を補充してください。（P.501参照）

■ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告表示

ヘッドライトシステム
チェック
ODO 237 km

インテリジェントＡＦＳ付車を除く

ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点灯し、警告内容が表示されます。

■水温警告表示

冷却水温の上昇、モーター、インバーターユニットの過熱などでオーバーヒートのおそれがあると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点滅し、警告内容が表示されます。

注意

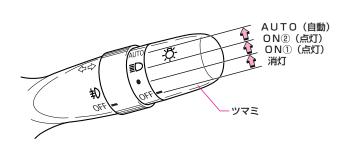
水温警告が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、P.543の**「オーバーヒートしたときは」**にしたがって処置をしてください。

■電子キーシステム警告表示

スマートエントリー＆スタートシステムの警告表示については、P.129をご覧ください。

スイッチの使い方

ランプスイッチの使い方

ランプの点灯・消灯の仕方

ツマミの位置	点灯するランプ
ON①（点灯）	車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明・各スイッチ照明
ON②（点灯）	①のランプ+ヘッドランプ
AUTO（点灯）	①のランプ+ヘッドランプ（自動制御）

ツマミをON①・ON②にまわすと、点灯します。
ツマミをAUTOにまわすと周囲の明るさに応じて、ヘッドランプ・車幅灯などが自動で点灯・消灯します。（コンライト※）
●車幅灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

完全に充電された補機バッテリーでも、ハイブリッドシステムを止めた状態で長時間ランプ類を点灯すると、補機バッテリーあがりの原因となります。

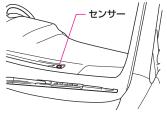
知識

作動条件について

●ＯＮ①・ＯＮ②の位置は、“パワー”スイッチの状態に関係なく使用できます。
●ＡＵＴＯの位置（コンライト）は、“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY（走行可能表示灯）のとき使用できます。

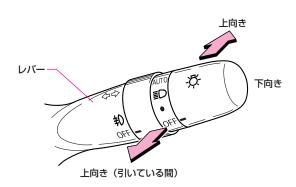
コンライトセンサーについて

●連続するトンネルや半地下道路などでは、ひんぱんにヘッドランプの点灯・消灯を繰り返さないように、ヘッドランプ消灯直後に再点灯を連続して検知した場合は、通常より消灯するまでの時間が長くなります。
●コンライトのセンサーの上にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。※

※この機能を変更することができます。詳しくは、Ｐ.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

便利機能について

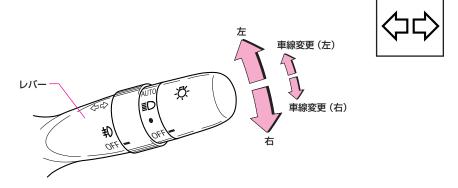
ランプオートカットシステム
ツマミがＯＮ①・ＯＮ②・ＡＵＴＯのまま“パワー”スイッチをＯＦＦにし、運転席側ドアを開けると自動的に消灯します。次のいずれかの操作をすると、再び点灯します。
●“パワー”スイッチをＯＮモードまたはハイブリッドシステムを始動する。
●ランプスイッチをＯＦＦにし、もう一度ＯＮにする。（この場合、運転席ドアを開けてもランプは消灯しません。）

インテリジェント ＡＦＳ
インテリジェント ＡＦＳ装着車
ヘッドランプ（下向き）点灯時、車速およびハンドルの操作量に応じてランプを旋回方向に動かして交差点やカーブでの視認性を向上させることができます。（Ｐ.454参照）
●ＡＦＳ ＯＦＦスイッチで作動を禁止することもできます。（Ｐ.321参照）

前方を遠くまで照らしたいときは

●ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に押すとヘッドランプが上向きになります。
●ヘッドランプが消灯していても、レバーを手前に引いている間、ヘッドランプが上向きになります。
●ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

完全に充電された補機バッテリーでも、ハイブリッドシステムを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、補機バッテリーあがりの原因となります。

方向指示レバーの使い方

方向指示灯の点灯・消灯の仕方

●レバーを上または下へ操作すると、左または右側の方向指示灯が点滅します。メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。
レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。
●車線変更のときには、レバーを軽く上または下へ押さえている間、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

知 識

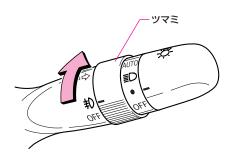
作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

フォグランプスイッチの使い方

フロントフォグランプスイッチの使い方

ツマミを にまわすと点灯し、ＯＦＦにまわすと消灯します。

●点灯中はメーター内のフロントフォグランプ表示灯が点灯します。

知識

フロントフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに、ヘッドランプの補助として使用します。

作動条件について

車幅またはヘッドランプが点灯しているとき使用できます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
お車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

リヤフォグランプスイッチの使い方 ★

ツマミ
AUTO
OFF
OFF

●ツマミを にまわすと点灯します。（ツマミは に自動でもどります）
●ツマミをＯＦＦにまわすと消灯します。また、リヤフォグランプが点灯しているときに、ツマミを にまわすと消灯します。
- 点灯中はメーター内のリヤフォグランプ表示灯が橙色に点灯します。

知 識

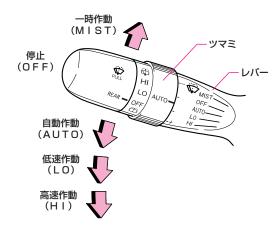
リヤフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに、後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
●視界が悪いとき以外に使用すると、後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

作動条件について

●フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。
●リヤフォグランプが点灯しているときに、ヘッドランプを消灯させても、車幅灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。
●リヤフォグランプが点灯しているときに、ライトスイッチをＯＦＦにして車幅灯を消灯させると、リヤフォグランプも消灯します。
●ライトスイッチがＡＵＴＯで、リヤフォグランプが点灯しているとき、ハイブリッドシステムを停止し、運転席ドアを開けると、リヤフォグランプは消灯します。
●リヤフォグランプが消灯したあとに、再度点灯させるためには、リヤフォグランプスイッチの操作が必要です。

雨滴感知式ワイパー＆ウォッシャースイッチの使い方 ★

ワイパーの動かし方

■フロント

レバーを操作すると、上図のように作動します。

●レバーがＡＵＴＯの位置のときは、フロントウインドゥガラスのセンサーが検出した雨滴量に応じてワイパーが自動的に次の作動の中から最適な作動を選択します。（雨滴感知オート作動）
- 停止
- 間欠作動（間欠時間が可変します。）
- 低速作動
- 高速作動

ワイパーを使用する必要がないときは、ＯＦＦの位置にしておいてください。

●レバーがＬＯの位置のときは走行中、低速作動をおこない、停車すると、しばらく低速作動をおこなったあと、間欠作動に切り替わります。（車速切り替え機能）
- 停車時、ＬＯ以外の位置からＬＯ位置にレバーを切り替えたときは、しばらくＬＯ作動をおこなったあと、間欠作動に切り替わります。
- ツマミを下側いっぱいにまわしたときは、停車しても間欠作動になりません。

●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーをＯＦＦから押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すとＯＦＦにもどります。

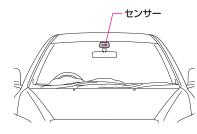
★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

知識

作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

センサーの位置

フロントウインドゥガラスの中央上部にあります。

車速感応間欠時間作動について

レバーがＡＵＴＯの位置のとき、下記の切り替え条件のいずれかの場合、雨滴感知オート作動から車速感応間欠時間作動に切り替わり、車速に応じた間欠作動となります。

●車速が速くなると間欠時間が短くなります。

●ツマミをまわすと、センサーの感度を調整することができます。

- 上側：遅めに作動します
- 下側：早めに作動します

遅めに作動
ツマミ
レバー
PULL
HI
LO
AUTO
OFF
REAR
MIST
OFF
AUTO
LO
HI
早めに作動

＜切り替え条件＞

●雨滴感知オート作動を解除したとき※
（詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。）

●センサーの異常時

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

車速切り替え機能※について

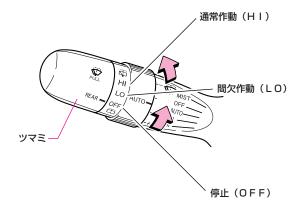
車速切り替え機能を解除することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●解除したときは、停車中も低速作動となります。※

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**を参照してください。

■リヤ

ツマミをまわすと、上図のように作動します。

知 識

作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

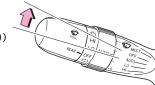
注意 ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。

●ウインドゥガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。ガラスに張り付いたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。

●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチと“パワー”スイッチをＯＦＦにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

●“パワー”スイッチがＯＮモードでレバーをＡＵＴＯの位置にしているとき、次の場合には、ワイパーが自動で作動することがありますので、手などを挟まないように注意してください。
- ●センサー上部のフロントウインドゥガラスに手で触れたとき
- ●センサー上部のフロントウインドゥガラスをタオルなどで拭いたとき
- ●フロントウインドゥガラスに振動をあたえたとき
- ●車内側からセンサー本体に触れるなどして振動をあたえたとき

●“パワー”スイッチがＯＦＦまたはアクセサリーモードのとき、フロントウインドゥガラスの清掃などでセンサー本体に触れると、次の場合には、ワイパーが自動で作動することがありますので、手などを挟まないように注意してください。
- ●レバーをＡＵＴＯの位置にしているときに、“パワー”スイッチをＯＮモードにしたとき
- ●“パワー”スイッチをＯＮモードにしたあと、レバーをＡＵＴＯの位置にしたとき

●自動洗車機を使用するときは、レバーを停止（ＯＦＦ）の位置にしてください。
レバーが自動作動（ＡＵＴＯ）の位置にあると、不意に作動してワイパーなどが損傷するおそれがあります。

知識

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。10分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常どおり使用できるようになります。

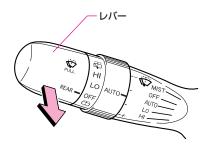
作動の切り替わりについて

次のときは、雨滴量などを正しく感知できないため、レバーがＡＵＴＯの位置でも、オート作動を中断し、間欠作動に切り替わります。

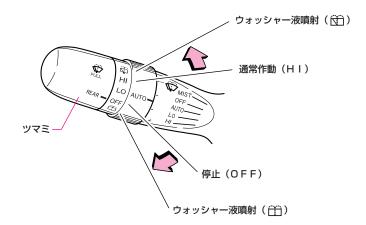
●雨滴感知センサーの温度が極高温（約80℃以上）または極低温（約－10℃以下）のとき

●システムに異常が生じたとき

ウォッシャー液の噴射の仕方

■フロント

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射され、ワイパーが数回作動します。

●数秒後（車速に応じて可変します。）液だれ防止のためワイパーが1回作動します。（液だれ防止作動）

■リヤ

●作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミをＨＩから上の側にまわします。

●ツマミをＯＦＦから下の側にまわしている間、ウォッシャー液が噴射されます。

寒冷時はウォッシャー液を使用しないでください。視界不良を起こすおそれがあります。

●寒冷時はウインドゥガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍り付き視界不良を起こすおそれがあります。
●必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させるとガラスを傷付けるおそれがあります。
●ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。また、ノズルがつまって噴射状態が悪い場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

知 識

作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

ガラスに付いた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

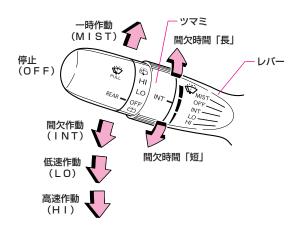
ウォッシャー液の補給については、Ｐ.501を参照してください。

フロントウォッシャー液だれ防止作動について

フロントウォッシャー液噴射後の液だれ防止作動を下記のように変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
●車速に関係なく3秒後に1回作動。
●液だれ防止作動をおこなわない。

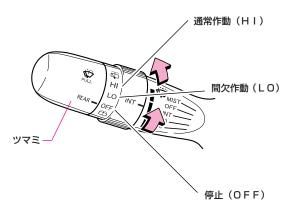
間欠時間調整式ワイパー&ウォッシャースイッチの使い方 ★

ワイパーの動かし方

■フロント

レバーを操作すると、上図のように作動します。

●間欠作動（ＩＮＴ）のときツマミをまわすと、間欠時間を約3～12秒の間で調整できます。

●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーをＯＦＦから押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すとＯＦＦにもどります。

■リヤ

ツマミをまわすと、上図のように作動します。

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
お車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

注意 ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。

●ウインドゥガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。ガラスに張り付いたまま作動させせると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチと“パワー”スイッチをＯＦＦにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

知 識

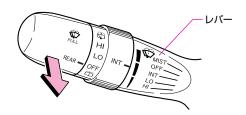
作動条件について

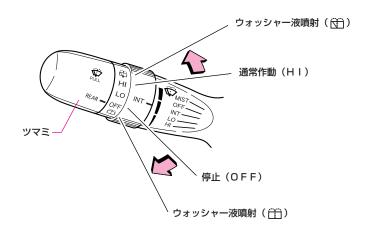
“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。10分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常どおり使用できるようになります。

ウォッシャー液の噴射の仕方

■フロント

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射され、ワイパーが数回作動します。

■リヤ

●作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミをＨＩから上の側にまわします。
●ツマミをＯＦＦから下の側にまわしている間、ウォッシャー液が噴射されます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

注意 寒冷時はウォッシャー液を使用しないでください。視界不良を起こすおそれがあります。

●寒冷時はウインドゥガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍り付き視界不良を起こすおそれがあります。
●必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させるとガラスを傷付けるおそれがあります。
●ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。また、ノズルがつまって噴射状態が悪い場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

作動条件について

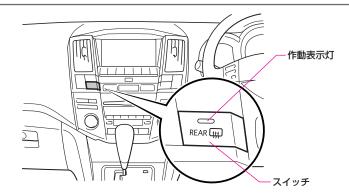
“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

ガラスに付いた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

ウォッシャー液の補給については、Ｐ.501を参照してください。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）スイッチの使い方

リヤウインドゥガラスを熱線で温めて曇りを取ります。

●スイッチを押すと作動表示灯が点灯し約15分間作動します。作動中にもう一度押すと停止します。

●ミラーヒーター★、フロントワイパーデアイサー★も同時に作動します。（P.242、317参照）

注意

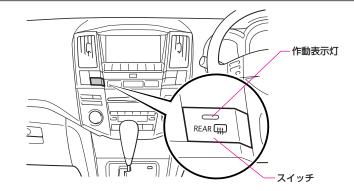
連続して長時間使用すると、補機バッテリーあがりの原因となります。

知 識

作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

フロントワイパーデアイサースイッチの使い方 ★

フロントウインドゥガラス下部の表面および運転席側フロントピラー部を温めてガラスとワイパーブレードの凍結を防止します。

●スイッチを押すと作動表示灯が点灯し約15分間作動します。作動中にもう一度押すと停止します。

●ミラーヒーター★、リヤウインドゥデフォッガーも同時に作動します。（P.242、316参照）

作動中はフロントウインドゥガラス下部の表面および運転席側フロントピラー部が熱くなりますので、手を触れないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

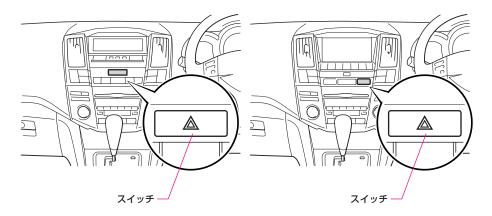
連続して長時間使用すると、補機バッテリーあがりの原因となります。

作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

非常点滅灯スイッチの使い方

メーカーオプションの HDDナビゲーションシステム非装着車	メーカーオプションの HDDナビゲーションシステム装着車

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。
●メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。

補機バッテリーがあがるのを防ぐためハイブリッドシステムが停止しているときに長時間使用しないでください。

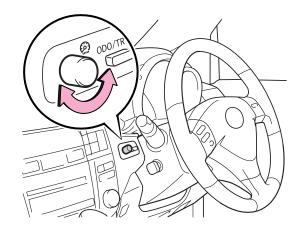
知 識

非常点滅灯について

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

作動条件について

“パワー”スイッチの状態に関係なく使用できます。

メーター照度調整ダイヤルの使い方

メーター照度調整ダイヤルにより、メーター照明の明るさを調整できます。

 知 識

作動条件について

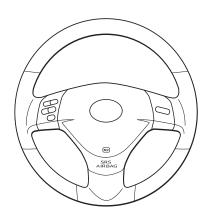
“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

メータ照度の調整について

ダイヤルを右にまわすとメーター照明が明るくなり、左にまわすと暗くなります。

減光について

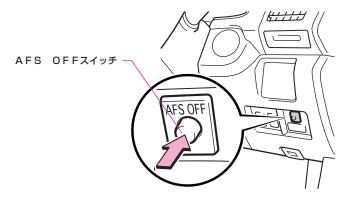
●ライトスイッチがＯＮになるとメーター照明が減光されます。
●右側いっぱいに“カチッ”というところまでまわすと、ランプスイッチがＯＮになったとき、メーター照明は減光されません。（メーカーオプションのHDDナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーションシステム画面も連動して常に昼画表示になります。詳しくは別冊の「HDDナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。）
●左側いっぱいまでまわすと以下の照明は消灯します。
- シフトレバー部照明（P.379参照）
- 足元照明（P.407参照）
- ドアレバー照明（P.407参照）

ホーンの使い方

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーン（警音器）が鳴ります。

知 識

作動条件について

“パワー”スイッチの状態に関係なく使用できます。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
お車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチの使い方

インテリジェントＡＦＳ装着車

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチを押すとインテリジェントＡＦＳの作動が停止し、作動停止中にもう一度押すと作動可能状態にもどります。

●停止中はメーター内のＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯が点灯します。

知識

インテリジェントＡＦＳについて

インテリジェントＡＦＳ※は、ヘッドランプ（下向き）点灯時に、車速およびハンドルの操作量に応じてランプを旋回方向に動かして交差点やカーブでの視認性を確保することができます。

（作動については、P.454の**「インテリジェントＡＦＳ」**をお読みください。）

作動条件について

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

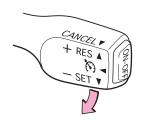
※Adaptive Front-Lighting System の略

クルーズコントロールスイッチの使い方

クルーズコントロールとは、シフトレバーがⒹのとき、アクセルペダルを踏まなくても一定の速度（約40km/h～100km/ｈ）で走行できるシステムです。

セット（定速走行）するには

1 **メインスイッチを押します。**
クルーズコントロールが作動待機状態になり、メーター内のクルーズコントロール表示灯（P.269参照）が点灯します。

2 **希望速度まで加速または減速します。**

3 **希望速度になったら、コントロールレバーを下げ、手を離します。**

以上の操作で定速走行を開始します。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

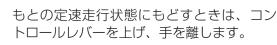
一時的に加速・減速するときは

■**加速したいとき**

アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離せば、もとの定速走行状態にもどります。

■**減速したいとき**

ブレーキペダルを踏みます。
ブレーキペダルを踏むと、定速走行が解除されます。

もとの定速走行状態にもどすときは、コントロールレバーを上げ、手を離します。

セット車速をかえるには

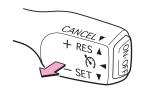
「セットするには」（P.322参照）の***2***、***3***の手順でかえる方法と、次のコントロールレバーでかえる方法があります。

1 コントロールレバーを操作します。

- 上げ続けると、セット車速が上がります。
- 下げ続けると、セット車速が下がります。

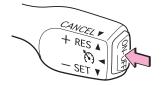
2 希望速度になったら、コントロールレバーから手を離します。

コントロールレバーを上（または下）に軽く操作して手を離せば、セット速度の微調整（約1.5km/ｈ）ができます。

定速走行を解除するには

コントロールレバーを手前に引きます。

●作動待機状態にもどります。

●コントロールレバーを上げ、手を離すと、もとの定速走行状態にもどります。

クルーズコントロールをＯＦＦにするには

メインスイッチを押します。

●メーター内のクルーズコントロール表示灯が消灯します。

●再度、定速走行するには、P.322の**「セットするには」**をお読みください。

警告 **クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにしてください。**

●クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにしてください。誤ってクルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●次のような状況のときは、クルーズコントロールを使用しないでください。使用すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 交通量の多い道や急カーブのある道
  道路の状況にあった速度で走行できないため、事故につながるおそれがあり危険です。
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。
- 急な下り坂
  エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

定速走行中に表示灯が点滅したときは、一度クルーズコントロールをＯＦＦにしてから再度セットしてください。以上の操作をしても、セットできないまたはセットしてもすぐ解除される場合は、システムの異常が考えられます。走行上支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

定速走行の自動解除について

次の場合は、自動的に定速走行が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んだとき（この場合は、コントロールレバーを上げ、手を離すと、もとの定速走行状態にもどります。）

●セットした速度より車速が約16km/h以上低下したとき

●車速が約40km/h以下になったとき

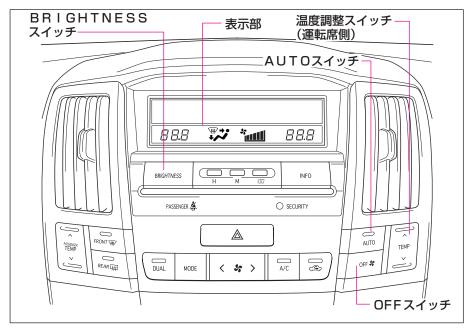
●ＶＳＣの作動により、スリップ表示灯が点滅するとともに、ＶＳＣ作動警告ブザーが鳴ったとき。（運転状況によっては、横すべりしそうになったときに、スリップ表示灯やＶＳＣ警告ブザーで警告する前に解除されることがあります。）

室内装備の取り扱い

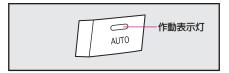
4

エアコンの取り扱い

オートエアコンの使い方

“パワー”スイッチがＯＮモードの状態でＡＵＴＯスイッチを押すと、ファンが作動し、設定温度により吹き出し口、風量およびエアコンのＯＮ・ＯＦＦなどが自動的に調整されます。作動の状態が表示部および各スイッチの作動表示灯により表示されます。

●ＢＲＩＧＨＴＮＥＳＳスイッチを押して、表示部の明るさを調整することができます。（Ｐ.290参照）

オート（ＡＵＴＯ）での使い方

自動調整にする

ＡＵＴＯスイッチを押します。

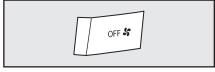
- スイッチの作動表示灯が点灯します。
- スイッチを押すと、エアコンが作動します。
  - 外気温などの条件により、エアコンが自動的にＯＦＦになる場合があります。

温度を調整する

運転席側温度調整スイッチで希望する室内温度に設定します。
上げるときはスイッチの∧側、下げるときはスイッチの∨側を押します。（0.5℃ずつ調整できます。）

- 設定温度を18℃～32℃の間で調整することができます。
- 設定温度は表示部に表示されます。
  - 最大冷房にするとＬＯ
  - 最大暖房にするとＨＩ

  の表示になります。

ファンを止める

ＯＦＦスイッチを押します。

- エアコンシステムを停止させることができます。

注意 補機バッテリーあがりを防ぐために、ハイブリッドシステム停止中に作動させないでください。

知識

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

便利機能について

ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているとき、次のような機能があります。

●吹き出し口が 、 または のとき、冬場などの寒いときには、温風の準備ができるまで、しばらくの間ファンを停止します。

●吹き出し口が または のとき、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンを停止します。

●夏場などの暑いときに、室内をより早く設定温度に冷房するため、内気循環モードに切り替わる場合があります。

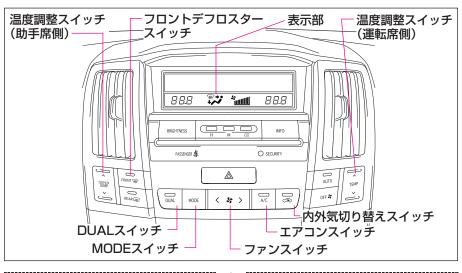
●フロントガラス内・外の曇りや霜を防止するため、外気温が低いときや高車速走行時には、 モードに切り替わる場合があります。

●風量、吹き出し口、エアコンのいずれかを操作しても、残りの機能は引き続き自動的に調整されます。ただし、風量または吹き出し口を操作するとＡＵＴＯスイッチの表示灯が消灯します。

ＡＵＴＯスイッチについて

ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているとき、ＭＯＤＥスイッチまたはファンスイッチを操作すると作動表示灯が消灯します。

お好みの状態にするには

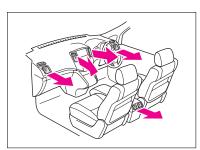
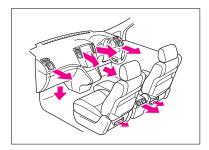
各スイッチを押すことで、それぞれの設定で使用することができます。

風量をかえる

ファンスイッチで風量を5段階に切り替えます。
風量を強くするときは＞側、弱くするときは＜側を押します。
●風量は表示部に表示されます。
●ファンが停止しているときは、スイッチを押すと、ファンが作動します。

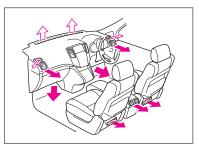
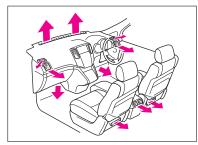
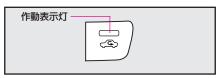
吹き出し口をかえる

ＭＯＤＥスイッチで吹き出し口を選択します。（次ページ参照）
スイッチを押すごとに吹き出し口がかわります。
●吹き出し口は表示部に表示されます。

<吹き出し口選択の目安>

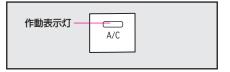
上半身に送風するときは

上半身と足元に送風するときは

足元に送風するときは

⇦ ＡＵＴＯスイッチがＯＮのときのみ送風されます。

足元への送風とガラスの曇りを取るときは

外気導入・内気循環の切り替えをする

内外気切り替えスイッチを押すごとに、外気導入と内気循環に切り替わります。

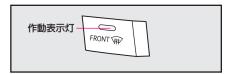
●内気循環にすると作動表示灯が点灯します。

表示	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

エアコンをＯＮにする

ファンが作動している状態でエアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房、除湿機能）がＯＮとＯＦＦに切り替わります。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

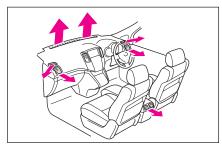
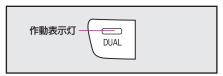
●外気温が0℃近くまで下がると、エアコンは作動しません。

フロントガラス内外の曇りや霜を取る

フロントデフロスタースイッチを押すと自動的にエアコンがＯＮになり、外気導入に切り替わります。

●ファンが停止中のとき、スイッチを押すと、ファンが自動的に作動します。

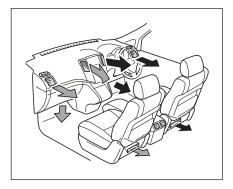
●作動中は作動表示灯が点灯します。

●作動中にもう一度スイッチを押すと、もとの吹き出しモードにもどります。

<吹き出し口>

運転席・助手席で
それぞれ温度調整をする

ＤＵＡＬスイッチを押すごとに連動モードと独立モード（作動表示灯が点灯します。）に切り替わります。

DUAL表示灯	モード
点灯	**独立モード** 運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。
消灯	**連動モード** 運転席側スイッチ操作により運転席と助手席の設定温度を同じにします。

独立モードのときに運転席は運転席側スイッチ、助手席は助手席側スイッチを押して、希望する室内温度に設定することができます。
上げるときはスイッチの∧側、下げるときはスイッチの∨側を押します。（0.5℃ずつ調整できます。）

●運転席と助手席でそれぞれ独立した温度調整をすることができます。
●送風温度は下図のように調整されます。

➡ 運転席側スイッチの設定温度により調整された風
⇨ 助手席側スイッチの設定温度により調整された風

湿度が非常に高いときにフロントデフロスターを使用すると、外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り視界をさまたげる場合があります。

補機バッテリーあがりを防ぐために、ハイブリッドシステム停止中に作動させないでください。

知 識

内外気切り替えについて

●エンジン水温が高いときなどに自動的に内気循環に切り替わることがあります。
●トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときに内外気切り替えスイッチを内気循環にすると効果的です。
●長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。
●ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているとき、ガラスの曇りを防止するために、エアコンシステムの状態を感知して自動的に外気導入に切り替えることがあります。
●設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わることがあります。

より早くガラスの曇りや霜を取るには

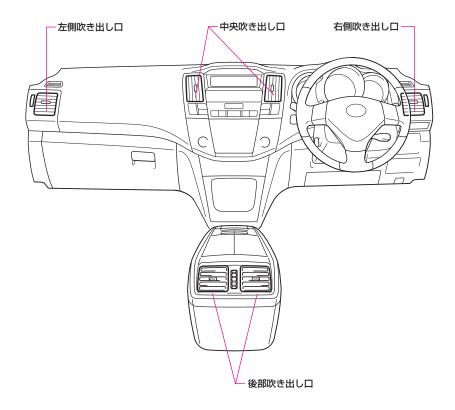
フロントガラス内外の曇りや霜を取る（Ｐ.333参照）の操作と併せて、次の操作をおこないます。
●風量を増す。（ファンスイッチを操作する。）
●設定温度を上げる。（温度調整スイッチを操作する。）

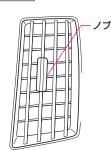
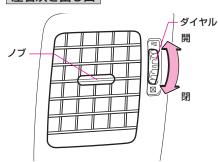
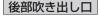
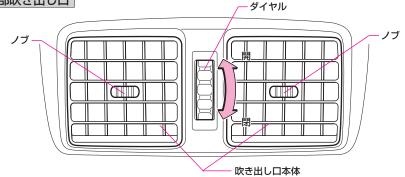
温度調整について

●独立モードから連動モードにもどすとき、運転席と助手席で設定温度が異なる場合は運転席側の設定温度になります。
●連動モードのとき、助手席側温度調整スイッチを操作すると、自動的に独立モードに切り替わります。

エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

吹き出し口の調整

風向きのかえ方・吹き出し口の開閉の仕方

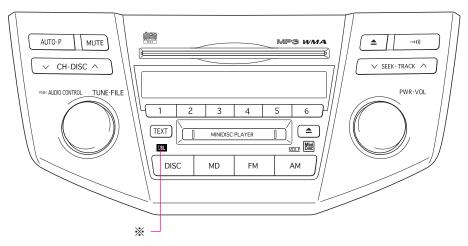
中央吹き出し口

- 前席吹き出し口は、吹き出し口のノブを動かすと風向きの調整ができます。
- 後席吹き出し口は、吹き出し口のノブまたは吹き出し口本体を動かすと風向きの調整ができます。
- ダイヤルをまわして、吹き出し口を開閉することができます。

知 識

吹き出し口について

冷房時まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり、異常ではありません。

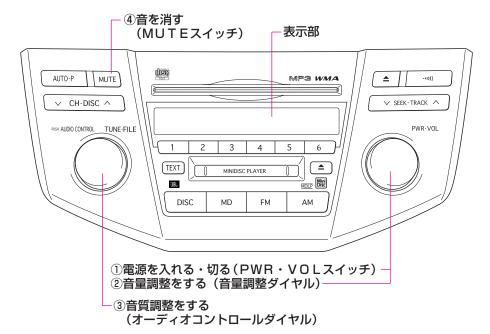
オーディオの取り扱い

メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ＨＤＤナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

※ＪＢＬ社製オーディオ装着車

ＣＤ、ＭＤ一体ＡＭ／ＦＭラジオ ★

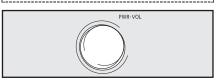
★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

電源、音量、音質調整

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
お車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

基本操作

①電源を入れる・切る

ＰＷＲ・ＶＯＬスイッチを押すごとに、電源が入・切に切り替わります。

②音量調整をする

音量調整ダイヤルを右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。

知 識

作動条件について

“パワー”スイッチがアクセサリーモード、ＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

応用操作

③音質調整をする

■モードの切り替え方

音量バランスと音質の調整モードを切り替えることができます。
オーディオコントロールダイヤルを押すごとに、ＦＡＤ·ＢＡＳ·ＭＩＤ※·ＴＲＥ·ＢＡＬ·ＡＳＬの順にモードが切りかわります。
●選択したモードが表示部に表示されます。

※ＪＢＬ製オーディオ装着車のみ

■レベル調整の仕方

オーディオコントロールダイヤルをまわして、選択したモードのレベル調整をすることができます。
●調整レベルがモード表示の右側に表示されます。

ＪＢＬ製オーディオ装着車

調整モード	モード表示	調整レベル範囲	左へまわす	右へまわす
前後音量バランス	FAD	R7～F7	後側大	前側大
低音	BAS	−5～5	弱	強
中音	MID	−5～5		
高音	TRE	−5～5		
左右音量バランス	BAL	L7～R7	左側大	右側大
音量補正	ASL	OFF・ON	OFF	ON

ＪＢＬ製オーディオ非装着車

調整モード	モード表示	調整レベル範囲	左へまわす	右へまわす
前後音量バランス	**FAD**	R7～F7	後側大	前側大
低音	**BAS**	−5～5	弱	強
高音	**TRE**	−5～5	弱	強
左右音量バランス	**BAL**	L7～R7	左側大	右側大
音量補正	**ASL**	OFF LOW MID HIGH	右へまわす OFF → LOW → MID → HIGH OFF ← LOW ← MID ← HIGH 左へまわす	

知 識

ＡＳＬ※（音量補正）について

車速に応じて音量、周波数特性を自動的に制御し、いつも最適な音量・音質を実現するシステムです。

●ＪＢＬオーディオ非装着車は、ＨＩＧＨ、ＭＩＤ、ＬＯＷの順に補正量が小さくなります。

※ ＡＳＬはAutomatic Sound Levelizerの略。

④音を消す

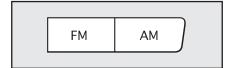
ＭＵＴＥスイッチを押すと一時的に音を消すことができます。

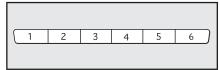
●表示部に「ＭＵＴＥ」が表示されます。
　解除するときは、もう一度ＭＵＴＥボタンを押します。

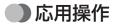
ラジオの使い方

③自動で放送局を記憶する（ＡＵＴＯ・Ｐスイッチ）
②放送局を選ぶ
⑤変更した周波数を記憶させる（プリセットスイッチ）
表示部
⑦交通情報を聞く
（交通情報スイッチ）
AUTO·P
MUTE
CH·DISC
SEEK·TRACK
PUSH AUDIO CONTROL
TUNE·FILE
PWR·VOL
MP3 WMA
1
2
3
4
5
6
TEXT
MINIDISC PLAYER
JBL
MDLP
DISC
MD
FM
AM
④周波数をかえる
（ＴＵＮＥダイヤル）
④周波数をかえる
（ＳＥＥＫスイッチ）
①ラジオを聞く（ＡＭスイッチ）
①ラジオを聞く（ＦＭスイッチ）
⑥記憶されている周波数を切り替える
（ＣＨスイッチ）

基本操作

①ラジオを聞く

ＡＭ放送を受信したいときは、ＡＭスイッチ、ＦＭ放送を受信したいときは、ＦＭスイッチを押します。

②放送局を選ぶ

1～6までのプリセットスイッチのひとつを押します。記憶されている放送局が選択されます。
放送局の記憶の仕方については、Ｐ.348を参照してください。

応用操作

③自動で放送局を記憶する

自動で受信可能な周波数を一時的にプリセットスイッチに記憶させることができます。
旅先などで放送局の周波数がわからないときに便利です。
ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、受信感度の良い周波数を低い順に6局まで自動的に記憶します。

●表示部に**「ＡＵＴＯ・Ｐ」**の表示が出ます。
●受信周波数が6局未満のときは、残りのプリセットスイッチには何も記憶されません。
●周波数の記憶操作が終了すると、“ピッピッ”と音がして記憶した中で一番低い周波数を受信します。
●ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押すたびに、新たに周波数を記憶しなおします。
●自動で周波数を記憶させても、ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押す前（**「ＡＵＴＯ・Ｐ」**の表示が出ていないとき）に記憶させた周波数は消去されません。

ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押す前の状態にしたいときは

ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押して、すぐ手を離します。
●表示部の**「ＡＵＴＯ・Ｐ」**の表示が消え、以前に記憶させた周波数になります。

ＡＵＴＯ・Ｐスイッチで記憶させた周波数を変更するには

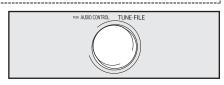
1 ＳＥＥＫスイッチまたはＴＵＮＥダイヤルで記憶させたい周波数を選択します。

2 変更したい周波数が記憶されているプリセットスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

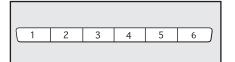
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
お車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

④周波数をかえる

周波数はＳＥＥＫスイッチを押すと自動で受信可能な周波数を選択します。

●高い方へ選択するときは∧側、低い方へ選択するときは∨側を押します。
- 受信感度が良く、現在表示部に表示されている周波数にいちばん近い周波数を自動で選択します。
- 途中で止めたいときは、もう一度ＳＥＥＫスイッチを押します。
- 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で選択できないことがあります。

周波数はＴＵＮＥダイヤルをまわすと微調整することができます。

●高い方へ選択するときは右に、低い方へ選択するときは左にまわします。

⑤変更した周波数を記憶させる

記憶させたいプリセットスイッチのひとつを“ピッ”と音がするまで押し続けると、聞いていた周波数を記憶させることができます。

●ＡＭ・ＦＭ各6局まで周波数を記憶させることができます。
ひとつのプリセットスイッチに、ＡＭ・ＦＭ各1局ずつ周波数を記憶させることができます。

●バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、記憶されていた周波数はすべて消去されます。

⑥記憶されている周波数を切り替える

ＣＨスイッチの∧側または∨側を押して、プリセットスイッチに記憶させている周波数を選択します。

●表示部にプリセット番号が表示されます。

⑦交通情報を聞く

交通情報放送をおこなっている地域で交通情報放送局を受信することができます。
●交通情報スイッチを押すと、交通情報放送局が受信されます。
●解除するときは、もう一度交通情報スイッチを押します。

周波数を変更したいときは

1 ＡＭを選択します。

2 記憶させたい周波数を選択します。

3 交通情報スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

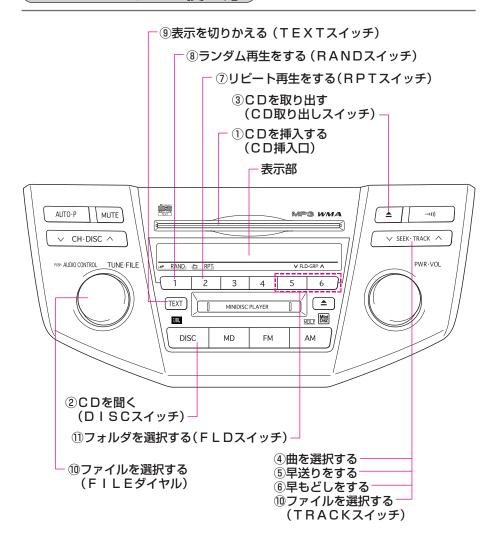
●新車時には1620kHzにセットしてあります。
●交通情報スイッチを押してラジオを受信しているときは、ＳＥＥＫスイッチ・ＴＵＮＥダイヤル・プリセットスイッチ・ＡＵＴＯ・Ｐスイッチ・ＣＨスイッチを押しても周波数は切り替わりません。
●補機バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオと補機バッテリーとの接続が断たれたときには、1620kHzになります。

知 識

ＡＵＴＯ・Ｐスイッチについて

●地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で記憶できないことがあります。
●ＡＵＴＯ・Ｐスイッチによる周波数の記憶操作を同じ場所で繰り返しても、受信感度の状態によっては、操作ごとに記憶される周波数が異なることがあります。
●同じ放送局からの受信でも、ＳＥＥＫスイッチまたはＴＵＮＥダイヤルで選択し、記憶させた周波数とＡＵＴＯ・Ｐスイッチで記憶させた周波数は一致しないことがあります。

ＣＤプレーヤーの使い方

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
お車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

基本操作

①ＣＤを挿入する

ＣＤ挿入口にＣＤを挿入します。

●ＣＤを挿入するときは、ラベル面を上にして挿入します。

●ＣＤ挿入口にＣＤを挿入すると、ＣＤが再生されます。

②ＣＤを聞く

DISC

ＣＤが入っている場合は、ＤＩＳＣスイッチを押すと、ＣＤが再生されます。

③ＣＤを取り出す

ＣＤ取り出しスイッチを押します。

応用操作（音楽ＣＤを聞く）

④曲を選択する

SEEK・TRACK

ＴＲＡＣＫスイッチの∧側または∨側を押して曲を選択します。

●表示部に曲番が表示されます。

⑤早送りをする

SEEK・TRACK

ＴＲＡＣＫスイッチの∧側を“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●ＴＲＡＣＫスイッチを押している間ＣＤが早送りされます。
ＴＲＡＣＫスイッチから手を離すと、その位置から再生をはじめます。

⑥早もどしをする

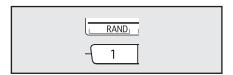
ＴＲＡＣＫスイッチのＶ側を“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●ＴＲＡＣＫスイッチを押している間ＣＤが早もどしされます。
ＴＲＡＣＫスイッチから手を離すと、その位置から再生をはじめます。

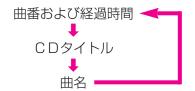
⑦リピート再生をする

ＲＰＴスイッチを押すと、解除するまで同じ曲を繰り返して再生します。

●表示部に RPT の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＰＴスイッチを押します。

⑧ランダム再生をする

ＲＡＮＤスイッチを押すと、ＣＤの中から曲を順不同に再生します。
●表示部に RAND の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

⑨表示を切りかえる

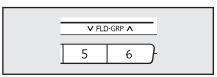
ＣＤテキスト対応のＣＤを再生しているときは、ＴＥＸＴスイッチを押すごとに、次のように表示部の表示が切りかわります。

応用操作（ＭＰ３／ＷＭＡを聞く）

⑩ファイルを選択する

ＦＩＬＥダイヤルをまわしてファイルを選択します。

●うしろのファイルを選択したいときは右に、前のファイルを選択したいときは左にまわします。

ＴＲＡＣＫスイッチの∧側または∨側を押してファイルを選択します。

⑪フォルダを選択する

ＦＬＤスイッチの∧側または∨側を押してフォルダを選択します。
∨側を“ピッ”と音がするまで押し続けると、最初のフォルダを選択することができます。

⑤早送りをする

ＴＲＡＣＫスイッチの∧側を“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●ＴＲＡＣＫスイッチを押している間ＣＤが早送りされます。
　ＴＲＡＣＫスイッチから手を離すと、その位置から再生をはじめます。

⑥早もどしをする

ＴＲＡＣＫスイッチの∨側を“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●ＴＲＡＣＫスイッチを押している間ＣＤが早もどしされます。
　ＴＲＡＣＫスイッチから手を離すと、その位置から再生をはじめます。

⑦リピート再生をする

■同一ファイル繰り返しモード

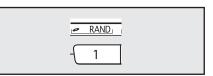
ＲＰＴスイッチを押すと、解除するまで同じファイルを繰り返して再生します。

●表示部に RPT の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＰＴスイッチを押します。

■同一フォルダ繰り返しモード

ＲＰＴスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、解除するまで同じフォルダを繰り返して再生します。

●表示部に RPT の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＰＴスイッチを押します。

⑧ランダム再生をする

■**同一フォルダランダムモード**

ＲＡＮＤスイッチを押すと、再生中のフォルダの中からファイルを順不同に再生します。

●表示部に RAND の表示が出ます。

解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

■**ディスク内ランダムモード**

ＲＡＮＤスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、ディスクの中からファイルを順不同に再生します。

●表示部に RAND の表示が出ます。

解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

⑨表示を切りかえる

ＴＥＸＴスイッチを押すごとに、次のように表示部の表示が切りかわります。

※ タグ情報。タグについては、Ｐ.360をお読みください。

注意

8cmＣＤを使用するときは、アダプターを使用しないでください。
ＣＤを取り出せなくなるおそれがあります。

知 識

表示について

●ＣＤタイトルまたは曲名表示のとき、タイトルがない場合は**「NO TITLE」**と表示されます。

●表示部に一度に表示できるのは12文字までです。また、記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。
ＣＤタイトル、または曲名が13文字以上の場合は、ＴＥＸＴスイッチを約1秒以上押し続けると13文字目以降が表示されます。ただし、表示できるのは最大で24文字です。
- 13文字目以降表示時に、もう一度ＴＥＸＴスイッチを約1秒以上押し続ける、または、約6秒以上操作しないと、1文字目〜12文字目までの表示にもどります。
- 記憶してある文字数が25文字以上ある場合でも、表示できるのは24文字までです。

●ディスク内にＭＰ３／ＷＭＡファイルが収録されていないと、**「NO MUSIC」**と表示されます。

ＣＤプレーヤーに異常が生じたときは

●表示部に次の表示でプレーヤーの状態を知らせます。
- ディスクが汚れているなど読み取りができないとき

「ERROR 1」

- プレーヤーに異常があるとき

「ERROR 3」
「ERROR 4」

●プレーヤーの温度異常を検出すると、表示部に次の表示が出て自動的にプレーヤーの機能が停止します。この場合、しばらくしてプレーヤーの温度が常温に復帰すると表示が消えて使用可能になります。

「WAIT」

知識

MP3／WMAファイルについて

ＭＰ３（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
ＭＰ３を使用すれば、もとのファイルを約1/10のサイズに圧縮することができます。
ＷＭＡ（Windows Media Audio）は、マイクロソフト社の音声圧縮フォーマットです。
ＭＰ３よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できるＭＰ３／ＷＭＡファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

■再生可能なＭＰ３ファイルの規格について

●対応規格
ＭＰ３（MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3）
●対応サンプリング周波数
MPEG1 LAYER3：32、44.1、48（kHz）
MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24（kHz）
●対応ビットレート
MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320（kbps）
MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160（kbps）
＊ＶＢＲに対応しています。
●対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

■再生可能なWMＡファイルの規格について

●対応規格
WMA Ver.7、8、9
●対応サンプリング周波数
32、44.1、48（kHz）
●対応ビットレート
Ver.7、8：CBR48、64、80、96、128、160、192（kbps）
Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320（kbps）
＊2ch再生のみ対応しています。

■使用できるメディアついて

ＭＰ３／ＷＭＡの再生に使用できるメディアはＣＤ－ＲおよびＣＤ－ＲＷです。
ＣＤ－Ｒ、ＣＤ－ＲＷの状態によっては再生できない場合があります。また、ディスクに指紋や傷を付けた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

知 識

■使用できるディスクのフォーマットについて

使用できるメディアのフォーマットは下記の通りです。

●ディスクフォーマット：ＣＤ－ＲＯＭ　Mode1、Mode2
　　　　　　　　　　　：ＣＤ－ＲＯＭ　ＸＡ、Mode2　Form1、Form2

●ファイルフォーマット：ＩＳＯ 9660レベル1、レベル2（Romeo joliet）

上記フォーマット以外で書き込まれたＭＰ３／ＷＭＡファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。

規格ならびに制限事項は次の通りです。

●最大ディレクトリ階層：8階層

●最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角32文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません。）

●最大フォルダ数：192（ルート含む）

●ディスク内最大ファイル数：255

■ファイル名について

ＭＰ３／ＷＭＡと認識し、再生するファイルはＭＰ３／ＷＭＡの拡張子“.ＭＰ３”／“.wma”が付いたものだけです。

■マルチセッションついて

マルチセッションに対応しており、ＭＰ３／ＷＭＡファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

■ＩＤ3タグ／WMＡタグついて

ＭＰ3ファイルには、ＩＤ3タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。
ＩＤ3 Ver. 1.0、1.1、ＩＤ3 Ver. 2.2、2.3のＩＤ3タグに対応しています。
（文字数はＩＤ3 Ver. 1.0、1.1に準拠します。）
WMＡファイルには、WMＡタグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ＩＤ3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

■ＭＰ３／WMＡの再生ついて

ＭＰ３／WMＡファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初のＭＰ３／WMＡファイルを再生します。
ディスク内のチェックを早く終わらせるために、ＭＰ３／WMＡファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。
音楽データとＭＰ３、またはWMＡ形式のデータが混在しているディスクは再生できません。

知識

拡張子について

MP3／WMA以外のファイルに“.MP3”／“.wma”の拡張子が付いていると、MP3／WMAファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損する場合があります。

再生について

●安定した音質で再生するために、MP3の場合、128kbpsの固定ビットレート、44.1kHzのサンプリング周波数を推奨します。
●CD－R、CD－RWはディスクの特性により再生できない場合があります。
●MP3／WMAは市場にフリーウエアなど、多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質の劣化や再生開始時のノイズの発生、また再生できない場合もあります。
●ディスクにMP3／WMA以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できない場合があります。
●Microsoft、Windows、Windows Mediaは米国マイクロソフトコーポレーションの米国、およびその他の国における登録商標および商標です。

MDプレーヤーの使い方

基本操作

①MDを挿入する

1 MD挿入口にMDを軽く止まる位置まで挿し込みます。

MDのラベル面を上に向け、MDに表示されている矢印の方向を前にして挿し込みます。

2 MDの中央を静かに押します。

MDが再生されます。

②MDを聞く

MD

MDがセットされている場合は、MDスイッチを押すと、MDが再生されます。

③MDを取り出す

MD取り出しスイッチを押します。

④曲を選択する

∨ SEEK・TRACK ∧

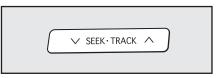
ＴＲＡＣＫスイッチの∧側または∨側を押して曲を選択します。

●表示部に曲番が表示されます。

⑤グループを選択する

グループ録音されているＭＤ再生時

ＧＲＰスイッチの∧側または∨側を押してグループを選択します。

⑥早送りをする

ＴＲＡＣＫスイッチの∧側を“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●ＴＲＡＣＫスイッチを押している間ＭＤが早送りされます。
ＴＲＡＣＫスイッチから手を離すと、その位置から再生をはじめます。

⑦早もどしをする

SEEK・TRACK

ＴＲＡＣＫスイッチのＶ側を“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●ＴＲＡＣＫスイッチを押している間ＭＤが早もどしされます。
ＴＲＡＣＫスイッチから手を離すと、その位置から再生をはじめます。

⑧リピート再生をする

RPT
2

■同一曲繰り返しモード

ＲＰＴスイッチを押すと、解除するまで同じ曲を繰り返して再生します。

●表示部に RPT の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＰＴスイッチを押します。

グループ録音されているＭＤ再生時

■同一グループ繰り返しモード

ＲＰＴスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、解除するまで同じグループを繰り返して再生します。

●表示部に RPT の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＰＴスイッチを押します。

⑨ランダム再生をする

ＲＡＮＤスイッチを押すと、ＭＤの中から曲を順不同に再生します。
●表示部に RAND の表示が出ます。解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

グループ録音されているMD再生時

■同一グループランダムモード

ＲＡＮＤスイッチを押すと、グループの中から曲を順不同に再生します。
●表示部に RAND の表示が出ます。解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

■MD内ランダムモード

ＲＡＮＤスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、ＭＤの中から曲を順不同に再生します。
●表示部に RAND の表示が出ます。解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

⑩表示を切り替える

ＴＥＸＴスイッチを押すごとに、次のように表示部の表示が切りかわります。

※ グループ録音されているMD再生時

MDが自動的にセットされないときは、いったんMD取り出しスイッチを押してMDを取り出し、MDが軽く止まる位置まで差し込まれていることを確認してから、再度MDを静かに押してください。無理にMDを押し込むと故障の原因となります。

知 識

表示について

●MDタイトル、グループタイトルまたは曲名表示のとき、タイトルがない場合は**『NO TITLE』**と表示されます。

●表示部に一度に表示できるのは12文字までです。また、記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。
MDタイトルまたは曲名が13文字以上の場合は、TEXTスイッチを約1秒以上押し続けると13文字目以降が表示されます。ただし、表示できるのは最大で24文字です。
- 13文字目以降表示時に、もう一度TEXTスイッチを約1秒以上押し続けるまたは約6秒以上操作しないと1文字目〜12文字目までの表示にもどります。
- MDタイトルまたは曲名が25文字以上ある場合でも、表示できるのは24文字までです。

●無録音ディスクが挿入されているときは次の表示が出ます。

『BLANK DISC』

MDLPについて

●このプレーヤーは、MDLPの再生に対応していますので、長時間録音されたMDを再生することができます。
ただし、グループ機能を用いた再生には対応していません。

●MDの録音方法にかかわらず曲名の先頭の「LP：」を表示しません。（長時間録音された曲名の先頭には、「LP：」があらかじめ入力されている場合があります。）

●LP4ステレオ録音した音を再生した場合、圧縮方式の特性により、ごくまれに瞬間的なノイズが聞こえることがあります。

MDプレーヤーに異常が生じたときは

●表示部に次の表示でプレーヤーの状態を知らせます。
- ディスクが汚れているなど読み取りができないとき

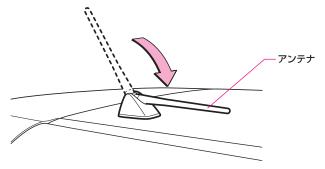
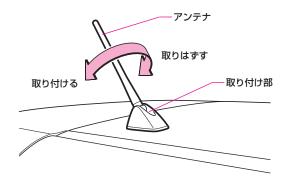
『ERROR 1』
- プレーヤーに異常があるとき

『ERROR 3』
『ERROR 4』

●プレーヤーの温度異常を検出すると、表示部に次の表示が出て自動的にプレーヤーの機能が停止します。この場合、しばらくしてプレーヤーの温度が常温に復帰すると、表示が消えて使用可能になります。

『WAIT』

アンテナ

ラジオ用アンテナ

アンテナは上図のように格納することができます。
●ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

取りはずすときは、アンテナをまわして取り付け部から取りはずします。
取り付けるときは、アンテナ取り付け部にねじ込み、しっかりと固定します。

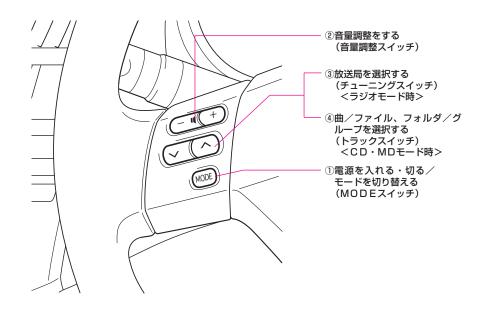
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
お車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

FMサブアンテナ

リヤウインドゥガラスに埋め込まれています。

注意 アンテナの取り扱いにはご注意ください。

- 自動洗車機にかけるときは、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。
- 次のようなときは、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを格納してください。
  - 車庫などにアンテナがあたるとき
  - カーカバーをかけるとき
- 洗車時などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取り付けてください。
- リヤウインドゥガラスのアンテナ線部に次のものを貼り付けないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。
  - 金属を含有するウインドゥフィルム
  - その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）

ステアリングスイッチの使い方

ハンドル左側にあるスイッチで､次のオーディオ操作をすることができます。

●電源のＯＮ・ＯＦＦ、モードの切り替え ➡ 次ページ

●音量の調整 ➡ P.372

●ラジオの操作 ➡ P.373

●ＣＤ・ＭＤの操作 ➡ P.374

知 識

作動条件について

“パワー”スイッチがアクセサリーモード、ＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

電源のＯＮ・ＯＦＦ／モードの切り替え

①電源を入れる・切る／モードを切り替える

電源のＯＮ・ＯＦＦと、モードの切り替えをすることができます。

■電源をＯＮにするときは

電源がＯＦＦのときは、スイッチを押すと電源がＯＮになります。

■電源をＯＦＦにするときは

電源がＯＮのときは、スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると電源がＯＦＦになります。

■モードの切り替え

電源がＯＮのときは、スイッチを押すごとに、次のようにモードが切り替わります。
なお、ディスクが挿入されていないときは、（　）内のモードは飛ばされてしまうため選択できません。

音量の調整

②音量の調整をする

音量を調整することができます。
音量を
●大きくするときはスイッチの＋側
●小さくするときはスイッチのー側
を押します。
●スイッチを押してすぐ（約1秒未満）に手を離すと、音量を1ステップづつ調整できます。
●スイッチを約1秒以上押し続けると、音量を連続して調整できます。

ラジオの操作

③放送局を選択する

放送局の周波数を選択することができます。

■プリセットスイッチに記憶されている周波数を選択するには
チューニングスイッチを押してすぐ離すと、オーディオのプリセットスイッチに記憶されている周波数を選択します。
周波数を
●高い方へ選択するときはスイッチの∧側
●低い方へ選択するときはスイッチの∨側
を押します。

■自動で周波数を選択するには
チューニングスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数を選択します。
周波数を
●高い方へ選択するときはスイッチの∧側
●低い方へ選択するときはスイッチの∨側
を押します。

- 受信感度が良く、現在オーディオの表示部に表示されている周波数に一番近い周波数を自動で選択します。
- 途中で止めたいときは、もう一度スイッチを押します。
- 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で選択できないことがあります。

④曲／ファイル、フォルダ／グループを選択する

曲／ファイルや、フォルダ／グループの選択をすることができます。

■曲／ファイルを選択するには
トラックスイッチを押して、曲／ファイルを選択します。
希望の曲／ファイルが
●うしろにあるときはスイッチの∧側
●前にあるときはスイッチの∨側
を押します。

MP3／WMAディスクまたはグループ録音されているMD再生時

■フォルダ／グループを選択するには
MP3／WMAディスクまたはグループ録音されているMD再生時に、トラックスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、フォルダ／グループが選択されます。
再生したいフォルダ／グループが、
●うしろにあるときはスイッチの∧側
●前にあるときはスイッチの∨側
を押します。

使用上の留意点

安全運転をさまたげないように適度な音量でお聞きください。
オーディオを聞いているときに、車内または車の近くでデジタル式携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがありますが故障ではありません。

⚠注意　ハイブリッドシステム停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

- 補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステム停止中にオーディオを長時間使用しないでください。
- 走行中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないように十分注意しておこなってください。

ラジオについて

ラジオの受信は、アンテナの位置が刻々とかわるため電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合もあります。

CDについて

■プレーヤーについて

上のマークの付いた音楽用ＣＤやＣＤ－Ｒ（CD-Recordable）、ＣＤ－ＲＷ（CD-ReWritable）が使用できます。

- コピーコントロールＣＤなどの正式なＣＤ規格に準拠していない特殊なディスクには対応していません。
- ＣＤ－Ｒ（CD-Recordable）、ＣＤ－ＲＷ（CD-ReWritable）は、記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、長時間の車室内環境における劣化により再生できない場合があります。また、ファイナライズ処理されていないＣＤ－Ｒ、ＣＤ－ＲＷは再生できません。

■寒いときや雨降りのときは

車内のガラスが曇るように、プレーヤー内部にも露（水滴）が生ずることがあります。この場合、音が飛んだり、再生が停止したりしますので、しばらくの間、換気または除湿してから使用してください。

■悪路を走行したときは

激しく振動した場合、音飛びをすることがあります。

注意　ＣＤの取り扱いにはご注意ください。

●ＣＤ取り出しスイッチを押して、ＣＤが飛び出た状態のまま長時間放置しないでください。ＣＤがそり、使用できなくなるおそれがあります。

●ＣＤは直射日光を避けて保管してください。ＣＤがそり、使用できなくなるおそれがあります。

●ＣＤを扱うときは、中心の穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてください。

●直径12cmまたは8cmの円形以外のＣＤは再生できません。特殊形状のＣＤは機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

●DualDiscには対応していません。機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

●記憶部分に透明または半透明部分があるＣＤは、正常に出し入れや再生ができなくなるおそれがありますので使用しないでください。

●レンズクリーナーを使用すると、プレーヤーのピックアップ部の故障の原因となるおそれがありますので使用しないでください。

●セロハンテープ、シール、ＣＤ－Ｒ用ラベルなどが貼ってあるＣＤや、はがしたあとのあるＣＤは使用しないでください。プレーヤーが正常に作動しなくなったり、ＣＤが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

●ＣＤの汚れは、プラスチック用メガネ拭きなどの柔らかく乾いた布で軽く拭き取ってください。手で強く押したり、かたい布でこすると表面に傷が付くことがあります。また、レコードスプレー・帯電防止剤・アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤や化学ぞうきんなどを使用すると、ＣＤが損傷し使用できなくなるおそれがあります。

●変形したディスクは機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
お車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

MDについて

■プレーヤーについて

上のマークの付いた音楽用MDのみ使用できます。

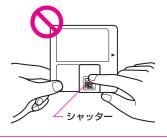
■寒いときや雨降りのときは

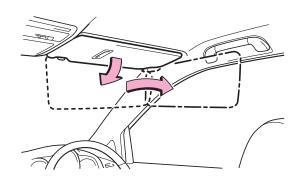
車内のガラスが曇るように、プレーヤー内部にも露（水滴）が生ずることがあります。この場合、音が飛んだり、再生が停止したりしますので、しばらくの間、換気または除湿してから使用してください。

■悪路を走行したときは

激しく振動した場合、音飛びをすることがあります。

注意　MDの取り扱いにはご注意ください。

- ●データ用のMDは使用できません。必ず音楽用のMDを使用してください。
- ●ラベルがはがれかけていたり、ネームテープが貼ってあるMDを使用しないでください。
- ●MDは直射日光を避けて保管してください。MDがそり、使用できなくなるおそれがあります。
- ●シャッターを無理にあけないでください。MDがこわれるおそれがあります。

室内装備品の使い方

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。
側面にまわして使用することもできます。

知 識

便利機能について

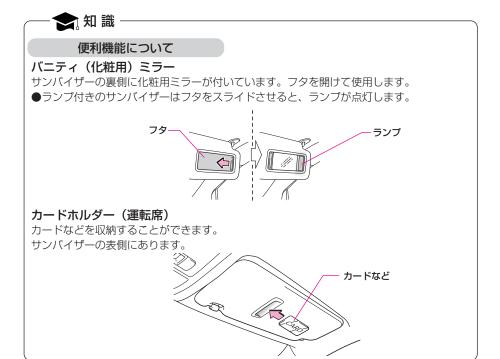
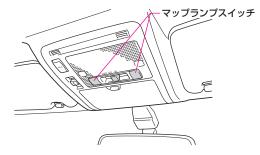
バニティ（化粧用）ミラー

サンバイザーの裏側に化粧用ミラーが付いています。フタを開けて使用します。
●ランプ付きのサンバイザーはフタをスライドさせると、ランプが点灯します。

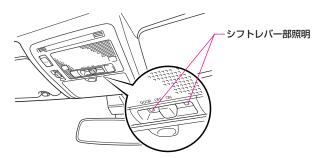
フタ
ランプ

カードホルダー（運転席）

カードなどを収納することができます。
サンバイザーの表側にあります。

カードなど
CARD

フロントパーソナルランプ

■マップランプ機能

スイッチを押すと、押した側のマップランプが点灯し、もう一度押すと消灯します。

■シフトレバー部照明

シフトレバー部を照らします。

●メーター照度調整ダイヤル（P.319参照）を左側いっぱいまでまわすと消灯します。

補機バッテリーあがりを防ぐために、ハイブリッドシステム停止中に長時間点灯させないでください。

作動条件について

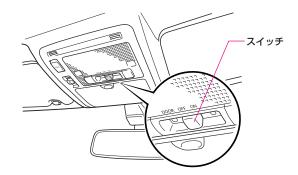
●マップランプ機能は、“パワー”スイッチの状態に関係なく使用できます。

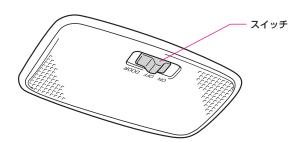
●シフトレバー部照明は、“パワー”スイッチがアクセサリーモード、ＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

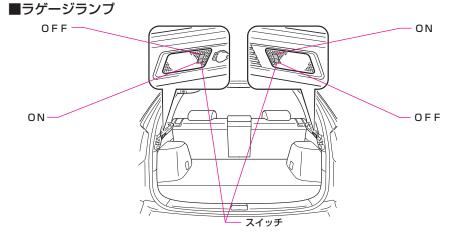
シフトレバー部照明について

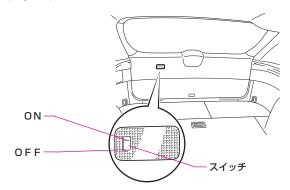
シフトレバー部照明はＬＥＤ式です。

ルームランプ

■フロント

●スイッチがＯＮの位置のときは、常に点灯します。
●スイッチがＯＦＦの位置のときは、常に消灯します。
●スイッチがＤＯＯＲのときは、いずれかのドアを開けたとき点灯し、閉めると約15秒後に消灯します。
（P.407**「イルミネーテッドエントリーシステム」**参照）
●フロントパーソナルランプのルームランプ機能です。

■リヤ

●スイッチがＯＮの位置のときは、常に点灯します。
●スイッチがＯＦＦの位置のときは、常に消灯します。
●スイッチがＤＯＯＲの位置のときは、いずれかのドア（バックドアを含む）を開けたとき点灯し、閉めると約15秒後に消灯します。
（P.407**「イルミネーテッドエントリーシステム」**参照）

■ラゲージランプ

●スイッチをＯＮの位置にしておくと、バックドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。
●スイッチがＯＦＦの位置のときは、常に消灯します。

■バックドアランプ

●スイッチをＯＮの位置にしておくと、バックドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。
●スイッチがＯＦＦの位置のときは、常に消灯します。

補機バッテリーあがりを防ぐために、ハイブリッドシステム停止中に長時間点灯させせないでください。

作動条件について

“パワー”スイッチの状態に関係なく使用できます。

補機バッテリーあがり防止機能について

キースロットに電子キーが差し込まれていないとき、いずれかのドアが開いた状態で、フロントルームランプおよびリヤルームランプ（ＤＯＯＲのとき）が約20分以上点灯し続けると、補機バッテリーあがり防止機能が働き、ランプを自動的に消灯します。

ドアカーテシランプ

フロントドア

いずれかのドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。

注意

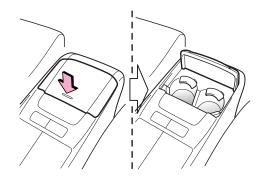
補機バッテリーあがりを防ぐために、ハイブリッドシステム停止中に長時間点灯させないでください。

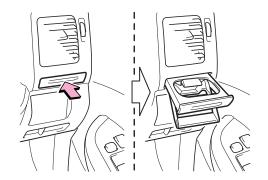
知識

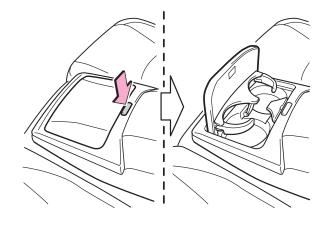
作動条件について

“パワー”スイッチの状態に関係なく使用できます。

カップホルダー

コンソールボックス

矢印の部分を押してフタを開けます。
●使用しないときは、フタを閉めておいてください。

運転席側

矢印の部分を押して使用します。
●使用しないときは、閉めておいてください。

リヤシートアームレスト

矢印の部分を押してフタを開けます。
●使用しないときは、フタを閉めておいてください。

●カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。

注意

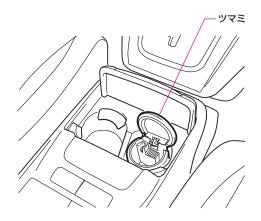
カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。

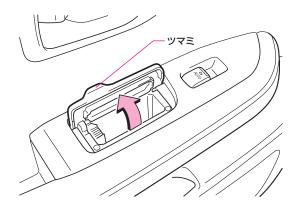
●カップホルダーを破損から守るため、カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
●コンソールボックス内の灰皿は右側に格納してください。カップホルダーの深さが異なるため、左側に格納するとカップホルダーのフタを閉めることができなくなります。

カップホルダーランプについて

ライトスイッチがＯＮのときは、コンソールボックスのカップホルダーランプが点灯します。

灰皿

■フロント

コンソールボックスのカップホルダーに移動式灰皿が格納されています。
カップホルダーのフタを押してあけます。（P.384参照）
ツマミを引いて灰皿のフタを開けます。
●コンソールボックス内のカップホルダー以外でも使用できます。

■リヤ

ツマミを引いてフタを開けます。
●取りはずすときは、フタを持って上に引き上げて取りはずします。

出火を防ぐため、次のことをお守りください。

- ●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、フタを確実に閉めてください。
- ●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

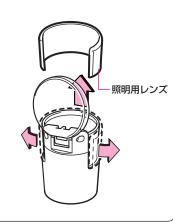
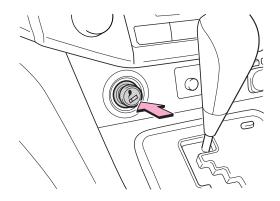
移動式灰皿はコンソールボックスのカップホルダーの右側に格納してください。カップホルダーの深さが異なるため左側に格納するとカップホルダーのフタを閉めることができなくなります。

知 識

移動式灰皿の照明ランプについて

●ライトスイッチがＯＮのときは、照明用レンズがリング状に点灯します。

●照明用レンズは取りはずして掃除できます。

- ●照明用レンズを取りはずすときは、灰皿のフタを開けてから、レンズを左右に少し広げたまま上に引き抜きます。

シガレットライター

シガレットライターを押し込んで手を離します。
もとの位置にもどったら使用できます。

●シガレットライターの金属部分に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
●シガレットライターの故障や周辺部の焼損を防ぐため、次のことをお守りください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- 他車のシガレットライターを差し込まないでください。
- ソケットからトヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。
  トヨタ純正品以外の電源を取り出した場合、シガレットライターを使用すると、赤熱したシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

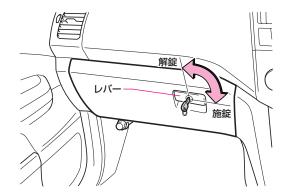
知識

作動条件について

“パワー”スイッチがアクセサリーモード、ＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

グローブボックス

レバーを引いて開けます。
●閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

警告

グローブボックスのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

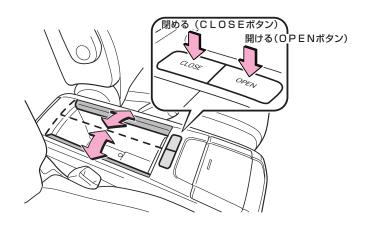
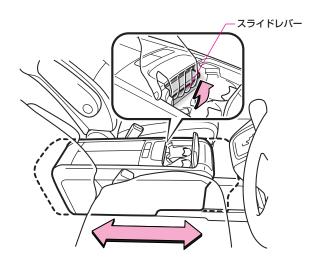
知識

グローブボックスランプについて

ライトスイッチがＯＮのときは、グローブボックス内のＬＥＤが点灯します。

施錠について

メカニカルキーを差し込み右にまわしたまま抜きます。

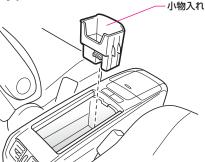
コンソールボックス

ＯＰＥＮボタンを押すと自動で開きます。
●閉めるときはＣＬＯＳＥボタンを押します。
●ボタンを使用せずに、手で開閉することもできます。

コンソールボックス全体をスライドさせることができます。
●カップホルダーのフタを開け、内側にあるスライドレバーを引いてスライドさせます。

警告 コンソールボックスのフタを開けたまま走行しないでください。

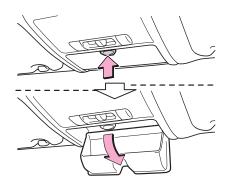
●コンソールボックスのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●スライドさせたときは、確実にロックさせてください。最後部の位置ではロックができませんので、運転席と助手席間の移動に使用するとき以外は最後部へのスライドはしないでください。
●スライドロックをしないまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにコンソールボックスが動き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知 識

コンソールボックス内の小物入れについて

コンソールボックス内に小物入れがあります。
●取りはずすこともできます。

コンソールボックスランプについて

ライトスイッチがＯＮのときは、コンソールボックス内のランプが点灯します。

オーバーヘッドコンソール

ボタンを押すと開きます。

●閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

⚠警告

オーバーヘッドコンソールを開けたまま走行しないでください。走行中に中のものが落ちるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

メガネやライターを放置したまま、車から離れないでください。
オーバーヘッドコンソール内に放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

コートフック

リヤ席のアシストグリップにはコートフックがあります。

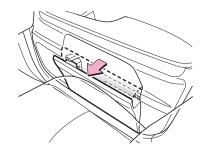
⚠注意

とくに重いものや大きなものをフックに掛けないでください（最大荷重約2kg）。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

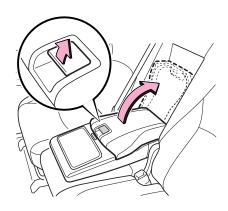
⚠警告

ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、コートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。
ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

ドアポケット

フロントドア

使用するときは、手前に引きます。

小物入れ★

リヤシートアームレスト

レバーを引いて開けます。

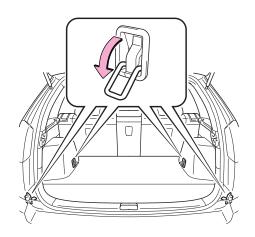
●閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

●使用しないときは閉めておいてください。

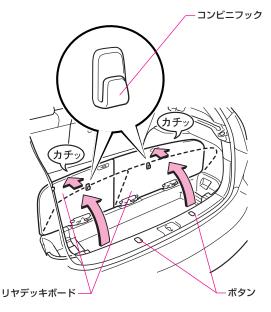
警告

小物入れのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

カーゴフック

ラゲージルームに備えられています。
ネットやロープを併用して、荷物を固定することができます。
●ネットやロープは市販のものをご使用ください。

注意

フックを使用しないときは、格納しておいてください。指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

コンビニフック

買い物袋などを吊り下げておくことができます。

●ボタンを押してリヤデッキボードを開けます。

●リヤデッキボードを前側に“カチッ”と音がするまで押し、リヤデッキボードを固定して使用します。

●閉めるときはリヤデッキボードを“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

●コンビニフックを使用しないときはリヤデッキボードを閉めてください。

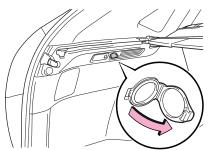
注意　重いものや大きなものをフックに掛けないでください。

●とくに重いものや大きなものをフックに掛けないでください（最大荷重約2kg）。フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

●カーゴフックを出した状態（P.394参照）でリヤデッキを閉めないでください。カーゴフックと干渉して破れるおそれがあります。

アクセサリーソケット

フロント

リヤ

車内で電気製品を使用することのできるソケットです。

アクセサリーソケットを使わないときは、フタを閉めておいてください。

●アクセサリーソケットを使わないときは、フタを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水等がかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。
●ハイブリッドシステムが止まった状態で長時間使用すると補機バッテリーがあがることがあります。

知 識

作動条件について

●“パワー”スイッチがアクセサリーモード、ONモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯しているとき使用できます。

アクセサリーソケットについて

●使用する電気製品は、必ずDC12Vでフロントとリヤの合計が最大電流10A（最大消費電力120W）以下の電気製品を使用してください。
●規定容量をこえる電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。

アクセサリーコンセント★ HYBRID

車内で電気製品を使用することのできるコンセントです。

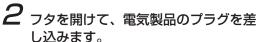
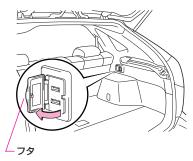
● READY（走行可能表示灯）が点灯しているときに使用できます。

アクセサリーコンセントの使い方

1 **メインスイッチを押します。**

- 作動表示灯が点灯し、アクセサリーコンセントが使用可能な状態になります。
- スイッチを押すごとに電源がＯＮとＯＦＦに切り替わります。
- アクセサリーコンセントを使用しないときは、メインスイッチをＯＦＦにして、作動表示灯が消灯していることを確認してください。

2 **フタを開けて、電気製品のプラグを差し込みます。**

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

走行中、次のような場合は絶対に電気製品を使用しないでください。

●走行中、次のような場合は、絶対に電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 脇見運転など安全運転のさまたげになる場合（テレビ、ビデオ、ＤＶＤなど）
- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒、落下による事故や、発熱により火災、やけどなどのおそれがある場合
（トースター、電子レンジ、電熱器、ポット、コーヒーメーカーなど）
- ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合
（ドライヤー、ＡＣアダプター、マウスなど）

●走行中、助手席でドライヤーなどの電気製品を使用しないでください。衝突したときなどにエアバッグが作動して、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、他の電装品に悪影響を与えるおそれがあります。やむを得ず使用するときは、窓を開けて使用してください。

●電気製品を使用中に READY （走行可能表示灯）が点灯した状態のまま、車両から離れないでください。
車両の盗難や、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

●暖房機具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

●故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電するおそれがあります。

●濡れた手で電気製品のプラグを抜き差ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに差したりしないでください。感電するおそれがあり危険です。
また、コンセントに雨水、飲料水などや雪が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

●アクセサリーコンセントの改造や分解、修理などは絶対にしないでください。
また、絶対に車両搭載のＡＣ100Ｖインバーターを市販のＡＣインバーターに組み替えないでください。
思わぬ故障や事故の原因となって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●使用する電気製品に付属の取扱書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損するおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。
走行時の振動や炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●アクセサリーコンセントを使わないときは、フタを閉めてください。
異物がコンセントにはいったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。

●ＡＣアダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、ＡＣアダプターが脱落するおそれがあります。

●お子さまには、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。

●アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続してタコ足配線しないでください。

●アクセサリーコンセントに、ほこりやゴミが付着しないようにしてください。
また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。
交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知 識

アクセサリーコンセントについて

●使用する電気製品は、必ずＡＣ100Ｖで最大消費電力合計100W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護回路が働き、使用できなくなります。また、保護回路が働いたときに作動音がすることがありますが、異常ではありません。

●消費電力が100W以下であっても次のような機器は正常に作動しない場合があります。
- 起動時の消費電力が大きい機器
  ブラウン管式テレビ、コンプレッサー式冷蔵庫、電気ポンプ、電動工具など

●消費電力が100W以下であっても、次のような機器は使用しないでください。
- 精密なデータを計測する機器
  医療機器、計量器など
- その他
  マイコン制御式電気毛布、タッチセンサ付ランプなど

●次のような場合は、アクセサリーコンセントが使用できないことがあります。
- 駆動用電池の温度が低いまたは高い、あるいは駆動用電池の残量が低下して、駆動用電池の性能が低下しているとき
- 発電用モーターの性能が低下しているとき

●アクセサリーコンセントの使用中、車両状態により、一時的にＡＣ電源の出力が断たれることがあります。
ＡＣ電源の出力が連続して必要な電気製品（タイマー設定する電気製品など）を使用するときは、注意してください。

●電気製品によっては、水平に設置しないと正常に作動しない製品があります。
（コーヒーメーカー、電子レンジなど）
このような電気製品を使用するときは、水平な面を確保してから使用してください。

●使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

●アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正確な電圧を測定できません。
電圧の確認が必要な場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

●アクセサリーコンセントを使用中、コンソールボックス内より冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

知識

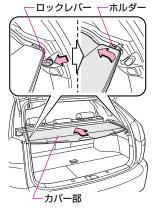
コンセントが使用できないときは

●メインスイッチの作動表示灯が消灯して、コンセントからＡＣ電源が出力されないとき、再度スイッチをＯＮにしても復帰しない場合は、保護回路が働いていることが考えられます。
この場合は、まず次の処置をおこなってください。
- コンセントをはずして消費電力が100W以下になっているか確認して、再度スイッチをＯＮにしてください。
- 電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないか確認して、再度スイッチをＯＮにしてください。
- メーター内の駆動用電池の残量を確認してください。
残量表示の点灯が1つになっているようであれば、シフトレバーをⓅにして、駆動用電池の残量を回復させ、再度スイッチをＯＮにしてください。
- 真夏の炎天下に放置した直後など、車内が高温の状態であれば、エアコンを使用するなどして、車内を十分に換気して、車内の温度を下げ、しばらくしてから再度スイッチをＯＮにしてください。

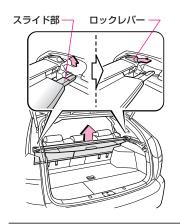
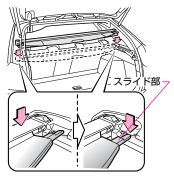
以上の操作をしても復帰しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

寒冷地で使用するときは

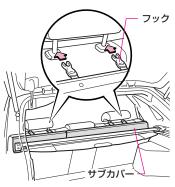
外気温が−15℃以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリーコンセントが使用できないことがあります。
この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を温めてから使用してください。

脱着の仕方

■取りはずし方

1 **カバー部をホルダーからはずします。**
バックドア連動巻き込み機能を禁止している場合は、ロックレバーを押してカバー部を左右のホルダーからはずし、トノカバー本体に格納します。
（P.404参照）

2 **サブカバーのフックをヘッドレストから取りはずします。**

3 **トノカバー本体を取りはずします。**
トノカバー本体のスライド部をはずし、ロックレバーを解除します。ロックレバーを解除したまま、トノカバー全体を持ち上げて取りはずします。

■取り付け方

1 トノカバー本体を取り付けます。

トノカバー本体両側およびスライド部を、車両の取り付け部に取り付けます。

2 サブカバーをヘッドレストに取り付けます。

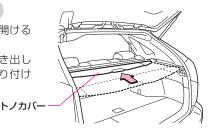
3 カバー部を引き出します。

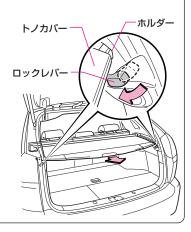
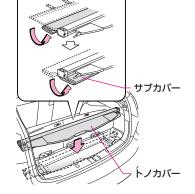
カバー部を引き出して、先端にあるホルダー（左右2ヶ所）にはめ込みます。

トノカバーの上に荷物を置いたり、お子さまを乗せたりしないでください。トノカバーが破損し、荷物が損傷したり、お子さまが生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

バックドア連動巻き取り機能について

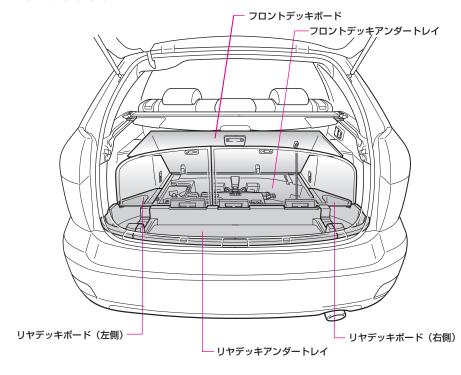
トノカバーを引き出した状態でバックドアを開けると、自動でトノカバーが巻き取られます。
バックドアを閉めるときは、トノカバーを引き出して、トノカバーを左右のホルダーへ確実に取り付けてください。

バックドア連動巻き取り機能解除について

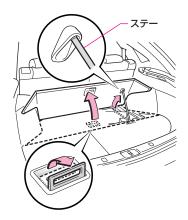
トノカバーを引き出して左右のホルダー部に取り付け、トノカバーを少し引きながら左右のロックレバーを押します。
バックドア連動巻き取り機能を可能にする場合は、トノカバーを少し引きながら左右のロックレバーを押します。

格納の仕方

1 トノカバーを取りはずします。
（P.402参照）

2 リヤデッキボードを開けます。
（P.406参照）

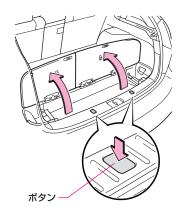
3 サブカバーを巻き込み、リヤデッキアンダートレイに格納します。

デッキアンダートレイ

デッキボードの下には、小物などを収納することができるデッキアンダートレイがあります。

デッキボードの開け方

■フロントデッキボード

1 **フロントデッキボードを持ち上げます。**

2 **フロントデッキボードを固定します。**
デッキアンダートレイ内にあるステーをくぼみに置きます。

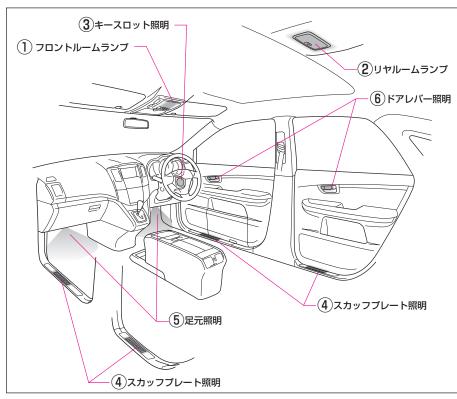
■リヤデッキボード

1 **ボタンを押すと自動でリヤデッキボードが開きます。**
●閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

⚠ 注意	デッキボードを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

イルミネーテッドエントリーシステム※

イルミネーテッドエントリーシステムについて

ドアロックの施錠・解錠、ドアの開閉、“パワー”スイッチの状態によって、各部の照明が点灯・消灯するシステムです。

※ この機能を変更することもできます。詳しくは、P.515の**「ユーザーカスタマイズ機能」**をお読みください。

①フロントルームランプ（スイッチがＤＯＯＲのとき）
②リヤルームランプ（スイッチがＤＯＯＲのとき）
③キースロット照明
④スカッフプレート照明 ★
⑤足元照明 ★
⑥ドアレバー照明 ★

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

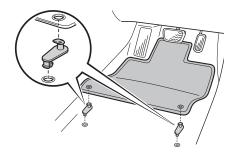
作動の仕方

下記の作動は、条件が1つしか成立しない場合の例です。実際には、いくつかの条件が同時に成立することにより、下記の作動と異なる場合があります。

		フロントルームランプ リヤルームランプ キースロット照明 スカッフプレート照明	足元照明 ドアレバー照明
ドアロック	いずれかを 解錠したとき	消灯→ 約15秒間点灯	消灯→ 約15秒間点灯
	すべてを 施錠したとき	点灯→消灯	点灯→消灯
ドア	いずれかを 開けたとき	消灯→点灯	消灯→点灯
	すべてを 閉めたとき	点灯→ 約15秒後に消灯	点灯→ 約15秒後に消灯
“パワー”スイッチの状態	ＯＦＦ→アクセサリーモードにしたとき	点灯→消灯	点灯→ 約15秒後に消灯
	アクセサリーモード→ＯＮモードにしたとき	その状態のまま	点灯→点灯 消灯→点灯
	ＯＮモード→ＯＦＦにしたとき	消灯→ 約15秒間点灯	点灯→ 約15秒後に消灯
シフトレバーの位置	Ｐ→Ｐ以外 にしたとき	その状態のまま	減光する

足元照明およびドアレバー照明は、メーター照度調整ダイヤル（Ｐ.319参照）を左側いっぱいまでまわすと消灯します。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

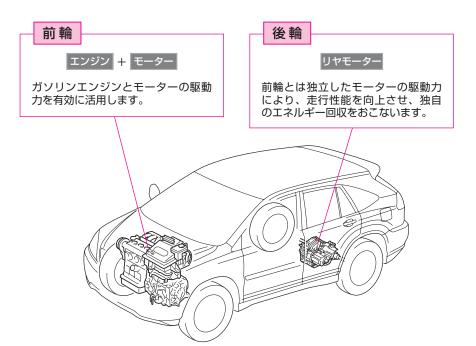
●運転する前に、以下のことを確認してください。
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

安全・快適装備の解説と注意

トヨタハイブリッドシステムⅡ

ハリアーハイブリッドのシステム構成

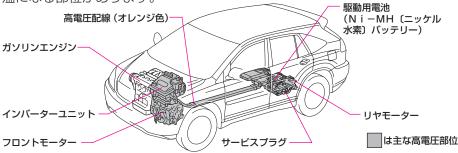
HYBRID

ハリアーハイブリッドは、前輪の駆動にはガソリンエンジンとモーターを使うトヨタハイブリッドシステムⅡ(ＴＨＳⅡ)を採用しています。さらに後輪は独立したモーターだけで駆動する、プロペラシャフトのいらない電気式4WDシステム(Ｅ－Ｆｏｕｒ)を採用しています。

■トヨタ ハイブリッドシステムⅡ

走行する場所や車速によって、ガソリンエンジンとモーターを組み合わせて走行するシステムです。（P.414参照）

■電気式4WDシステム（Ｅ－Ｆｏｕｒ）

ハイブリッドシステムにより、後輪をリヤモーターで駆動する4輪駆動システムです。（P.452参照）

トヨタハイブリッドシステムⅡには、約650Ｖの高電圧部位とこれらを接続するオレンジ色の配線や、モーター、冷却用ラジエーターなどの走行時高温になる部位があります。

警告　高電圧・高温に注意してください。

●高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし、分解などは、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、絶対におこなわないでください。
これらの部位には取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示にしたがって正しい取り扱いをしてください。

●サービスプラグが駆動用電池横に設置してあります。サービスプラグはトヨタ販売店にて車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。
取り扱いを誤ると感電し、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、絶対に触らないでください。

知 識

ガス欠になったときは

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（P.283参照）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で約10Lです。車両の傾きによって給油量はかわります。）

電磁波について

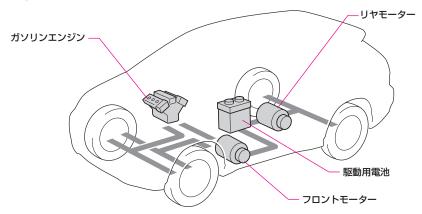
●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

トヨタハイブリッドシステムⅡの特徴

走行する場所や車速によって、ガソリンエンジンとモーターを組み合わせて走行するシステムです。

- ガソリンエンジンの駆動で駆動用電池および補機バッテリーが充電されるため、車外からの充電は必要ありません。
- ガソリンエンジンは必要に応じて始動・停止するので燃料の無駄な消費を防ぎます。
- 発進時はモーターが駆動を担当し、加速力に応じてガソリンエンジンとモーターの両方で駆動しますので、安定した発進・加速性能を実現しています。
- ガソリンエンジンを理想的な状態で運転できるため、画期的な燃費向上、排出ガスのクリーン化を可能にしています。

走行特性

■ハイブリッド走行

状況に応じて、ガソリンエンジンが自動的に始動・停止します。

READY（走行可能表示灯）が点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても発進可能です。

なお、下記の状態ではガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 駆動用電池充電レベルが低いとき
- 暖房をかけているとき
- 補機バッテリーの交換などで、ターミナルの脱着をおこなったとき

■クリープ現象

坂道での車両の保持、発進時のペダル操作をより使いやすくするため、通常のオートマチック車と同様にクリープ力を発生させるようにしてあります。（P.60参照）

■回生ブレーキ

アクセルペダルから足を離したときやブレーキペダルを踏んだときに、モーターを発電機として使用し、運動エネルギーを電気エネルギーへ変換することにより、減速力が得られるとともに、駆動用電池へ電気エネルギーを回収する装置です。

●操作方法は通常の車のブレーキと同じです。

知識

ハイブリッド車特有の音と振動について

●走行できる状態でも、エンジン音や振動がないことがあります。駐車時は必ずシフトレバーをⓅにしてください。
●走行中、エンジンルームや車両後方の床下からモーター音が聞こえることがあります。
●ハイブリッドシステム始動時や停止時に、駆動用電池付近から“コトン”、“カチッ”などの音が聞こえることがあります。これは、高電圧リレーの音で、異常ではありません。
●走行中、ブレーキを踏んだときや、アクセルを緩めたときに“ヒューン”と音がします。これは駆動用電池へ電気エネルギーを回収するときに発生する音で、異常ではありません。
●ハイブリッド車は状況に応じてガソリンエンジンが始動・停止を繰り返すため、走行中であっても振動を感じることがあります。
●ガソリンエンジンの始動や停止時、およびアイドリング時にトランスミッション付近から“コツコツ”、“カタカタ”という音が聞こえることがありますが異常ではありません。
●シフトレバーがⓃの位置で“パワー”スイッチをＯＦＦにすると、トランスミッション付近から“コツコツ”、“カタカタ”という音が聞こえることがありますが異常ではありません。通常はシフトレバーをⓅに入れてから“パワー”スイッチをＯＦＦにしてください。
●急加速時に突然エンジン音が大きくなったと感じることがあります。これは、エンジン回転を高くしてパワーを得ているためです。

補機バッテリーのターミナルを脱着したときは

補機バッテリーの交換などによりターミナルの脱着をおこなうと、ガソリンエンジンが自動停止しなくなることがあります。自動停止しない状態が長時間続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

ハイブリッドシステムの作動状態 HYBRID

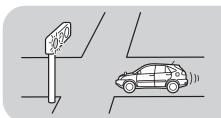
ハリアーハイブリッドシステムが状況によりどのように作動するかを説明します。
実際には、駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、使用状況により、さまざまな制御をおこないます。

電気を意味します。

ガソリンを意味します。

4WD走行を意味します。

回生（充電）を意味します。

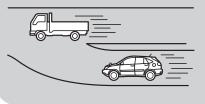
■停車時・発進時

停車中はガソリンエンジンを停止します。発進時は、前後のモーターを使って4輪駆動で発進します。

■低速走行時

ガソリンエンジン効率の悪い領域ではガソリンエンジンを停止し、フロントモーターおよびリヤモーターで走行します。

■通常走行時

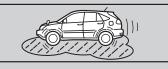
通常走行時は、主にガソリンエンジンを使って走行します。必要に応じて、フロントモーターが発電機として働き、駆動用電池に充電します。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
お車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

■全開加速時

全開加速時には、ガソリンエンジンにフロントモーターの駆動力を加えて走行します。また、必要に応じてリヤモーターの駆動力も使います。

■減速時・制動時

車輪が前後のモーターを発電機として動かし、駆動用電池に充電します。
（回生ブレーキ）

■4WD走行時

発進時やすべりやすい路面の走行時は、4輪駆動で走行します。
必要に応じて、電力の過不足を駆動用電池で調整します。

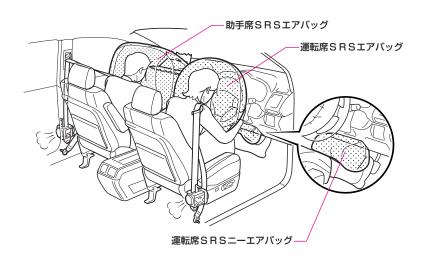
ＳＲＳ※エアバッグ

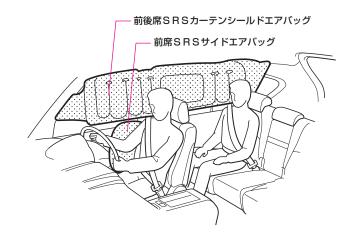
ＳＲＳエアバッグとは

ＳＲＳエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、ＳＲＳエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。
また、正しく取り扱えば効果のあるＳＲＳエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険を与えるおそれがあります。

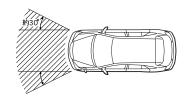
運転席・助手席ＳＲＳエアバッグ＆運転席ＳＲＳニーエアバッグ

運転席ＳＲＳエアバッグ・助手席ＳＲＳエアバッグは、運転者または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を分散、緩和させる働きをするものです。
運転席ＳＲＳニーエアバッグは、運転者の挙動の適正化により、乗員の衝撃緩和を補助するものです。

※ Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。

前席ＳＲＳサイドエアバッグ＆前後席ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ ★

ＳＲＳサイドエアバッグは、フロントシートの乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両客室部に側方から受けたときに衝撃を受けた側のＳＲＳサイドエアバックがふくらみ、シートベルトが体を拘束する動きと併せてフロントシート乗員の胸などの上体に作用する衝撃力を分散、緩和させる働きをするものです。
ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは、フロントシートおよびリヤシート左右席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を、車両客室部に側面方向から受けたときは、衝撃を受けた側のＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて、おもにフロントシートおよびリヤシート左右席の乗員の頭部に作用する衝撃力を分散、緩和させる働きをするものです。
ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

ＳＲＳエアバッグ作動の仕組み

運転席・助手席ＳＲＳエアバッグ＆運転席ＳＲＳニーエアバッグの作動

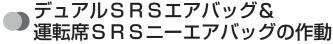
車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃は車両前方・車両中央床部に取り付けられたセンサーで感知し、ＳＲＳエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

車両前方にグリルガードなどを装着すると、センサーが正常に衝撃を感知できなくなり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

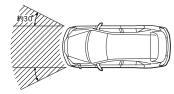
前席ＳＲＳサイドエアバッグ＆前後席ＳＲＳカーテンシールドエアバッグの作動 ★

車両側面方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃はセンターピラー・リヤクォーターピラー下部に取り付けられたセンサーで感知し、ＳＲＳエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、ＳＲＳエアバッグが作動します。

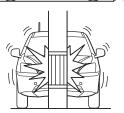
★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

ＳＲＳエアバッグが作動するとき

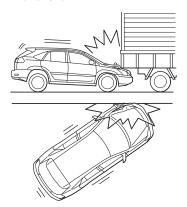
デュアルＳＲＳエアバッグ＆運転席ＳＲＳニーエアバッグの作動

シートベルトを正しく着用している乗員が、重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

■作動する場合

車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

■作動しにくい場合

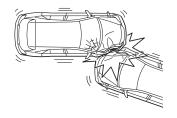
次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25km/h以下の場合

- 衝突時に変形、移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合

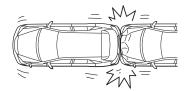
次のような場合にも衝突による衝撃がゆるめられるため、作動しない場合があります。

●トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突した場合

●斜め前方から衝撃を受けた場合

衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃がゆるめられるため、作動する車速は高くなります。

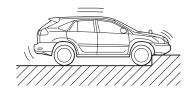
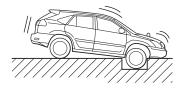
●例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。

●衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

■本来の効果を発揮しない場合

次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けた場合

●車両が横転・転覆した場合

■車両下部に衝撃を受けた場合

次のような車両下部に強い衝撃を受けた場合には、作動する場合があります。

●縁石などにぶつかった場合

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合

警告 **ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。**

●**ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトにかわるものではありません。**

乗車するときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にＳＲＳエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.214をお読みください。
- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中を付けた正しい姿勢でシートに座ってください。ＳＲＳエアバッグに近付きすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

＜運転者の方は＞

運転操作ができる範囲でできるだけハンドルに近付きすぎないようにして座ってください。

＜助手席乗員の方は＞

助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。

シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。

シートの調整、正しい運転姿勢についてはP.193をお読みください。

- ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔にあたったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

●お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。リヤシートがお子さまにとって最も安全な乗車位置といわれています。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。

警告 **ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。**

- 助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取り付けないでください。
  助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。なお、やむを得ず前向きで助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、シートの前後調整位置を一番うしろにして取り付けてください。

- お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

●車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをしないでください。

- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理をおこなうと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなります。

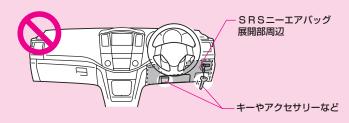
警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。

- インストルメントパネル上部に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。

- キーに重いもの・とがったもの・硬いものやキーなどを付けないでください。ＳＲＳニーエアバッグの展開に支障をきたしたりふくらんだとき飛ばされて危険です。
- インストルメントパネル下部のＳＲＳニーエアバッグ展開部周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。ＳＲＳニーエアバッグがふくらんだとき飛ばされて危険です。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
お車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- 無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

●ステアリングパッド、インストルメントパネル上部（助手席）および下部（運転席）などＳＲＳエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意　ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

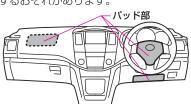
●ＳＲＳエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、ＳＲＳエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。

●ＳＲＳエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある人は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出れない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、ＳＲＳエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。

●衝突したときなどに、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドゥガラスが破損することがあります。

●一度作動したＳＲＳエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でＳＲＳエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではＳＲＳエアバッグは作動しません。

●車やＳＲＳエアバッグを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。ＳＲＳエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグ作動時は、駆動用電池などの高電圧を遮断し、ハイブリッドシステムを停止します。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることはできません。

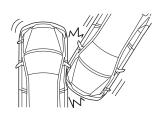
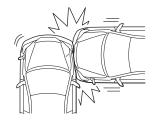
前席ＳＲＳサイドエアバッグ＆前後席ＳＲＳカーテンシールドエアバッグの作動 ★

シートベルトを正しく着用している乗員が重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれのない衝撃では作動しにくくなっています。

■作動する場合

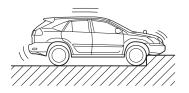
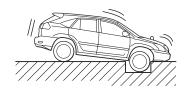
車両側面方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

■作動しにくい場合

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

●斜め側面から衝撃を受けた場合

●客室部以外の側面に衝撃を受けた場合

■本来の効果を発揮しない場合

次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

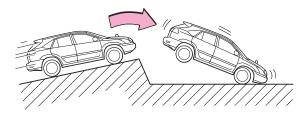
●車両が横転・転覆した場合

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

■車両下部に衝撃を受けた場合

次のような車両下部に強い衝撃を受けた場合には、作動する場合があります。

●縁石などにぶつかった場合

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合

警告 ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトにかわるものではありません。
乗車するときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができできないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にＳＲＳエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.214をお読みください。
- ドアにもたれかかったり、フロント・リヤピラーやルーフサイド部に近付かないようにしてください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。

●車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取り付け・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。
- フロント・リヤピラー、ルーフサイド部の取りはずし・取り付けなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理をおこなうと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなります。

●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。
- フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部をおおうと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。

- フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取り付けないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- フロントウインドゥガラス、ドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー・ハンズフリーマイクなどを取り付けないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに、飛ばされて危険です。

- 無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントピラー、ルーフサイド部、フロントシート側面などＳＲＳエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

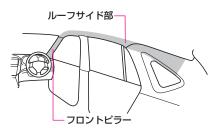
注意 ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

●ＳＲＳエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、ＳＲＳエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。

●ＳＲＳエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある人は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出れない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、ＳＲＳエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。

●一度作動したＳＲＳエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でＳＲＳエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではＳＲＳエアバッグは作動しません。

●車やＳＲＳエアバッグを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。ＳＲＳエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグが収納されているフロントピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグ作動時は、駆動用電池などの高電圧を遮断し、ハイブリッドシステムを停止します。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることはできません。

シートベルト関係

シートベルトの働き

プリテンショナー＆フォースリミッター付シートベルト

フロントシートベルト

●プリテンショナー機構は、前席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
●フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

プリテンショナー機構

【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

フォースリミッター機構

【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

ＥＬＲ機構付シートベルト

シートベルトは体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ体を固定します。

テンションリデューサー(ベルト圧迫感減少装置)機構付シートベルトの働き

フロントシートベルト

シートベルト着用時にベルトによる肩への圧迫感を減少させます。

⚠警告　プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

●プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用する。(P.214参照)
- シートを正しい運転姿勢の取れる位置に調整する。(P.193参照)

●プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし・分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店でおこなってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリテンショナー付シートベルトが作動するとSRSエアバッグ/プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

⚠注意　車やプリテンショナー付きシートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。

●車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

知識

プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱いときには、作動しない場合があります。

●コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき

なお､次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けたとき

●車両が横転、転覆したとき

作動後について

プリテンショナー付きシートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

ディスチャージヘッドランプ

ディスチャージヘッドランプとは

ディスチャージヘッドランプは、バルブ管内のガスと金属ヨウ化物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Ｖの高電圧が発生し、感電するおそれがあり危険です。

知 識

オートレベリング（上下照射方向自動調整）システム

●加減速時や荷物の積み下ろし時などの車両姿勢の変化に対応して、ヘッドランプの光軸を自動的に調整する装置です。
●ハイブリッドシステムを始動したとき、ヘッドランプの光軸が動き、“ウィーン”と音がすることがありますが、これはシステムの正常な作動をチェックしているときの現象で異常ではありません。

ディスチャージヘッドランプのシステム異常時について

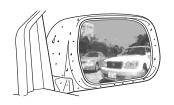
●システムの異常により電圧がディスチャージヘッドランプの作動電圧範囲からはずれた場合は、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
●点灯中に作動電圧範囲からはずれた場合は消灯し、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
●点灯操作をするときに作動電圧範囲からはずれている場合は、ライトスイッチを操作しても点灯しません。

レインクリアリングミラー

レインクリアリングミラーとは

ドアミラーの鏡面には親水膜のコーティングがしてあり、雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくします。

レインクリアリングミラー

普通のドアミラー

＊イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。

●ミラーヒーター装着車は、ミラーヒーターを作動させると、水膜が晴れ、よりクリアな視界が得られます。ミラーヒーターの操作については、P.242をお読みください。
●通常の手入れは水洗いをするだけで十分です。
●霧雨や小雨などの少量の水滴に対しては親水効果が低下します。
●次の場合、一時的に親水効果が失われますが、徐々に回復します。
- ミラーの汚れを拭き取ったとき
- ミラーが曇ったとき
- 自動洗車機でワックス洗車をしたとき
- 長期間、地下駐車場など日のあたらない場所に駐車していたとき

●回復時間は、汚れの量や種類にもよりますが、晴天時に太陽光を1・2日間当てると回復します。親水効果を早く回復させたいときは、鏡面を中性洗剤（シリコーン、コンパウンドを含まないもの）で洗浄したあと、多量の水で洗い流してください。（カーシャンプーやガラスクリーナーの中には、シリコーン・コンパウンドが入っているものもありますので、成分表をよくお読みください。）

注意

親水効果を持続させるため、またドアミラーの傷付きを防止するため、次の注意事項を必ず守ってください。

●撥水剤（シリコーン入りのスプレー・溶剤など）・油膜取り剤（コンパウンド入りのスプレー・溶剤など）は使用しないでください。また、ドアガラスやボディに撥水剤・油膜取り剤・ワックスを使用するときは、ドアミラーの鏡面をタオルなどでおおい、ドアミラーに付着しないようにしてください。万一付着したときは、カーシャンプーやガラスクリーナーなどで洗浄したあと、多量の水で洗い流してください。（カーシャンプーやガラスクリーナーの中には、シリコーン・コンパウンドが入っているものもありますので、成分表をよくお読みください。）

●親水膜の効果を持続させるため、ドアミラーが凍結したときはプラスチックの板などで削り落とさずに、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。

●ドアミラーの汚れを拭き取るときは、きれいなタオルで拭き取ってください。

撥水機能付ガラス

撥水機能付ガラスとは

フロントドアガラスには、撥水膜のコーティングがしてあり、フロントドアガラスについた雨水などをはじき、雨天時の視界を良くします。また、ドアミラーも見やすくなり、後方視界も良くなります。

＊イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。

⚠注意 **水滴をはじく持続期間には限りがあります。長持ちさせるために次の注意事項を必ず守ってください。**

●フロントドアガラスが汚れているときは、なるべく早めにやわらかい湿った布などで清掃してください。
●ガラスの泥などの汚れがひどいときは、汚れを取り除いてから、フロントドアガラスの開閉をおこなってください。
●撥水機能付ガラスを清掃するときは、コンパウンド（みがき粉）の入ったガラスクリーナーやワックスは使用しないでください。また、ガラスクリーナー使用時に白曇りする場合は、湿った布で拭き取ってください。
●自動洗車機を使用するときは、フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落としてから洗車してください。
●金属製のもので霜取りなどをしないでください。
●撥水機能付ガラスは消耗品です。水滴のはじきが悪くなったときは、補修することができます。また、コーティングを除去することもできます。詳しくは、トヨタ販売店におたずねください。

盗難防止システム

エンジンイモビライザーシステム

車両の盗難防止のために、電子キーに信号発信機を内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外では“パワー”スイッチの切り替え、ハイブリッドシステムの始動をできないようにしたシステムです。
●電子キーに登録された信号は車ごとに異なります。
●車両から離れる場合は、車内に電子キーを残さないでください。

■スマートエントリー&スタートシステムを使用しているとき
●“パワー”スイッチをＯＦＦにするとシステムが作動し、セキュリティ表示灯（Ｐ.271参照）が点滅します。
●登録された電子キーを携帯し、“パワー”スイッチを押すとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

■スマートエントリー&スタートシステムを使用していないとき
●電子キーをキースロットから抜くとシステムが作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。
●登録された電子キーをキースロットに差し込むとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

注意　盗難防止システムの故障を防ぐために次のことをお守りください。

●電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障を防ぐために次のことをお守りください。
- 電子キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- ダッシュボードの上など高温になる場所に置かないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
- 電子キーを超音波洗浄機などでは洗浄しないでください。

●エンジンイモビライザーシステムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

知識

メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

盗難防止システムの電子キーについて

電子キーは、同じ車両で最大5個まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

オートアラーム（盗難警報システム）

車両が通常の方法（スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスドアロック機能）以外で解錠されたときなどに、以下の方法で約30秒間、周囲に異常を知らせます。

●ホーンが鳴る

●非常点滅灯が点滅する。

また、警報中にいずれかのドアが解錠された場合、強制的に施錠をおこない車内への侵入を防ぎます。

オートアラームのセットの仕方は、P.190の**「オートアラーム（盗難警報システム）の使い方」**をご覧ください。

オートアラームシステムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

知 識

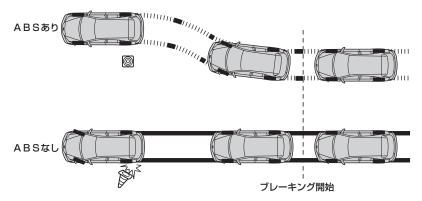
メンテナンスについて

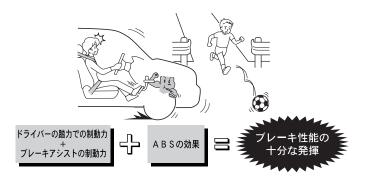
オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

ＡＢＳ※＆ブレーキアシスト

ＡＢＳ＆ブレーキアシストとは

ＡＢＳの働き

ＡＢＳは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことにより、スリップを抑制します。

ブレーキアシストの働き

ブレーキアシストは、
●緊急制動時の運転に不慣れな運転者が緊急制動するとき
●緊急制動時にパニック状態に陥ったとき
●運転者のブレーキ踏み込み速度が通常時よりも速く、車両が緊急制動時と判断したとき
などのブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ドライバーのペダル踏力を増加させ、制動力を確保する装置です。

※Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＡＢＳ、ブレーキアシストについて

ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界がありますので、過信することなく安全運転を心がけましょう。
また、ＡＢＳやブレーキアシストは、車輪に取り付けられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.70の**「タイヤについての注意」**をよくお読みください。

ＡＢＳやブレーキアシストが作動しているとき

■運転について

●急ブレーキ時は、ＡＢＳやブレーキアシストが効果を発揮するように、ブレーキペダルをできるだけ速く、強く踏み続けることが必要です。
●急ブレーキ時にポンピングブレーキ※をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。

思いきり踏む。

踏み続ける。

ゆるめたり、ポンピングはしない。

■作動について

ＡＢＳが作動すると、スリップ表示灯（Ｐ.270参照）が点滅することで、作動中であることを示します。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
●ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、ＡＢＳが作動することがあります。

ＥＢＤ[※1]の働き

ＡＢＳの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、4輪の制動力配分を適切におこない、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして、走行安定性を確保します。

警告　ＡＢＳ＆ブレーキアシストを過信しないでください。

●ＡＢＳ＆ブレーキアシストを過信しないでください。
ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ＡＢＳ＆ブレーキアシストを過信せず速度をおさえ、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
- ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象[※2]が起こった場合は、効果を発揮できません。

※2 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ＡＢＳの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
- 砂利道、新雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。
車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

知 識

作動条件について

●ＡＢＳ＆ブレーキアシストは、車速が約10km/hをこえると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動を止めます。
●雨の日に、マンホールのフタ・橋の継ぎ目・工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ＡＢＳが作動しやすくなります。

※1 Electronic Brake force Distributionの略で「電子制動力配分制御」の意味。

ＶＳＣ※

ＶＳＣとは

ＶＳＣは、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキやハイブリッドシステムの出力を制御して、車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.70の**「タイヤについての注意」**をよくお読みください。

ＶＳＣを過信しないでください。ＶＳＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（Ｐ.270参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知 識

作動条件について

●ＶＳＣは車速が約15km/hをこえると作動できるようになります。
●次のような場合には、ＶＳＣは作動しません。
- ＶＳＣ警告表示（Ｐ.296参照）がでているとき
- ＡＢＳ＆ブレーキアシスト警告灯（Ｐ.274参照）が点灯しているとき

※ＶＳＣは、Vehicle Stability Control（ビークル・スタビリティ・コントロール）の略。

ＴＲＣ※

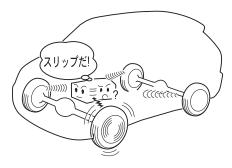
ＴＲＣとは　HYBRID

ＴＲＣの働き

すべりやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生ずる駆動輪のホイールスピンをおさえ、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

●車輪がスリップしはじめると車輪速センサーからの情報でコンピューターがスリップを感知し､ハイブリッドシステムの出力を一瞬下げるようにし､また、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力をおさえ、スリップを防止します。

- ＴＲＣが作動すると、スリップ表示灯（Ｐ.270）が点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

ＴＲＣの仕組み

タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、いずれかの信号のみ他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力をおさえようとブレーキをかけたり、エンジンとモーターの出力を一時的におさえたりして、スリップを抑制させます。

※ ＴＲＣは、Traction Control（トラクション・コントロール）の略。

ＴＲＣとタイヤの関係について

ＴＲＣは、車輪についているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4輪の中で1輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方がかわり、コンピューターがスリップと判断したりします。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.70の**「タイヤについての注意」**をよくお読みください。

ＴＲＣを過信しないでください。ＴＲＣが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、スリップ表示灯（Ｐ.270）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

作動条件について

ハイブリッドシステムを始動すると、ＴＲＣが作動可能状態になります。

ＶＤＩＭ※

ＶＤＩＭとは

ＶＤＩＭは、ＡＢＳ・ブレーキアシスト・ＴＲＣ・ＴＨＳⅡ・ＶＳＣまたは電動パワーステアリングなどと協調制御し、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキ・エンジンの出力・ハンドル操作のアシスト量を制御して、車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

●タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、Ｐ.70の**「タイヤについての注意」**をよくお読みください。

ＶＤＩＭを過信しないでください。ＶＤＩＭが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、ＶＳＣ作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（Ｐ.270）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

※ ＶＤＩＭは、Vehicle Dynamics Integrated Management（ビークル・ダイナミクス・インテグレーテッド・マネージメント）の略。

電子制御ブレーキシステム（ＥＣＢ※）

電子制御ブレーキシステムとは HYBRID

ブレーキペダル操作から得た入力信号をもとに電気的に制動力を決定する電子制御式の4輪独立油圧ブレーキシステムです。
このシステムでは、油圧ブレーキとモーターによる回生ブレーキの2つの制動力を最適配分します。また、ＶＤＩＭシステムなどから得た入力信号をもとに、4輪を独立してブレーキ油圧の制御をします。

●4輪独立油圧ブレーキは、常に蓄圧状態を監視しているため、ブレーキペダル操作以外やハイブリッドシステム停止時でもポンプ作動することがあります。

走行中、ブレーキ警告灯が点灯し警告ブザーがなったときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。詳しくはＰ.279を参照してください。

知識

作動音について

●“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、システムチェックのためにモーター音が聞こえることがあります。
●“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、システムチェックのために作動音が聞こえることがあります。
●“パワー”スイッチがＯＦＦのとき、または、キーを抜いた後、しばらくしてモーター音が聞こえることがあります。これはブレーキシステムの作動音で異常ではありません。
●ハイブリッドシステムを始動したときや、くり返しブレーキペダルを踏んだとき、エンジンルームからモーター音がすることがありますが、これはブレーキシステムの作動音で異常ではありません。
●最適なブレーキ制御をおこなうため、モーター音が聞こえることがありますが、これはブレーキシステムの作動音で異常ではありません。
●“パワー”スイッチがＯＦＦの状態でブレーキペダルを踏むと、ペダルストロークが短い場合があります。

※ＥＣＢは、Electronically Controlled Brake System（エレクトロニカリー・コントロールド・ブレーキ・システム）の略。

電気式4WDシステム（E－Ｆｏｕｒ）

電気式4WDシステム（E－Ｆｏｕｒ）とは HYBRID

電気式4WDシステムの働き

電気式4WDシステム（E－Ｆｏｕｒ）は、前輪をハイブリッドシステムで駆動し、後輪をモーターで駆動する4WDシステムです。
前輪駆動状態から4輪駆動状態に可変させることで、高い燃費性能と日常生活の様々な条件での安定した発進・加速性能を両立させています。
●電気式4WDシステム（E－Ｆｏｕｒ）の取り扱い上の注意がＰ.63の**「4WD車についての注意」**およびＰ.84の**「ハイブリッドシステムについて」**に記載されていますので、よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転を心がけるようにしましょう。

走行について

ガソリンエンジンで通常走行しているときで、4輪駆動状態が必要なとき以外は、前輪駆動状態にすることにより、燃費重視で走行します。
コーナリング時や雪道走行時、登坂時、発進時などでは、前輪駆動状態から発進・加速性能重視の4輪駆動状態に可変させます。
●必要に応じて後輪への適切な駆動力配分をおこなうことにより、次のような効果を発揮します。
- コーナリング時の走行安定性、操縦性に優れています。
- 雪や雨などですべりやすい路面や急坂、悪路での発進・走行安定性、操縦性に優れています。

タイヤについて

電気式4WDシステムは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.70の**「タイヤについての注意」**をよくお読みください。

警告　宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

●脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
- 4輪の空気圧の差が著しいとき
- 空気圧が指定値からはずれているとき

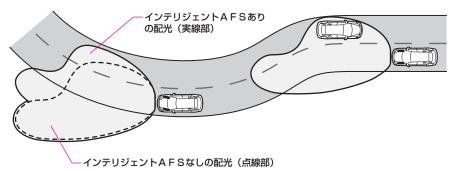
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤローテーションをおこなってください。（P.478参照）

●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.513参照）

インテリジェントＡＦＳ※

インテリジェントＡＦＳとは

インテリジェントＡＦＳ装着車

インテリジェントＡＦＳ（アダプティブ　フロントライティング　システム）は、さまざまな走行状態に応じて、最適な配光を確保する装置です。
ヘッドランプ（下向き）点灯時、車速およびハンドルの操作量に応じてランプを旋回方向に動かして交差点やカーブでの視認性の確保に貢献します。

＊イラストはイメージで表したもので、実際のものとは異なります。

雪壁などのある道ではインテリジェントＡＦＳを使用しないでください。雪の斜面などにヘッドランプが反射して運転のさまたげになり、思わぬ事故につながる可能性があります。

※Adaptive Front-lighting System の略。

作動条件について

●車速が30km/h以上で作動開始となり、車速が5km/h以下になると作動は停止します
●左旋回時は、最大5°まで照射軸が左へ移動します。（左側ヘッドランプのみ）
●右旋回時は、最大15°まで照射軸が右へ移動します。（右側ヘッドランプのみ）
●ＡＦＳ　ＯＦＦ表示灯が点滅（Ｐ.271参照）しているとき、インテリジェントＡＦＳは作動しません。

作動チェックについて

“パワー”スイッチがＯＮモードまたは READY （走行可能表示灯）が点灯すると、ヘッドランプ（下向き）が動きます。これはシステムの作動をチェックしているので異常ではありません。

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチについて

ＡＦＳ　ＯＦＦスイッチで作動を禁止することもできます。（Ｐ.321参照）

6 お車との上手な付き合い方

雨の日の運転について

雨の日の運転

すべりやすい路面は慎重に走行してください。

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
●雨の日はハイドロプレーニング現象※でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。
※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

警告 **すべりやすい路面では、慎重に運転してください。**

●すべりやすい路面での急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンブレーキなどによる急激な駆動力の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冠水した道路は走行しないでください。

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷を与えるおそれがあるので走行しないでください。

冠水した道路を走行するとエンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのガソリンエンジン破損など重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
●ブレーキの効き具合
●ガソリンエンジン、トランスミッション、デフなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です。）
●各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備、点検

エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。（P.512の**「指定エンジンオイル」**参照）

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	−12℃
寒冷地	50%	−35℃

注意　アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

●タイヤを取りかえるときは、必ずP.70の**「タイヤについての注意」**をお読みください。
●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外の冬用タイヤやタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

寒冷地用ワイパーブレードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。
トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
●高速走行時は通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
●寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時季は、通常のワイパーブレードを使用してください。

屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

ガラスに付いた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使用すると、ガラスを傷付けずに落とすことができます。

⚠注意	フロントウインドゥガラスに付いた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントウインドゥガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ランプ類に付いた雪や霜は

ランプ類に付いた雪や霜を落としてから走行してください。
夜間の走行時などに視界のさまたげとなったり、後続車などへの合図がわかりにくくなるおそれがあります。また、走行中にも安全な場所に停車したうえでときどき点検してください。

足まわりなどに付いた氷塊は

車体などに傷を付けないように取り除いてください。

外気取り入れ口に積もった雪は

フロントウインドゥガラス前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。
雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。
スイッチを押し続けたりすると、装置を傷めたり、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

ドアが凍結したときは

お湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。
無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

靴に付いた雪をよく落とす

ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

すべりやすい路面では“急”の付く操作はしない

急発進、急ハンドル、急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。
橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。

急激なエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フェンダー裏側に付いた氷は

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置に付いた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。
ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。タイヤを取りかえるときは、必ずP.70の**「タイヤについての注意」**をお読みください。

警告

冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

- 指定サイズのタイヤを使用してください。
- 指定空気圧に調整してください。
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
お車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

タイヤチェーン

●タイヤチェーンは前2輪に取り付けてください。
●タイヤチェーンの取り扱い方法は、タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書にしたがってください。
●タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤチェーンを取り付ける前に

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりかけます。以下の手順により準備作業をおこないます。

〈手順〉

1 ハイブリッドシステムを停止します。

シフトレバーをⓅにし、ハイブリッドシステムを停止します。

2 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3 工具を用意します。

ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを用意します。（P.520の**「ジャッキ、工具、スペアタイヤの格納場所」**参照）

4 タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取り付ける場合には、輪止めが必要です。
●輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。
●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は約30km/hまたはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため、必ず慎重に走行してください。

●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。

また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

注意

タイヤチェーンを取り付けるときは、ホイールやセンターオーナメントに傷を付けないよう注意してください。

●アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

●トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

駐車するときは HYBRID

READY（走行可能表示灯）が点灯した状態のままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、READY（走行可能表示灯）が点灯した状態のままにしないでください。

警告

READY（走行可能表示灯）が点灯した状態のままで車のまわりに雪が積もると、ガソリンエンジンが始動したときに排気ガスが車内に侵入して、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは

パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをⓅにし、輪止めをします。

■やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをⓅにしてください。

●輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ワイパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍り付いたりします。ワイパーアームは立てて駐車してください。

●ワイパーアームを立てるときは、運転席側を先に立てたあとに助手席側を立ててください。助手席側を先に立てると運転席側を立てるときにワイパーアームが干渉します。

環境にやさしい運転

環境にやさしく経済的な運転をするために HYBRID

■環境に配慮し、長時間停車するときは、アイドリングしないようにハイブリッドシステムを停止してください。（ハイブリッドシステムの停止についてはP.146をお読みください。）

●ハイブリッドシステムを停止しないと、駆動用電池の充電状態やガソリンエンジン冷却水温などの状態により、自動的にガソリンエンジンが始動し、アイドリングすることがあります。

■スムーズな加減速で走行してください。

●通常の車と同様に無駄な加減速をおこなわないことで、より効率の良い走行が可能です。

●急な加減速をひかえることにより、駆動用電池の残量を確保することができ、常にガソリンエンジンの動力と駆動用電池からの電気を利用して走行することが可能です。

知識

ハイブリッド車特有のテクニック

●加速後にいったんアクセルをもどし、その後じわっと踏み込んでください。こうすると、ガソリンエンジンを使わずに、モーターでの走行が多くなります。

●減速時は、早めに緩やかなブレーキ操作をおこなってください。減速時に発生するエネルギーを、より多く回収できます。

●渋滞での発進は、ブレーキを緩めるだけでアクセルペダルをあまり踏まないでください。

車両情報の表示

車両情報（燃費、エネルギーモニターなど）をマルチインフォメーションディスプレイに表示させせることができます。燃費の良い走行をするための参考にしてください。また、駆動用電池の残量も確認できます。

環境保護のために

使用済み部品、廃オイル類は適正な処理をする

●補機バッテリーは、鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務付けられています。
補機バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。

●タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●エンジンオイルは、放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●不凍液は､冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。川などに流すと、水質汚濁の原因となりますので、不凍液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。

●エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスＣＦＣ12）は、大気に放出されると、オゾン層の破壊を進めます。
トヨタでは、オゾン層を破壊しない代替フロンガス（ＨＦＣ134a）に全車切り替えを完了しています（93年完了）。
それでも、代替フロンガス（ＨＦＣ134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検を併せておこない、もれ箇所を修理したうえで、ガス充填をしてください。

7 メンテナンス

お車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

洗車、ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

月に1度はワックスがけをおこなってください

月に1度または水のはじきが悪くなったらおこなってください。

保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

注意　**塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。**

- 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
  - 海岸地帯を走行したあと
  - 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死骸などが付着したとき
  - ばい煙、油煙，粉じん、鉄粉、科学物資などの降下が多い場所を走行したあと
  - ほこり、泥などで激しくよごれたとき
  - 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

外装の手入れ

洗車するときは

十分水をかけながら汚れを洗い落とし、洗い落としたあとは、水を拭き取ります。

●車体、足まわり、下まわりと、上から下の順におこないます。
●車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
●汚れのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
●はん点が残らないように、水を拭き取ります。

自動洗車機を使用するときは

●ドアミラーを格納し、アンテナは取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
●ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
●洗車機によっては、リヤスポイラーがひっかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損するおそれがあります。
●雨滴感知式ワイパー装着車は、ワイパーレバーを停止（ＯＦＦ）の位置にしてください。（P.306参照）

高圧洗車機を使用するときは

●ノズルの先端をドアガラスなどに近付けすぎないでください。水圧が高いため、近付けすぎると室内に水が入るおそれがあります。
●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリース流出により、性能が劣化するおそれがあります。

アルミホイールの手入れ

●中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を痛めますので使用しないでください。
●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
●洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。
●光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

ワックスがけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）におこないます。

撥水機能付ガラス・レインクリアリングミラーについて

手入れについてはP.441の**「撥水機能付ガラス」**、P.439の**「レインクリアリングミラー」**の注意事項を必ず守ってください。

警告 **エンジンルーム内に水をかけないでください。**

●エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。ハイブリッドシステムの始動不良や電気部品がショートして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
●寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。
●洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意 **洗車をするときは、けがをしないように注意してください。**

●下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。
●洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷が付きます。
●ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどで擦ったりしないでください。破損したり、劣化を早めることがあります。

内装の手入れ

室内の清掃

カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。

警告　車内に水をかけないでください。

●車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。リヤシートの下にある駆動用電池などに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。また、オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●リヤシート下部には、駆動用電池を冷却するための空気の吸入口があります。吸入口の清掃をするときは吸入口をはずさないでください。吸入口の奥には高圧電池があるため、手などをいれると感電などの生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。吸入口をはずす必要があるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
●内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意　クリーナーに含まれる成分に注意してください。

●内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
●芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンやオーディオなど）に直接触れさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては、変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
●リヤウインドゥガラスの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●リヤウインドゥガラスの内側を掃除するときは、熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
●ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
●内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

本革シートの取り扱い・お手入れ方法★

■砂・ほこりなどは、掃除機などで吸い取ってください。

シート表面に付いた砂・ほこりなどは、皮革表面の保護膜を傷付け、早期摩耗の原因となります。砂・ほこりなどは、掃除機などで吸い取ってください。

■サンシェード（日除け）を使用するなどして、皮革を直射日光から守ってください。

皮革を炎天下に長期間さらすと、色あせや硬化の原因となります。長期間炎天下に車を放置するときはボディにおおいをかけたり、サンシェード（日除け）を使用するなどして、皮革を直射日光から守ってください。

■シート表面に付いた汚れは、次の方法で取り除いてください。

1 汚れを軽く拭き取ります。

ウール用の中性または弱アルカリ性の洗剤を約5%の水溶液まで薄め、ガーゼなどのやわらかい布に含ませて、汚れを軽く拭き取ります。

2 洗剤を拭き取ります。

真水をひたした布を固くしぼり、シート表面に残った洗剤を拭き取ります。

3 日陰で乾燥させます。

乾いたやわらかい布でシート表面の水分を拭き取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

シート表面に過剰な水分が残ると、皮革の風合い低下（硬化、収縮）の原因となります。

知 識

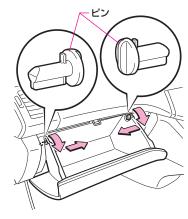
本革シートについて

- 厳選された天然素材を使用しています。外観品質を長く保つために、年に2回程度は定期的にお手入れすることをおすすめします。
- 天然素材のため、シボ（皮革表面肌の凹凸）の不均一や、牛皮革本来の傷がわかる場合があります。

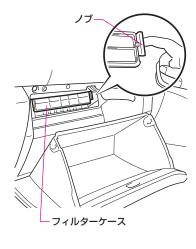
エアコンの手入れ

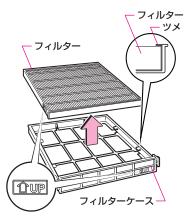
エアコンガス（冷媒）の点検

冷媒が不足していると冷房性能が低下します。
夏になる前に点検、補充をしてください。

エアフィルターの交換

1 “パワー”スイッチをＯＦＦにします。

2 **グローブボックスをはずします。**

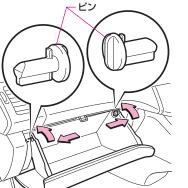
グローブボックスを開いて、左右2ヶ所のピンをまわして引き抜き、グローブボックスを下に下げます。

3 **フィルターケースをはずします。**

フィルターケースの左右にあるノブを手前に引いて、フィルターケースを取りはずします。

4 フィルターを交換します。

取りはずしたフィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターに交換します。

- ●フィルターケースのツメに、フィルターを確実に取り付けます。
- ●フィルターの側面に付いている「⇧ＵＰ」のマークを確認し、矢印が上を向くようにセットしてください。

5 フィルターケースを取り付けます。

フィルターケースの側面に付いている「⇧ＵＰ」のマークを確認し、矢印が上を向くようにセットしてください。

6 グローブボックスを取り付けます。

グローブボックスの左右2か所にピンを取り付けます。

注意 **フィルターの清掃・交換は、“パワー”スイッチをＯＦＦにしてからおこなってください。**

- フィルターの清掃・交換は、“パワー”スイッチをＯＦＦにしてからおこなってください。
- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターの清掃または交換をしてください。
- フィルターの清掃は、必ずエアブローにより表面からおこなってください。水洗いやブラシで擦っての清掃はしないでください。
- フィルターの裏と表を間違えないように、フィルターをフィルターケースに確実に取り付けてください。
- 必ずフィルターを装着した状態でエアコンを使用してください。フィルターを装着せずにエアコンを使用すると故障の原因となることがあります。

知 識

エアフィルターの清掃・交換について

- エアコンにはエアフィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な清掃・交換をおすすめします。
- エアフィルターの交換は工具なしでおこなうことができます。
- エアフィルター清掃・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

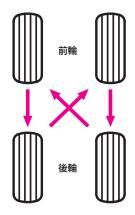
エアフィルター（花粉フィルター）
清掃の目安…15,000km【7,500km】ごと。
交換の目安…30,000km【15,000km】ごと。

【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

タイヤの点検

タイヤローテーション（タイヤ位置交換）

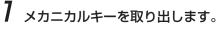
タイヤの摩耗を4輪ともに均等にし、寿命をのばすために、5,000kmごとにタイヤローテーションをおこないます。

●搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換をおこなうときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。

注意 **日常点検として必ずタイヤを点検してください。**

●日常点検として必ずタイヤの点検をおこなってください。
（P.70の**「タイヤについての注意」**参照）

●タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。（P.87の**「その他の注意」**参照）

電子キーの電池交換

1 メカニカルキーを取り出します。

ノブを矢印の方向にスライドさせながら、ロックをはずし取り出します。

2 カバーをはずします。

ノブを矢印の方向にスライドさせながらカバーをはずします。

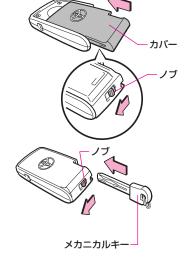
3 電池フタを取りはずします。

ネジ（2本）を取りはずし、電池フタを取りはずします。

4 電池を交換します。

古い電池を取り出し、新しい電池の⊕側を上にして取り付けます。

5 電池フタを取り付けます。

Oリングがあるのを確認してから、電池フタをもとどおりにネジ（2本）でしっかりと取り付けます。

6 **カバーを取り付けます。**

ノブを矢印の方向にスライドさせながら取り付けます。

7 **メカニカルキーを取り付けます。**

ノブを矢印の方向にスライドさせながら取り付けます。

8 **作動確認をします。**

いずれかのスイッチを押したとき、本体のＬＥＤが点灯することを確認します。

電池および取りはずした部品は、とくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

- 電池交換時にはスクリューなどの部品を紛失しないようにご注意ください。
- 電池フタを曲げたりしないように注意してください。
- 電池以外の部品にふれたり、動かしたりしないでください。
- 電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取り付けてください。
- 電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。

知識

電池について

使用電池……リチウム電池ＣＲ2032

電池はトヨタ販売店、時計店、カメラ店などでお求めください。

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。
次の手順でヒューズの点検、交換をおこなってください。
●ヒューズについてはトヨタ販売店にご相談ください。

1 **“パワー”スイッチをＯＦＦにします。**

2 **ヒューズボックスを開けます。**

3 **ヒューズの点検をします。**

故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。
●ヒューズはずし、予備ヒューズは、エンジンルーム内ヒューズボックスBのフタについています。
●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。

4 **ヒューズを交換します。**

ヒューズが切れていたら、ヒューズボックスの表示またはヒューズボックスの開け方の表にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。
●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。
●以下の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 取り替えても再びヒューズが切れるとき。
- 取り替えても電気系統の装置が働かないとき。

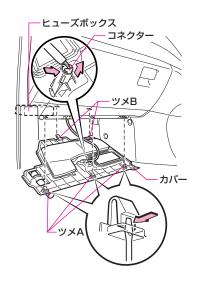
切れた状態

切れていない状態

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

ヒューズボックスの開け方

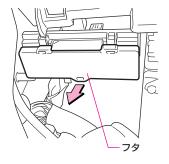
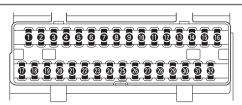
■助手席側足元ヒューズボックス

グローブボックス下のカバーをはずし、ヒューズボックスのフタを取りはずします。

1 マイナスドライバーなどを使用し、ツメA（3ヶ所）をはずします。

2 カバーを手前に引いてツメB（2ヶ所）をはずし、カバーを取りはずします。

●足元ランプ付き車は、足元ランプのコネクターをはずします。

3 ヒューズボックスのフタをはずします。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	RR DOOR RH	20A	運転席側リヤドアECU
②	RR DOOR LH	20A	助手席側リヤドアECU
③	FUEL OPN	7.5A	フューエルリッドオープナー
④	FR FOG	15A	フロントフォグランプ
⑤	OBD	7.5A	ダイアグノーシスコネクター
⑥	FR DEF	25A	フロントデフロスター
⑦	STOP	10A	制動灯
⑧	TI&TE	30A	チルト&テレスコピックステアリング
⑨	MPX−B	7.5A	――――――
⑩	AM1	7.5A	パワー（イグニッション）スイッチ関係
⑪	RR FOG	7.5A	リヤフォグランプ
⑫	AIRSUS	――――	――――――
⑬	DOOR NO.2	25A	電気式ドアロック
⑭	S／ROOF	30A	ムーンルーフ
⑮	TAIL	10A	尾灯、番号灯、車幅灯
⑯	PANEL	7.5A	各スイッチ照明
⑰	ECU−IG NO.1	7.5A	ボディECU、ABS&ブレーキアシスト、スマートエントリー&スタートシステム、電動パワーステアリング
⑱	ECU−IG NO.2	10A	ヘッドランプオートレベリングシステム
⑲	HEATER	7.5A	エアコン
⑳	WASHER	20A	ウォッシャー
㉑	SEAT HTR	――――	――――――
㉒	GAUGE NO.1	7.5A	メーター、後退灯
㉓	FR WIP	30A	フロントワイパー
㉔	RR WIP	15A	リヤワイパー
㉕	INJ	20A	ハイブリッドシステム関係
㉖	IGN	10A	ハイブリッドシステム関係
㉗	GAUGE NO.2	7.5A	メーター
㉘	ECU−ACC	7.5A	ボディECU
㉙	CIG	15A	シガレットライター
㉚	PWR OUTLET NO.1	15A	アクセサリーソケット
㉛	RADIO NO.2	7.5A	オーディオ、エレクトロマルチビジョン
㉜	MIR HTR	10A	ミラーヒーター

■エンジンルーム内ヒューズボックス

エンジンカバーをはずしてから、ヒューズボックスのフタを取りはずします。

1 エンジンカバーAをはずします。

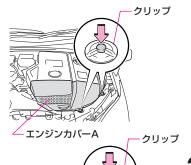
クリップ（2本）の中心部を押してロックをはずし、エンジンカバーAを取りはずします。

●取りはずしたクリップを紛失しないように注意してください。

2 エンジンカバーBをはずします。

クリップ（1本）の中心部を押してロックをはずし、エンジンカバーBを取りはずします。

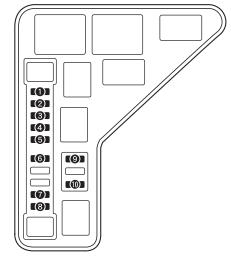
●車両前方のクリップ（2本）は、エンジンカバーを持ち上げると、はずすことができます。

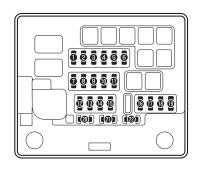
●取りはずしたクリップを紛失しないよう注意してください。

ヒューズボックスB
ヒューズボックスC
ヒューズボックスA

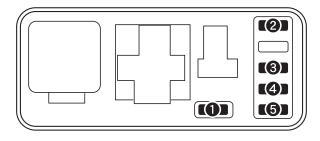
3 ヒューズボックスをはずします。

ヒューズボックスのフタの横にあるツメを押しながら、フタを持ち上げて取りはずします。

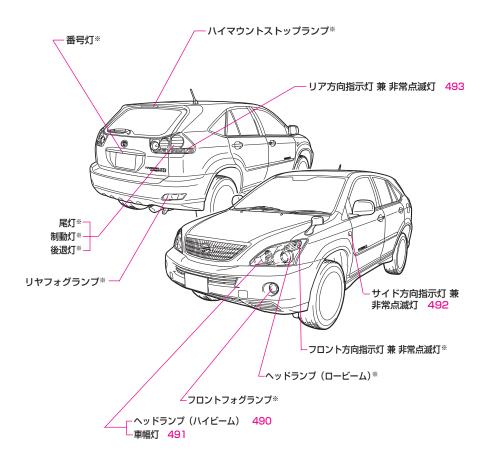
クリップを取り付けるときは、A部を広げながら押してB部に収納し、左図の状態にします。

ヒューズボックスA

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	STR LOCK	25A	ステアリングロックシステム
②	ETCS	10A	電子制御スロットル
③	DC／DC−S	10A	DC／DCコンバーター
④	ABS NO.2	10A	電子制御ブレーキシステム
⑤	ABS NO.1	10A	電子制御ブレーキシステム
⑥	BATT FAN	15A	駆動用電池冷却ファン
⑦	ABS NO.3	15A	電子制御ブレーキシステム
⑧	OIL PUMP	―――	―――
⑨	ST	7.5A	ハイブリッドシステム
⑩	RR HTR	―――	―――

ヒューズボックスB

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	DRL	―――	――――
②	H−LP L LWR	15A	ヘッドランプ（左側ロービーム）
③	H−LP L UPR	15A	ヘッドランプ（左側ハイビーム）
④	H−LP R UPR	15A	ヘッドランプ（右側ハイビーム）
⑤	PWR OUTLET NO.2	20A	アクセサリーコンセント
⑥	TOWING	―――	――――
⑦	HAZ	15A	非常点滅灯
⑧	MPX−B1	7.5A	電動パワーステアリング
⑨	AM2 NO.1	30A	パワー（イグニッション）スイッチ関係
⑩	AM2 NO.2	10A	パワー（イグニッション）スイッチ関係
⑪	HORN	10A	ホーン
⑫	RADIO NO.1	15A	オーディオ、エレクトロマルチビジョン
⑬	ECU−B NO.1	7.5A	ボディECU、エアコン、メーター、パワーバックドア、ムーンルーフ
⑭	DOME	7.5A	室内灯関係
⑮	ECU−B NO.2	7.5A	スマートエントリー＆スタートシステム
⑯	AMP	30A	オーディオ
⑰	DOOR NO.1	25A	ボディECU
⑱	A／F	25A	ハイブリッドシステム関係
⑲	CRT	7.5A	エレクトロマルチビジョン
⑳	H−LP R LWR	15A	ヘッドランプ（右側ロービーム）
㉑	INV W／P	15A	ハイブリッドシステム
㉒	IGCT NO.5	10A	ハイブリッドシステム

ヒューズボックスC

ヒ ュ ー ズ 名 称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	WATER PUMP	10A	エアコン、ウォーターポンプ
②	SEAT−HTR	20A	シートヒーター
③	IGCT NO.4	10A	ハイブリッドシステム関係
④	IGCT NO.3	10A	フューエルポンプ
⑤	IGCT NO.2	10A	ハイブリッドシステム

外装の電球（バルブ）交換

この車の外装には、下図で示した電球（バルブ）があります。
●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。
●※印が記載してある電球の交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

電球の交換をするときは必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害や、やけどにつながるおそれがあります。

●ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Ｖの高電圧が発生し、感電するおそれがあります。（ディスチャージヘッドランプ装着車）

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

注意

電球は十分注意して取り扱ってください。

●ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。

●必ず同じW数の電球を使用してください。

●電球および電球固定具の取り付けは確実におこなってください。取り付けが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。

●電球の交換をするときは、工具や電球、電球固定具、ソケットなどをなくさないように注意して作業してください。

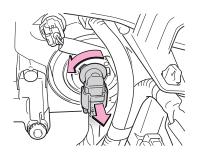
知 識

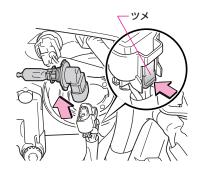
ランプの曇りについて

ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまってときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球の交換について

お客様自身で交換することができますが、部品などの破損がご心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

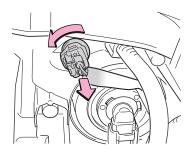
ヘッドランプ（ハイビーム）

■取りはずし方

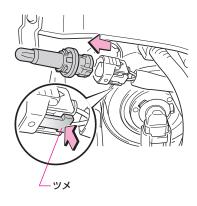
ボンネットを開け、エンジンカバーをはずし（P.484参照）、ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ツメを押して取りはずします。

■取り付け方

取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

- ●電球が確実に固定されていることを確認します。
- ●ライトスイッチを操作して、ヘッドランプ（ハイビーム）が点灯することを確認します。

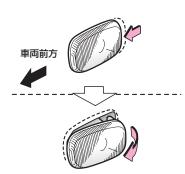
＊図は助手席側で説明しています。

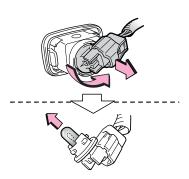
車幅灯

■取りはずし方

ボンネットを開け、エンジンカバーをはずし（P.484参照）、ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、電球を取りはずします。

■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

＊図は助手席側で説明しています。

サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずし方

1 **ランプ本体を取りはずします。**
ランプ本体を車両前方に押して、ランプ後部を手前に引いてはずします。

2 **ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、電球を取りはずします。**

■取り付け方

取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

●電球がソケットに確実に固定されていることを確認します。
●ソケットが確実に固定されていることを確認します。
●非常点滅灯スイッチなどを操作して、方向指示灯が点滅することを確認します。

本体からソケットをはずすと、ソケットが車両内部に落ちやすくなります。落ちないように注意して作業してください。

＊図は助手席側で説明しています。

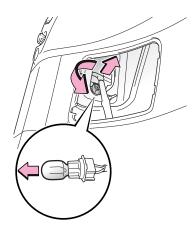
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

リア方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずし方

1 バックドアを開けて、カバーを取りはずします。

カバーの切り欠きにマイナスドライバーなどを差し込んで取りはずします。

●傷付き防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

2 ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、電球を取りはずします。

■取り付け方

取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

＊図は助手席側で説明しています。

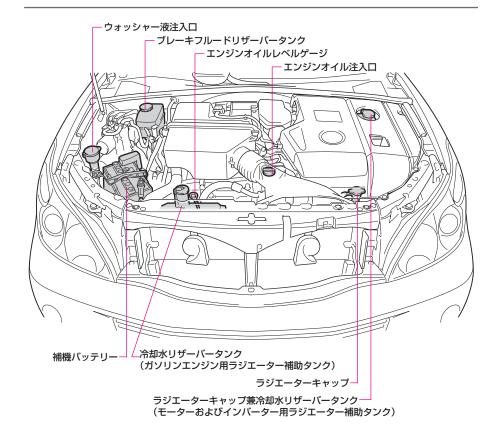
日常点検

日常点検について

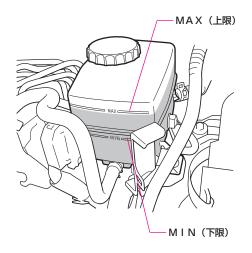
日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。

ここでは、点検内容を簡単に説明します。
点検方法および実施時の注意事項は、「メンテナンスノート」をお読みください。

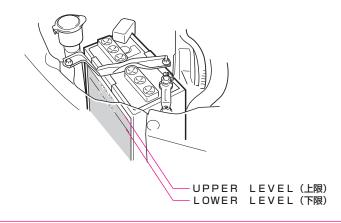
エンジンルームの点検

ウォッシャー液注入口
ブレーキフルードリザーバータンク
エンジンオイルレベルゲージ
エンジンオイル注入口
補機バッテリー
冷却水リザーバータンク
（ガソリンエンジン用ラジエーター補助タンク）
ラジエーターキャップ
ラジエーターキャップ兼冷却水リザーバータンク
（モーターおよびインバーター用ラジエーター補助タンク）

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルームに置き忘れていないことを確認してください。万一、置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

ブレーキの液量

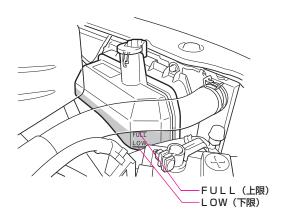
ブレーキフルードの量がリザーバータンクのＭＡＸ（上限）とＭＩＮ（下限）の間にあるかを点検します。

ブレーキフルードが不足していると、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

補機バッテリーの液量

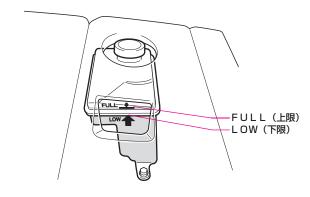
補機バッテリー液面が各液槽とも補機バッテリーのＵＰＰＥＲＬＥＶＥＬ（上限）とＬＯＷＥＲＬＥＶＥＬ（下限）の間にあるかを車両をゆするなどして点検します。

補機バッテリー液が不足すると、補機バッテリーあがりや補機バッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
お車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

冷却水の量（ガソリンエンジン用）

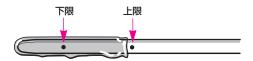
冷却水の量がリザーバータンクのＦＵＬＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあるかを点検します。

冷却水の量が不足しているとラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。
また、水のみで使用していると、寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ずスーパーロングライフクーラント（不凍液）を適切な濃度でご使用ください。

冷却水の量（モーターおよびインバーター用）

冷却水の量がリザーバータンクのＦＵＬＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあるかを点検します。

冷却水の量が不足しているとラジエーターの腐食やハイブリッドシステム破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。
また、水のみで使用していると寒冷時に凍結し、ラジエーターやハイブリッドシステムなどに損傷を与えるため、必ずスーパーロングライフクーラント（不凍液）を適切な濃度でご使用ください。

エンジンオイルの量

エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。

警告

エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

●ハイブリッドシステムを停止してください。
エンジン回転中にファンなどの回転部分にふれたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジンオイルの温度が低いときに、点検・交換してください。

●ガソリンエンジンが止まっていても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

注意

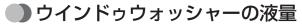
エンジンオイルは、定期的に点検・交換してください。

●定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼き付きなどを起こしてエンジンに損傷を与えるため、定期的に点検・交換をしてください。

- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

●オイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。

●エンジンオイルを点検するときは、オイルがハイブリッドシステムなどに付着しないように布などをあてて点検してください。
万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

ウインドゥウォッシャーの液量

メーター内のドット表示式マルチインフォメーションディスプレイに「ウォッシャー液不足」が表示されたらウォッシャー液を補給してください。（P.297参照）

■ウォッシャー液を補給するには

1 キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2 ウォッシャー液を補給します。

補給が終わったら、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。

●ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみになるおそれがあります。

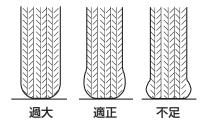
知 識

リヤワイパー用ウォッシャータンクについて

リヤワイパー用ウォッシャータンクはフロントワイパー用と兼用です。

タイヤの点検については、P.70の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤの空気圧

タイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）を見て、空気圧が適正であるかを点検します。点検はタイヤが冷えている（走行前）状態でおこなってください。

●月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
●空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※ 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

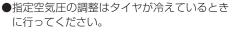
知識

指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表またはメンテナンスデータ（P.513参照）でご確認ください。

●スペアタイヤも点検してください。

●指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくと、タイヤを目視点検するときに参考になります。

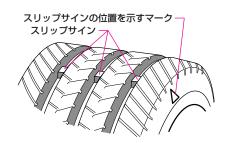
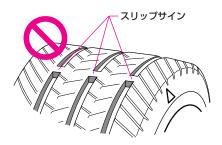
●指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に著しい傷や亀裂がないかを点検します。
また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。

警告　タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常摩耗

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※1

〈例：スリップサインが出ている状態〉※1

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現われていないかを点検します。
また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

※1 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

警告

摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※2により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※2 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

灯火装置、方向指示器の汚れ、損傷

各ランプのレンズに、汚れや破損、ヒビ割れなどがないかを点検します。

知 識

ランプの曇りについて

ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

運転席に座っての点検 HYBRID

パーキングブレーキの踏みしろ

パーキングブレーキペダルを止まるまでゆっくりと踏み、カチカチ音が基準値の範囲で止まるかを点検します。（P.508参照）

エンジンのかかり具合

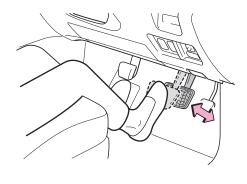
エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合いは良いかを点検します。
また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

知識

ハイブリッド車について

ハイブリッド車は車両の状態により、停車中にガソリンエンジンが停止する場合があります。

ブレーキペダルの踏みしろ

ハイブリッドシステムを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。

ウインドゥウォッシャーの噴射状態

ハイブリッドシステムを始動し、ウインドゥウォッシャーを作動させ、噴射の向きおよび高さがワイパーの作動範囲のほぼ中央にあたるかを点検します。

ワイパーの払拭状態

ハイブリッドシステムを始動し、ウインドゥウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。

灯火装置、方向指示器の作用

ハイブリッドシステムを始動し、各灯火装置、方向指示器を作動させ、ランプが点灯または点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検 HYBRID

ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがないかを点検します。
また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

ハイブリッド車について

ハイブリッド車は車両の状態により、停車中にガソリンエンジンが停止する場合があります。

前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ

メンテナンスデータ HYBRID

基準値

項　　目		メンテナンスデータ
ブレーキペダル	遊び［mm］ （負圧なしの状態）	1 ～ 2
	踏み込んだときの床板とのすき間［mm］〔踏力490N ｛50kgf｝〕 （READY〔走行可能表示灯〕が点灯した状態）	100以上
パーキングブレーキ	踏みしろ［ノッチ※］ 〔操作力300N ｛30kgf｝〕	5 ～ 7

※ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

バルブのワット数

項　　目		メンテナンスデータ
電　　球	W（ワット）数	ヘッドランプ（ロービーム）……35W（バルブタイプ＝D2S） ヘッドランプ（ハイビーム）……60W（バルブタイプ＝HB3） フロントフォグランプ……55W（バルブタイプ＝H11） 車幅灯……5W フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯（アンバーバルブ※1）……21W サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯（アンバーバルブ※1）……5W 番号灯……5W リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯（アンバーバルブ※1）……21W 後退灯……16W リヤフォグランプ★……21W マップランプ……8W フロントルームランプ……8W リヤルームランプ……8W ラゲージランプ……5W バックドアランプ……5W ドアカーテシランプ……5W バニティミラーランプ……1.4W グローブボックスランプ……LED※2 シフトレバー部照明……LED※2 尾灯……LED※2 制動灯……LED※2 ハイマウントストップランプ……LED※2

※1 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。
※2 LEDは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光素子です。

油脂類の容量と銘柄

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

項　目		容量［L］（参考値）	銘　柄
燃料（フューエルタンク）		65	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
冷　却　水	ガソリンエンジン用	10.3	トヨタ純正スーパーロングライフクーラント ●凍結保証温度 濃度30%　－12℃ 濃度50%　－35℃
	モーターおよびインバーター用	3.4	
ハイブリッド用トランスアクスルフルード		3.9	トヨタ純正オートフルードWS
リヤモーター用トランスアクスルフルード		1.8	トヨタ純正オートフルードWS
ブレーキフルード		―	トヨタ純正 ブレーキフルード 2500H

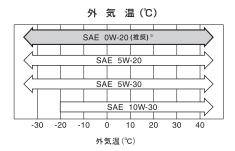
項　　目	容量［L］（参考値）		銘　　柄
	オイルのみ交換時充てん量	オイルとオイルフィルター交換時充てん量	
エンジンオイル	4.5	4.7	トヨタ純正モーターオイル SM 0W-20※ （API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 0W-20） トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 （API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 5W-30） トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 （API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 10W-30） トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 （API SL,EC SAE 5W-20） トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 （API SL,EC SAE10W-30）

※0W－20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■指定エンジンオイル
ＡＰＩ規格ＳＭ／ＥＣ、ＳＬ／ＥＣかＩＬＳＡＣ規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサック サーティフィケーション）マークが付いています。

ＡＰＩマーク

ＩＬＳＡＣ ＣＥＲＴＩＦＩＣＡＴＩＯＮマーク

●下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※0W−20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

ウォッシャータンク容量

項　目		メンテナンスデータ
ウォッシャータンク	容量［L］ （参考値）	4.5L

タイヤ・ホイール仕様

タイヤサイズ／項目		ホイールサイズ			
		リムサイズ		P.C.D.	オフセット量
		スチールホイール	アルミホイール		
標準タイヤ	225／65R17 101S		17×6 1/2J	114.3mm×5（穴）	35mm
	235／55R18 99H		18×7J		35mm
	235／55R18 99V		18×7J		35mm
応急用スペアタイヤ	T165／80R17 104M	17×4T			40mm

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧 ［kPa｛kg/cm²｝］
標準タイヤ	225／65R17 101S	220｛2.2｝
	235／55R18 99H	210｛2.1｝
	235／55R18 99V	230｛2.3｝
応急用スペアタイヤ		420｛4.2｝

車両仕様

<table>
<tr><th>名　称</th><th>型　式</th><th>エンジン型式</th><th colspan="2">電気モーター</th><th>駆動方式</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ハリアー
ハイブリッド</td><td rowspan="2">MHU38W</td><td rowspan="2">3MZ－FE
（3.3Lガソリン）</td><td>前輪用</td><td>1JM</td><td rowspan="2">4WD
（4輪駆動）</td></tr>
<tr><td>後輪用</td><td>2FM</td></tr>
</table>

ユーザーカスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ一覧

以下の機能をお客様のお好みにより、変更することができます。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

項目	機能の内容	設定 （太字が初期設定）
ワイヤレスドアロック（P.151参照）	作動完了時の非常点滅灯の点滅	**あり**／なし
	作動完了時のブザー	**あり**／なし
	半ドア警告ブザー	**あり**／なし
	解錠後のドアを開けなかったときの再施錠するまでの時間	**約30秒**／約60秒／約120秒
ドアロック※（P.158参照）	シフト連動オートロック	あり／**なし**
	シフト連動オートアンロック	**あり**／なし
	車速感応オートドアロック	**あり**／なし
	運転席ドア連動オートアンロック	あり／**なし**
パワーバックドア★（P.152、169参照）	自動開閉中のブザー	音圧大／音圧小／**なし**
	パワーバックドアスイッチの作動	**長押し**／短押し
	ワイヤレスドアロックリモコンの作動	**長押し**／短押し／2回押し／なし
	バックドアオープンスイッチの操作でバックドアを開けたときのアシスト開作動	あり／**なし**

※お客様自身で変更することができます。（トヨタ販売店でも変更できます。）

項目	機能の内容	設定 （太字が初期設定）
イルミネーテッドエントリーシステム （P.407参照）	“パワー”スイッチをＯＦＦにしたときの作動	**あり**／なし
	解錠時の作動	**あり**／なし
	消灯までのタイマー時間	**約15秒**／約7.5秒／約30秒
	足元照明・ドアノブ照明・シフトレバー部照明の調光	**あり**／なし
コンライト （P.301参照）	コンライトセンサーの感度調整	レベル1～5 **（レベル3）**
	コンライトシステムがランプを点灯するまでの時間	**標準**／長め
電動チルト＆テレスコピックステアリング （P.237参照）	オートチルトアウェイ＆リターン機能	**あり**／なし
雨滴感知式ワイパー★（P.306参照）	雨滴感知オート作動	**あり**／なし
	車速切りかえ機能	**あり**／なし
	液だれ防止作動	**車速に応じて可変**／約3秒後に1回作動／なし

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

初期設定が必要な機能

初期設定について

補機バッテリーを交換したときや、ヒューズが切れたとき、メンテナンスをおこなったときなど、補機バッテリーと車両との接続が断たれた場合には、下記の機能の初期設定が必要です。これらの機能は、初期設定をおこなわないと機能が正しく作動しません。

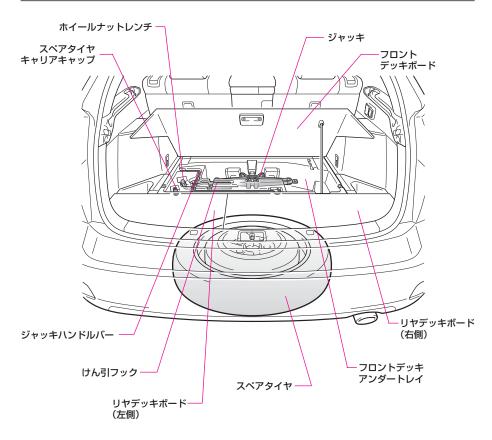
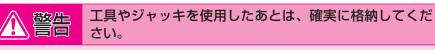
参照ページの説明に従って、それぞれ必要な操作をおこなってください。

項目	対処方法
パワーバックドア ★	P.174参照
パワーウィンドゥ	P.178参照
バックガイドモニター ★	別冊「ＨＤＤナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

★印はパッケージ等により装着の有無が異なります。

8 万一のとき

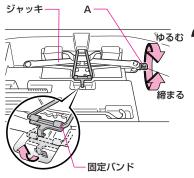
工具、スペアタイヤ、発炎筒

ジャッキ、工具、スペアタイヤの格納場所

ジャッキ、工具、スペアタイヤは、ラゲージルームに格納されています。
ジャッキ、工具の種類、発炎筒の使い方などは、万一のとき困らないように
あらかじめ確認しておきましょう。

工具やジャッキを使用したあとは、確実に格納してください。

- 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車に搭載されているジャッキはお客様のお車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外使用しないでください。

取り出し方

1 **フロントデッキボードを開けます。**
(P.406参照)
工具は、フロントデッキアンダートレイに格納されています。

2 **ジャッキを取り出します。**
固定バンドをはずします。
ジャッキのAの部分をまわしてゆるめ、ジャッキを取り出します。

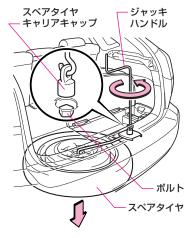
格納するときは、ジャッキをブラケットに合うまでAの部分を締めます。
固定バンドを取り付けます。

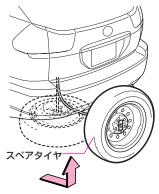
スペアタイヤ

取りはずし方

1 リヤデッキボード（右側）を開けます。

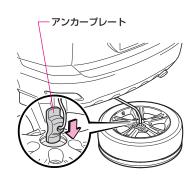
ボタンを押してリヤデッキボード（右側）を開けます。

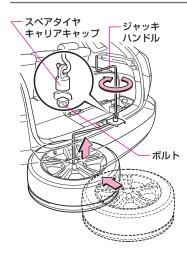
2 スペアタイヤキャリアのボルトのフタをはずします。

3 スペアタイヤを降ろします。

スペアタイヤキャリアキャップとジャッキハンドルを使用し、ボルトを左にまわしてスペアタイヤを降ろします。

4 スペアタイヤを引き起こします。

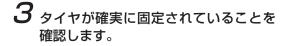
5 **スペアタイヤを取りはずします。**

スペアタイヤからアンカープレートをを取りはずします。

格納の仕方

1 **アンカープレートをはめます。**

ホイールのおもて面を上向きにして、ホイールの穴にスペアタイヤ格納具のアンカープレートをはめます。

2 タイヤを格納します。

タイヤを車両下側へ移動させ、スペアタイヤキャリアキャップとジャッキハンドルを使用して、ボルトを静かに右へまわします。
タイヤが地面から離れたときに、アンカープレートがホイールの穴に確実にはまっていることを確認してください。

3 タイヤが確実に固定されていることを確認します。

十分に巻き上げた後、ジャッキハンドルを右へ“カチッ”と音がするまで締め付けます。

4 スペアタイヤキャリアのボルトのフタを取り付け、リヤデッキボードを閉めます。

リヤデッキボードを“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

5 フロントデッキボードに工具を格納します。

⚠注意　**タイヤが確実に固定されていることを確認してください。**

- スペアタイヤを格納したあとは、タイヤが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。
- 必ずスペアタイヤの点検をおこない、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表またはP.513で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。
- スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしてください。
- 格納具からスペアタイヤを取りはずすときは、足の上などに落とさないようにゆっくりと降ろしてください。足などを挟みけがをするおそれがあります。

応急用タイヤについて

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

⚠警告　**応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。**

- 応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa ｛4.2kg/㎠｝
- 車に搭載されている応急用タイヤはお客様のお車専用です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様のお車に使用しないでください。走行に悪影響がでて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。標準タイヤに比べて直径が小さいので、次の事項に注意してください。

●応急用タイヤを装着しているときは、100km/h以上で走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。応急タイヤはできるだけ早く標準タイヤに交換してください。

●応急用タイヤを装着して突起物などを乗りこえるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時は標準タイヤ装着時に対し車高が変化します。同じ感覚で運転すると車をぶつけるおそれがあります。

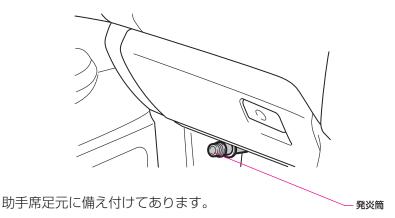
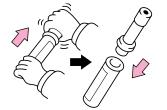
●応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側にあたったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪に付けてからタイヤチェーンを装着してください。

●応急用タイヤを装着しているときは、正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ＡＢＳ
- ブレーキアシスト
- ＶＳＣ
- ＴＲＣ
- ＶＤＩＭ
- インテリジェントＡＦＳ
- ＧＰＳボイスナビゲーション
- バックガイドモニター

また、電気式4WDシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えられるおそれがあります。

格納場所

助手席足元に備え付けてあります。

発炎筒の使い方

1 発炎筒を組み立てます。
本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。

2 着火します。
キャップの頭部のすり薬でこすると着火します。

発炎筒は正しく取り扱ってください。

- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使用中は、顔や体に向けたり、近付けたりしないでください。やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

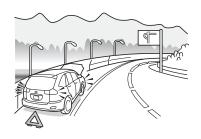
発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について

- 発炎時間は約5分間ですので、非常点滅灯を併用してください。
- 発炎筒には有効期間があります。
  本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店でお求めください。

故障したときは

路上で故障したときは

非常点滅灯（P.318の**「非常点滅灯スイッチの使い方」**参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず、路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務付けられています。）

緊急を要するときは発炎筒で合図します。
（P.528の**「発炎筒の使い方」**参照）

動けなくなったときは

踏切で動けなくなったときは

シフトレバーを**N**にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは、発炎筒を使用してください。

道路で動けなくなったときは

シフトレバーを**N**にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

●困ったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは

タイヤの交換

タイヤの交換については、P.70の「タイヤについての注意」をあわせてお読みください。

タイヤ交換するまえに

1 **平らな場所に移動します。**

交通のじゃまにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に移動します。

2 **パーキングブレーキをしっかりかけます。**

3 **ハイブリッドシステムを停止します。**

シフトレバーをⓅにして、ハイブリッドシステムを停止します。

4 **車の存在を知らせます。**

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 **ジャッキ・工具を取り出します。**

（P.522参照）

6 **輪止めを用意します。**

ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。
輪止めについては、トヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

7 **スペアタイヤを用意します。**

（P.523参照）

タイヤ交換の仕方

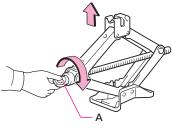
1 ジャッキを置きます。

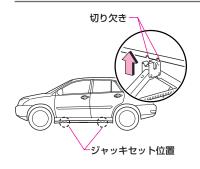
取りかえるタイヤに近いジャッキセット位置の下に置きます。地面が平らで固く、ジャッキが安定することを確認します。

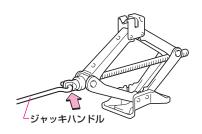
2 輪止めをします。

ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。
前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。（図は運転席側後輪を持ち上げる場合を示しています。）

3 ナットをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

4 ジャッキを上げます。

ジャッキのＡの部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。

5 ジャッキセット位置（切り欠きの間）にジャッキをかけます。

ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。

6 ジャッキハンドルを取り付けます。

ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に差し込みます。

7 ジャッキアップします。

ジャッキハンドルを右にまわしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

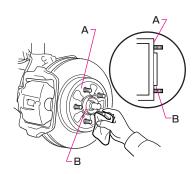
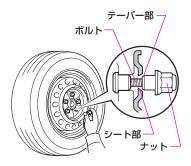
8 ナットを取りはずします。

手でナットを左にまわして、取りはずします。

9 タイヤを取りはずします。

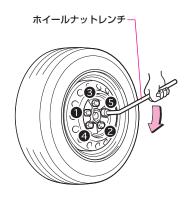
アルミホイールを直接地面に置くときは、傷が付かないように、ホイールの外側を上にして置いてください。

10 交換するタイヤを取り付けます。

●タイヤを取り付けるときは、ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取り付け面の汚れを拭き取ってから取り付けてください。

●図のＡ・Ｂ面の汚れを拭き取ります。

11 ナットを仮締めします。

タイヤが、がたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽くあたるまで仮締めします。
ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパー部（アルミホイールの場合、座金の裏側）の汚れ、異物を取り除いてください。

12 **車体を降ろします。**

ジャッキハンドルを左にまわして車体を降ろします。

13 **ナットを締め付けます。**

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2～3度にわたり十分締め付けます。

●締め付けトルク：
約103N・m {1050kgf・cm}

14 **工具・ジャッキ・タイヤを片付けます。**

15 **タイヤの空気圧を点検してください。**

（P.513参照）

パンクしたまま走行しないでください。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ、ディスクホイール、サスペンションや車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

●ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジャッキアップしているときは、ハイブリッドシステムを始動しないでください。ハイブリッドシステムの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●タイヤを取り付けるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。必要以上に締め付けるとボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。
つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締め付けても充分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。なお、輪止めの代わりに石などで代用する場合、タイヤを確実に固定できることを確認してください。
- 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
- ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
- 車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。

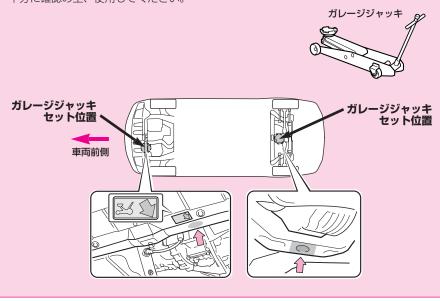
●ジャッキアップした車体を降ろすときは、作業者自身や周りの人が手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

●ホイール取り付けナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイール取り付けボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締め付けトルク：約103N・m ｛1050kgf・cm｝

●新品と交換するときは、4輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

車載されているジャッキ以外でジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になります。

●タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットを使用してください。

●車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

注意 **ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。**

●ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締め付けるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。
●センターオーナメントを取りはずす際は、十分注意してください。けがをするおそれがあります。
●ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取り付けナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
●ディスクホイール取り付けナットは、トヨタ純正アルミホイール専用品以外のものを使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
●ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締め付けないでください。タイヤを取り付けるボルトが折れるおそれがあります。
●傷、変形があるナット、ディスクホイールなどは使用しないでください。
●タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。

補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーあがりとは HYBRID

次のような状態が、補機バッテリーあがりです。

- “パワー”スイッチをＯＮモードにしても、メーターが表示されない。
- ハイブリッドシステムが始動できない。
- ヘッドランプがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さいまたは鳴らない。

処置の仕方

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、ハイブリッドシステムを始動してください。なお、救援車のバッテリーは12Ｖを使用してください。

1 ブースターケーブルをつなぎます。

補機バッテリーの⊕端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。

①自車の補機バッテリーの⊕端子
②救援車のバッテリーの⊕端子
③救援車のバッテリーの⊖端子
④次ページの図で指示している箇所（アースを取る。）

2 補機バッテリーを充電します。

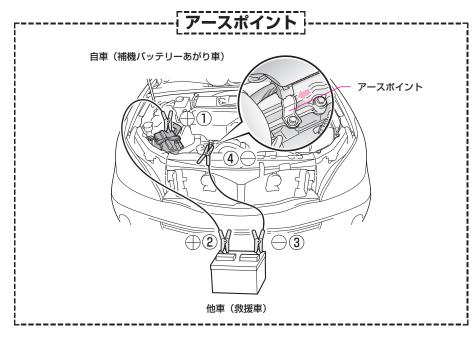
救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（補機バッテリーあがり車）の補機バッテリーを充電します。

3 ハイブリッドシステムを始動します。

- READY（走行可能表示灯）が点灯したことを確認してください。
- 走行可能表示灯が点灯せず、MAIN（駆動用電池警告灯）が点灯している場合は、駆動用電池もあがっているため、駆動用電池の充電が必要です。
  この場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

4 ブースターケーブルをはずします。

ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

アースポイント

補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムを停止したままランプをつけたり、ラジオ、ＣＤなどを聞かないようにしてください。
●READY（走行可能表示灯）が点灯している状態でも、渋滞などで長時間止まっている場合は、シフトレバーを🅟に入れるとともに、不必要な電装品の電源を切ってください。

警告　火気をバッテリーに近付けないでください。

●必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ④の接続は自車補機バッテリーの⊖端子につながないでください。補機バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
- ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
- 火気を補機バッテリーに近付けないでください。

●充電中は補機バッテリーに近付かないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
●ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどに触れたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●補機バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締め付けてください。確実に締め付けないと、走行中にクランプがはずれて、ショートするなどして車両火災につながるおそれがあり危険です。

注意　救援車のバッテリーは12Ｖを使用してください。

●他車（救援車）のバッテリーは12Ｖでなければなりません。12Ｖ用バッテリーであることを確認してからおこなってください。
●補機バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
●オートアラームをセットしたあとに、バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電・交換をする際は、オートアラームの警報、および強制的な施錠が作動する場合がありますので、ワイヤレスドアロックなどによりシステム作動可能状態を解除してください。キーの閉じ込み防止のため、車内にキーを放置しないでください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは HYBRID

次のような状態が、オーバーヒートです。
- ●水温計の針がレッドゾーンに入る。
- ●ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイに水温警告表示（P.298参照）が表示された。
- ●ボンネットから蒸気が立ちのぼる。

処置の仕方

1 車を止めます。

車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合はＯＦＦにします。

2 ボンネットの確認をします。

ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

■ボンネットから蒸気が出ていない場合

ボンネットを開けて、そのまま READY（走行可能表示灯）が点灯した状態にしておきます。

■ボンネットから蒸気が出ている場合

ハイブリッドシステムを停止します。蒸気が出なくなったら、風通しを良くするためにボンネットを開け、ハイブリッドシステムを始動します。

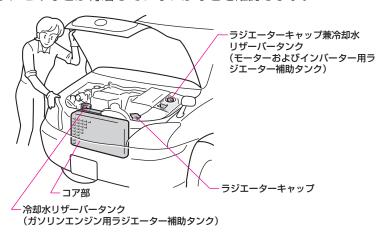
3 冷却用ファンを確認します。

ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときは、ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡してください。

4 ハイブリッドシステムを停止します。

水温計の針が下がってきたら、ハイブリッドシステムを停止します。

5 冷却水量などを確認します。

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ガソリンエンジン用とモーターおよびインバーター用のラジエーターとリザーバータンクの冷却水量の確認およびラジエーターコア部（放熱部）が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。

6 冷却水を補給します。

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給します。

●冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 トヨタ販売店で点検を受けます。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

●移動途中で再び水温計の針が上昇してきたときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にしてください。ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇をおさえることができます。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。

警告　やけどなどしないように十分気を付けてください。

●ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。

●ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーターキャップ、エア抜きバルブを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップ、バルブを包みゆっくりと開けてください。

●エンジンがまわっているときは、ファンやベルトなどに触れたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冷却水はハイブリッドシステムが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水はハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

けん引について

けん引の仕方 HYBRID

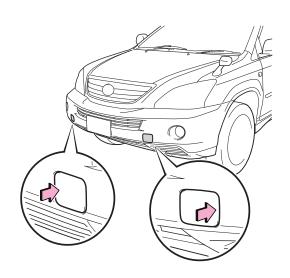
このけん引フックはけん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。

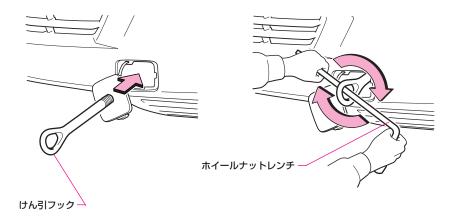
けん引してもらうときは、できるだけトヨタ販売店またはＪＡＦなどに依頼してください。
とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引される前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。

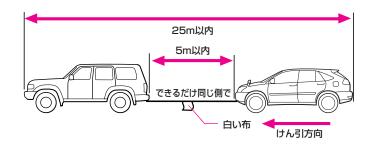
- READY（走行可能表示灯）が点灯しているのに車が動かない。
- 異常な音がする。

けん引してもらうときは

1 **けん引フック、ホイールナットレンチを用意します。**
（P.520の**「ジャッキ、工具、スペアタイヤの格納場所」**参照）

2 **けん引フック取り付け部のフタを取りはずします。**
フタの外側を押すとフタが浮き上がり、取りはずすことができます。

3 けん引フックを取り付けます。

ホイールナットレンチを使用して、けん引フックを確実に取り付けます。

4 ロープをかけます。

ボディに傷を付けないようにしてロープをけん引フックにかけます。
必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。
けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ず付けてください。

5 “パワー”スイッチをＯＮモードにします。

“パワー”スイッチの作動表示灯がオレンジ色に点灯していることを確認してください。

6 発進します。

シフトレバーを🅝にして、パーキングブレーキを解除します。

7 前の車に注意します。

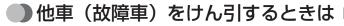
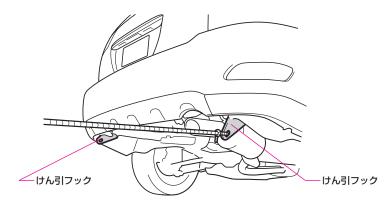
けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

●万一、ロープでけん引してもらう途中で車両に異常を感じた場合は、ただちにけん引を中止し、トヨタ販売店へご連絡ください。

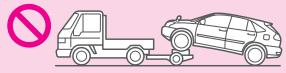
けん引が終わったら

ホイールナットレンチを使用してけん引フックをはずして格納します。

●けん引フック取り付け部のフタを確実に取り付けます。

他車（故障車）をけん引するときは

●けん引フックは、一般路上で故障した他車（故障車）をやむを得ずロープによりけん引をするためのものです。
●自車より重い車のけん引はできません。
自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

警告　車両が自走できない場合は、必ず4輪とも持ち上げて運搬してください。

●車両が自走できない場合は、必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。いずれかのタイヤが接地した状態でけん引すると、モーターから電気が発電され、破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

●けん引される車は慎重に運転してください。READY（走行可能表示灯）が点灯した状態になっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●“パワー”スイッチをＯＦＦにしないでください。ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●けん引する車両は急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。
また、万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

⚠注意　長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。

●長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
●けん引速度30km/h以下、けん引距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短い距離にとどめて、前進方向でけん引してください。この速度をこえたり、距離の長いけん引または後進方向でのけん引をすると、ハイブリッドシステムに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらの場合は車両積載車などにより4輪とも持ち上げて運搬してください。
●スタック脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。
●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷が付くおそれがあります。
●スタック※したときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。

※ ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

事故が起きたときは

あわてずに次の処置をおこなってください　HYBRID

1 **続発事故を防止します。**

他の交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、ハイブリッドシステムを停止します。高電圧が各ユニットにかからないようにするため、車両の状態を次のようにしてください。

●ブレーキペダルを踏み、シフトレバーをⓅにする。
●パーキングブレーキをかける。
●“パワー”スイッチをＯＦＦにする。

2 **負傷者がいる場合は、応急手当をおこないます。**

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当をおこないます。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

3 **警察への届け出をします。**

4 **相手方の確認とメモ（氏名、住所、電話番号）を取ります。**

5 **ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。**

車両を緊急停止するには

緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 **ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。**
ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 **シフトレバーをⓃに入れます。**

■シフトレバーがⓃに入った場合

3 **減速後、車を安全な道路脇に停めます。**

4 **ハイブリッドシステムを停止します。**

■シフトレバーがⓃに入らない場合

3 **ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。**

4 **“パワー”スイッチを3秒以上押し続けてハイブリッドシステムを停止します。**

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

5 車を安全な道路脇に停めます。

走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは、次のことをお守りください。
走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは、十分に減速するようにしてください。ハイブリッドシステムを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

さくいん

さくいん

五十音さくいん

症状から調べたいときや、万一のときの処置については、色付き文字の項目をご覧ください。

せ

そ

た

ち

て

と

な

に

ね

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

み

む

め

ゆ

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
お車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

よ

ら

り

る

れ

ろ

わ

ハイブリッド さくいん HYBRID

ハイブリッドシステムについての注意事項

始動と運転の仕方

ハイブリッドシステムについての解説

環境にやさしい経済的な運転

事故が起きたときは

ハイブリッド特有の説明がある項目 HYBRID

警告灯さくいん

＊メータ内のドット表示式マルチインフォメーションディスプレイに表示される警告については、P.294を参照してください。

ハリアーハイブリッド

リ-37

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール
フリーコール 0800-700-7700
オープン時間 365日 9:00～18:00
所在地 〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

●印刷 IC-2010年８月19日 ●発行 -2010年８月26日 初版

M 48B23
01999 — 48B23